

令和6年度 実践集録

「働く力」の育成を目指した実践
～専門教科や寄宿舎生活での取り組み～



令和7年 3月

岩手県立盛岡峰南高等支援学校

巻頭言

校長 矢 鳴 慶 之

「働く力」の育成を目指した授業実践である。昨年度の研究「新しい時代の働く力の組織的理
解」を踏まえ、今年度は、確かな働く力を身につける生徒を育成するための指導や支援の工夫を探
ることが目的である。「働く力」が具体的に明確になり、それを効果的に身に付けさせる実践方法
を共有し、生徒の変容について教職員が言語化できることが実践研究のひとつの成果である。

本校の今年度の学校評価アンケート結果では、学校教育全般に対して概ね肯定的な意見は多い。
満足度が高いことは生徒や保護者との共通理解を図りながら教育活動を推進していることに他なら
ないが、学力の定着度と満足度が乖離しないように調和のとれた教育実践が望まれる。特に、教
職員のアンケート結果から「卒業後の生活に必要な読み書き計算など基本的な学力の定着」が課題
であることが明らかになったが、改善のためには日頃の学習活動が計画どおりに実施され、全体指
導力を高め、個に応じた指導をバランス良く適切に実施していることが前提である。その上で、多
角的な視点から効果的な学習方法を導きだし、生徒の知的好奇心を維持しながら、個に応じた適切
な反復学習が基本的な学力の定着につながるものと考えられる。

社会で求められる人材像や能力は、その時代や環境により異なる。他方で、長期に渡り変化しな
い基本的要素も多分に存在する。「働く力」について、本校の専門教科ごとの多少の違いはあるも
のの、本校としてのスタンダード、不易流行について改めて考察することが、変化し続ける社会に
対応できる「働く力」の育成につながるものと考えられる。しかし、現在のように変化の激しい時
期にあっては、求められる能力を定義していくことは容易ではない。多くの本校卒業生がこれから
何十年の期間、社会を支える存在であり続けることを考えると、「現在」よりも「将来」の社会環
境を見渡し社会が求める人材像を導き出しながら「働く力」を模索することが必要である。

生徒は社会に踏み出せば、学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための能力として、
「課題発見・解決力」、「コミュニケーション能力」等、職場や地域社会の中で生きていく上で必
要な基礎的な能力は明確であり、社会人としての基礎力として括られるこれらの要素は本校生徒に
も求められるものである。

経済産業省では社会人基礎力を、「前に踏み出す力（主体性・働きかけ力・実行力）」、「考え
抜く力（課題発見力・計画力・創造力）」、「チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把
握力・規律性・ストレスコントロール力）」として、12の要素からなる3つの能力として定義し、
共通言語として発信している。

この能力とは、本校卒業段階でこれらの全てを高度に身に付けるものではない。これらは就業
後、職場でも継続的に高めていくものであり、高等部段階では、これらを獲得していく資質や能力
を高めることが求められている。例えば、仕事や困難な物事に対峙するとき、前向きな態度で課題
を確認し周囲と相談しながら丁寧に対応し続けることのできる生徒はその模範の一つではなかろう
か。

生徒に郷土への誇りや愛着を育むとともに、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を総合
的に兼ね備え、変容する社会に適応し、社会を創造するための「生きる力」を身に付けること、そ
のなかの確かな学力の育成については、「知識及び技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」
の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養することが求められている。未知のものに積極的か
つ主体的に興味・関心を抱き、理解を深めたいと思うなどの好奇心を持たせることや、生徒と実社
会との関わりという観点から、社会の仕組みと個人の関わりについて理解を深めさせ、勤労観・職
業観を育成し、生き方・在り方を考えさせることを期待したい。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、執筆、編集にあたられた関係の皆様に感謝申し上げ
ます。

<目次>

巻頭言 校長 矢鳴 慶之

I 研究テーマ	1
II 研究テーマについて	1
III 研究の目的	1
IV 研究の内容	1
V 研究計画（概要）	2
VI 研究構想図	3
VII 研究実践	4
1 主な取り組み	4
（1）就業体験実習評価票の集計から	4
（2）授業参観アンケートから	8
（3）生徒が考える働くために必要な力	8
2 専門教科の取り組み	9
生活科学科	9
農産技術科	13
加工生産科	19
流通・サービス科	23
3 寄宿舎の取り組み	28
VIII 研究のまとめ	47
資料	
資料1―① 就業体験実習評価票	51
資料1―② 授業参観アンケート結果	52
資料2―① 生活科学科 学習指導案	65
資料2―② 農産技術科 学習指導案	72
資料2―③ 加工生産科 学習指導案	75
資料2―④ 流通・サービス科 学習指導案	81

I 研究テーマ

「働く力」の育成を目指した実践
～専門教科や寄宿舎生活での取り組み～

II 研究テーマについて

本校は、高等部のみの支援学校として、3年間という限られた教育年数のなか、キャリア教育や専門教科の実践を積み重ね、本校教育目標の実現を目指している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことや生徒の実態も変容してきていることを踏まえ、テーマに掲げていた「新しい時代の働く力の組織的理解」については昨年度までとした。また、実践であがった課題の改善や成果の継続・共有を行い、全体で「働く力」を向上することすなわち実践が重要と考え、今年度から新しいテーマで取り組むことにした。

「働く力」については、過去の本校の取り組みのなかで数度確認してきた。「働く力」を以下の3点とし、この力の向上を目指し実践を重ねている。

- ① 働くことの意義を理解し、働く場があることに感謝することができる。
- ② 成長を目指し、他者からの教えを素直に受け止めることができる。
- ③ 挨拶や報告、連絡、相談などの必要なコミュニケーションをとることができる。

III 研究の目的

各専門教科及び寄宿舎において、確かな「働く力」を身につける生徒を育成するために、指導や支援の工夫を探る。

IV 研究の内容

- 1 「働く力」について、各科及び寄宿舎で確認し、どのような力について伸ばしていくか、科や寄宿舎内で共通して授業実践に取り組んでいく。
- 2 各専門教科間の授業参観をとおして、教員同士が学びあうために授業研究会を実施する。
- 3 「働く力」についての理解を深め、授業実践の一助とするために、研修、視察等、先行事例について情報を収集し、本校の実践に取り込む。

V 研究計画（概要）

今年度の研究計画を表1に示す。

【表1 研究計画】（日にち）

月	全校研究会・グループ研究会等	主な研究活動
4	全校研究会①（30）	研究主題、概要の確認
5	専門教科研究日（13）（30） 職員会議（20）	科の成果と課題を確認 授業研究会の確認
6	授業見学週間（前期実習期間）	専門教科の授業見学 アンケート集約
7	専門教科研究日（3） 研究授業 加工：遠藤大河教諭（5） 全校授業研究会①（5） 研究授業 生活：沼崎悠華教諭（8） 全校授業研究会②（8） 研究授業 農産：高橋恵子教諭（16） 全校授業研究会②（17）	指導案の検討等 「働く力」を育成する授業実践
8	高教研講演会（2） 専門教科研究日（19）	「知的障がいのある生徒のメンタルヘルスの理解と支援」研修
9	専門教科研究日（7） 研究授業 流通：藤原崇行教諭（17） 全校授業研究会④（17） 授業見学週間（後期実習期間）	指導案の検討等 「働く力」を育成する授業実践 専門教科の授業見学 アンケート集約
10	授業見学週間（後期実習期間） 専門教科研究日（17）	専門教科の授業見学 アンケート集約
11	専門教科研究部（6） 2年目研修研究授業 音楽：村里明香教諭（7）	指導案の検討等 教科の授業実践
12	専門教科研究日（16） 研修報告会①（23） 寄宿舍研修会（23）	研修報告
1	専門教科研究日（14）	各科、寄宿舍実践のまとめ
2	2年目研修研究授業 共通キャリア「進路」：熊谷一葉教諭（3） 全校研究会②（13）	指導案の検討等 教科の授業実践 今年度の研究のまとめ
3	全校研究会③ 研修報告会②（10）	次年度の研究について 研修報告

VI 研究構想図

本校教育目標

自立と社会参加を目指して、たくましく生きる生徒

中長期目標

専門学科のみの高等支援学校としてキャリア教育を実践し、進路実現を図る

目指す姿

自分の未来に希望をもち、働く意欲をもつ生徒

自分の力を存分に発揮し、自己有用感をもって社会（職場）に貢献する生徒

本校の「働く力」

働くことの意義を理解し、働く場があることに感謝する力

成長を目指し、他者からの教えを素直に受け止める力

挨拶や報告、連絡、相談などの必要なコミュニケーションをとる力

職業教育として三方よしの方向性を志向

生活科学	農産技術	加工生産	サービス	流通・	寄宿舎
専門教科（「主として専門教科において開設される教科」）					舎生活

研究テーマ

「働く力」の育成を目指した実践

～専門教科や寄宿舎生活での取り組み～

VII 研究実践

1 主な取り組み

(1) 就業体験実習評価票の集計から

ア アンケート結果

昨年度に引き続き、以下の目的でR 6年度分の就業体験実習評価票を上位項目でまとめた。表2がR 6年度分、表3、4が昨年度の研究でまとめたR 5年度、R 4年度の集計結果を示す。また、図1に各科のA評価の割合比較（R 5年、R 6年度分）をグラフで示す。就業体験実習評価票の様式は資料1 - ①参照。

目的：就業体験実習評価票の評価を項目ごとに集計し、本校生徒の身につけている力、不足していると思われる力について明らかにする。

対象：令和6年度に就業体験実習を行った2、3年生の生徒

内容：就業体験実習評価表の項目ごとに、A B C Dの4段階評価を集計

【表2 就業体験実習評価集計結果 R 6】

身につけていると思われる力	不足していると思われる力
・作業にあった服装・身だしなみができる (B) ・指示どおりに取り組むことができる (A) ・決まりを守ることができる (B)	・工夫して取り組むことができる (A) ・正確に作業することができる (A) ・注意を素直に聞くことができる (C)

【表3 就業体験実習評価集計結果 R 5】

身につけていると思われる力	不足していると思われる力
・作業にあった服装・身だしなみができる (B) ・指示どおりに取り組むことができる (A) ・決まりを守ることができる (A)	・工夫して取り組むことができる (A) ・正確に作業することができる (A) ・注意を素直に聞くことができる (C)

【表4 就業体験実習評価集計結果 R 4】

身につけていると思われる力	不足していると思われる力
・作業にあった服装・身だしなみができる (B) ・注意を素直に聞くことができる (C) ・決まりを守ることができる (B)	・工夫して取り組むことができる (A) ・正確に作業することができる (A) ・注意を素直に聞くことができる (C) ・慣れるに従って習熟する (A)

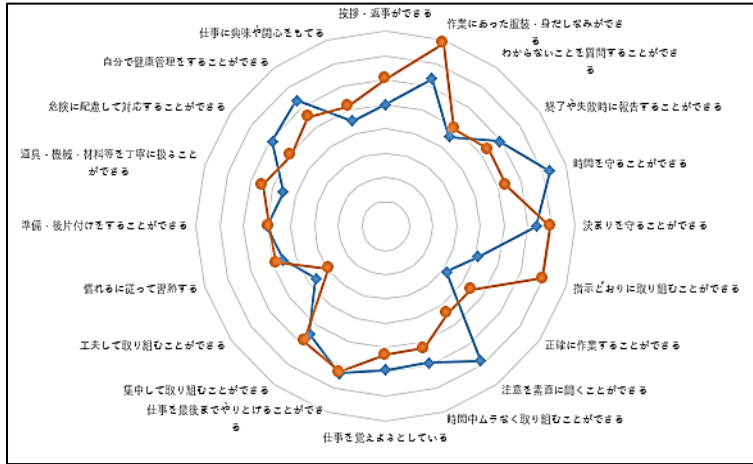
※ () 内は以下の項目区分 A職業適性 B基本的労働習慣 C対人・コミュニケーションスキル
D日常生活管理・健康管理・自己コントロール

※ 網掛け箇所は、R 4からR 6年度まで連続で出現した項目

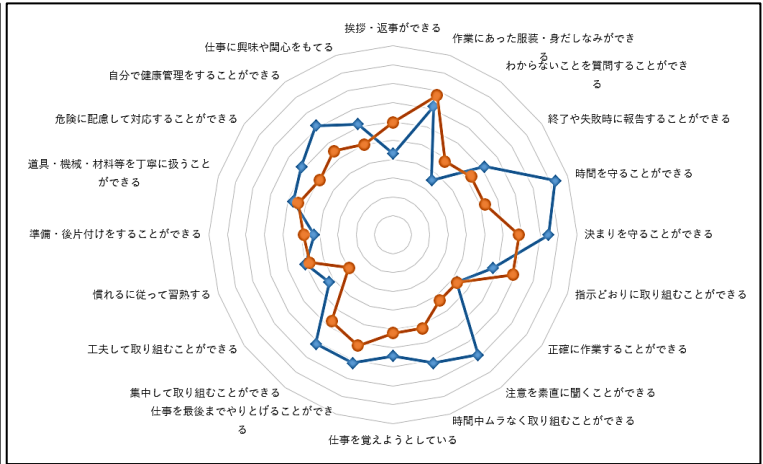
【図1 各科のA評価の割合比較表 R5 R6】

生活科学科

R5

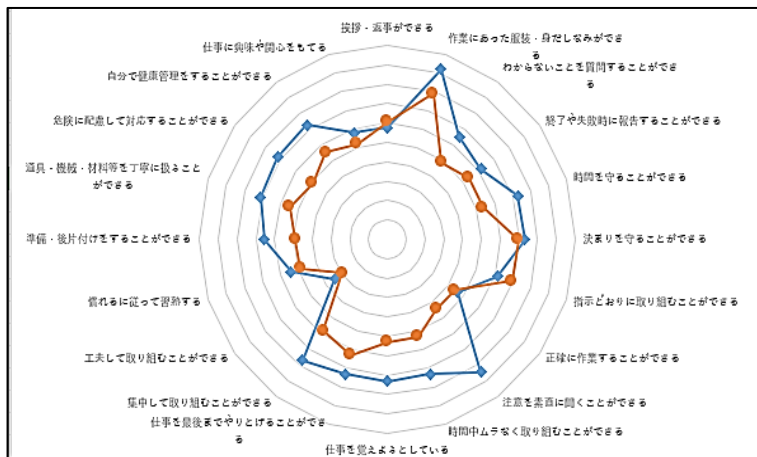


R6

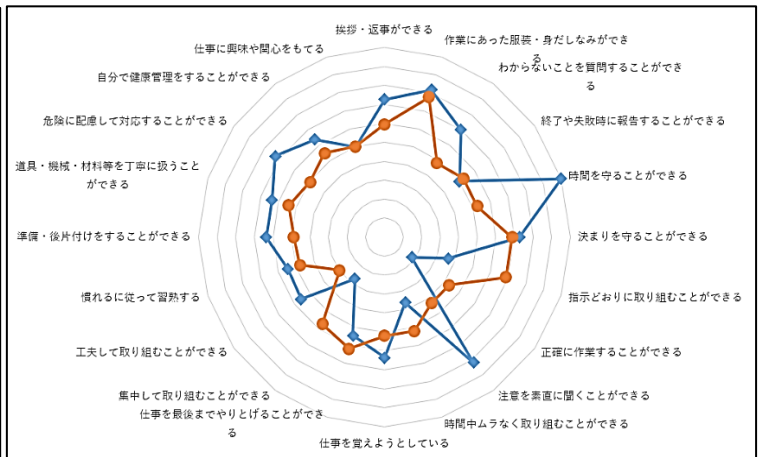


農産技術科

R5

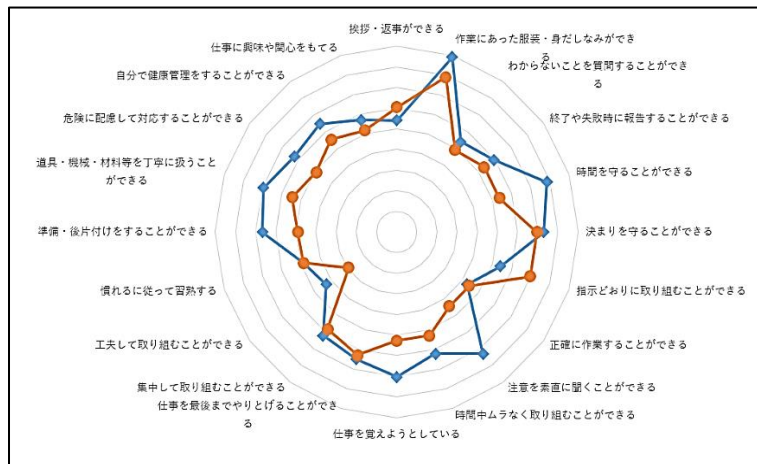


R6

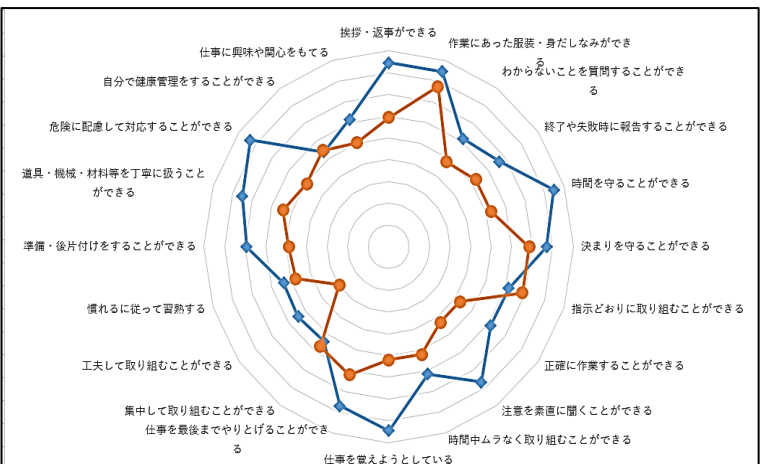


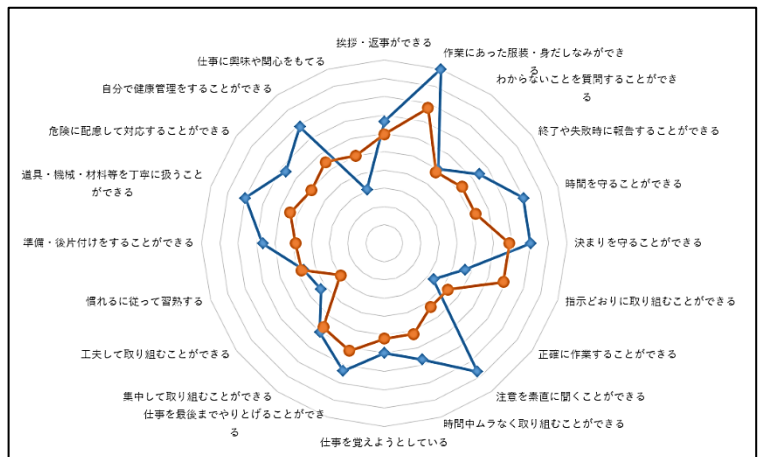
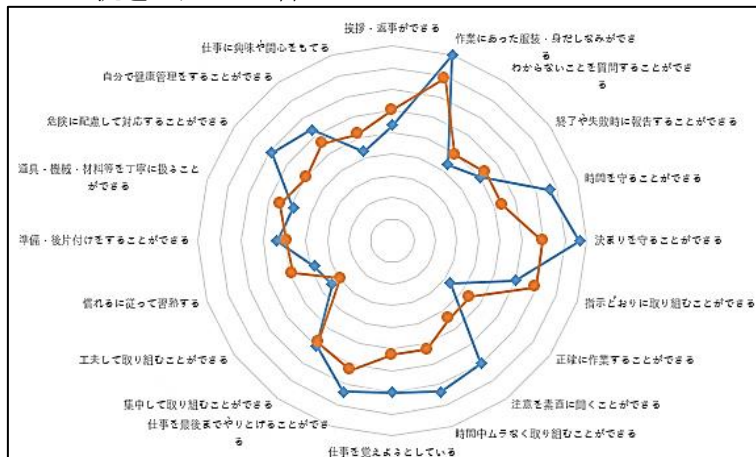
加工生産科

R5



R6





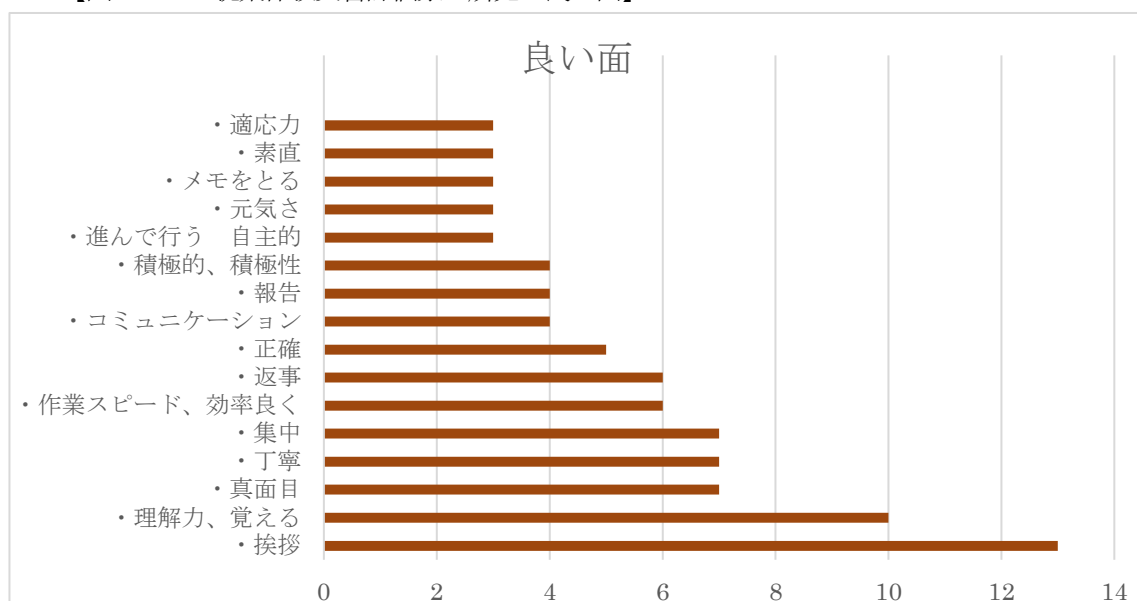
が全体の平均、 が科の平均

表2、3、4から、一番身につけている力は「作業にあった服装・身だしなみができる」「決まりを守ることができる」が過去4年間出現しているので、この二つの項目と考える。また、R5とR6の過去2年間で「指示どおりに取り組むことができる」も出現しているので、身につけている力と考える。

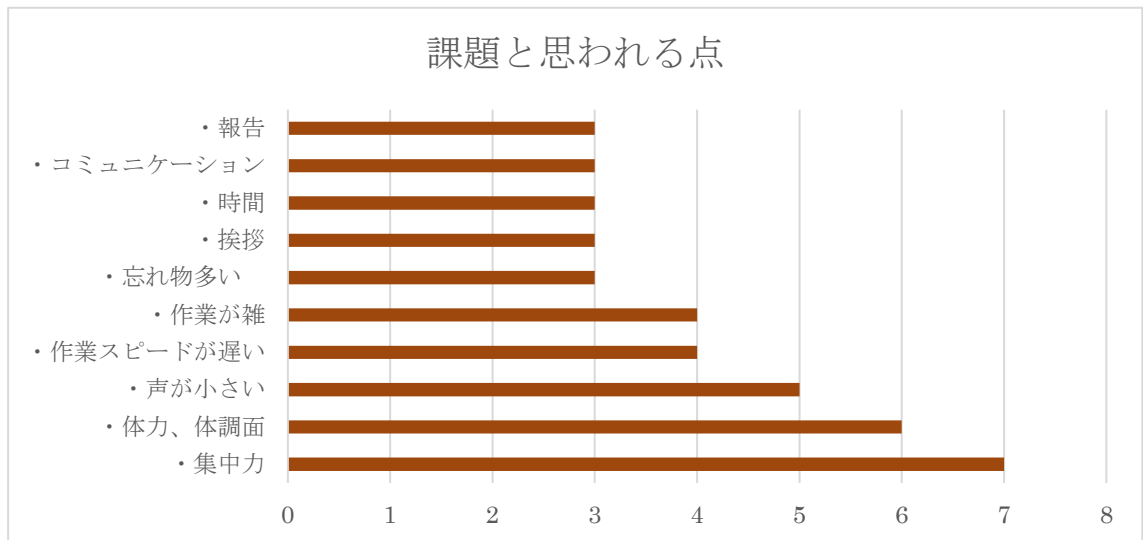
不足していると思われる力は「工夫して取り組むことができる」「正確に作業することができる」「注意を素直に聞くことができる」の項目が、4年連続上位項目であった。但し、昨年度同様実習先の回答から、「工夫するほどの期間取り組んでいない」との記述やこの項目自体無回答の実習先も多数あるため、点数が低いと考える。次の上位項目である「正確に作業することができる」「注意を素直に聞くことができる」項目を強みにできるように取り組みを行っていけばよいのではないかと考える。4年前の実践で、峰南の生徒の強みは「素直さ、礼儀正しさ、理解力」とあったが、素直さがここ数年弱みになっているのではないかと考える。

また、R6年度の就業体験実習評価票の所見欄に記述してある「良い面」と「課題と思われる面」をまとめ【資料1-②】、出現回数の多い言葉をグラフ化した。【図2、3】
良い面で「挨拶」が上位項目にあるが、反面課題面で「挨拶の声が小さい」「他の部署の人とは挨拶しない」など、挨拶面に課題があることが分かった。

【図2 R6就業体験実習評価票 所見 良い面】

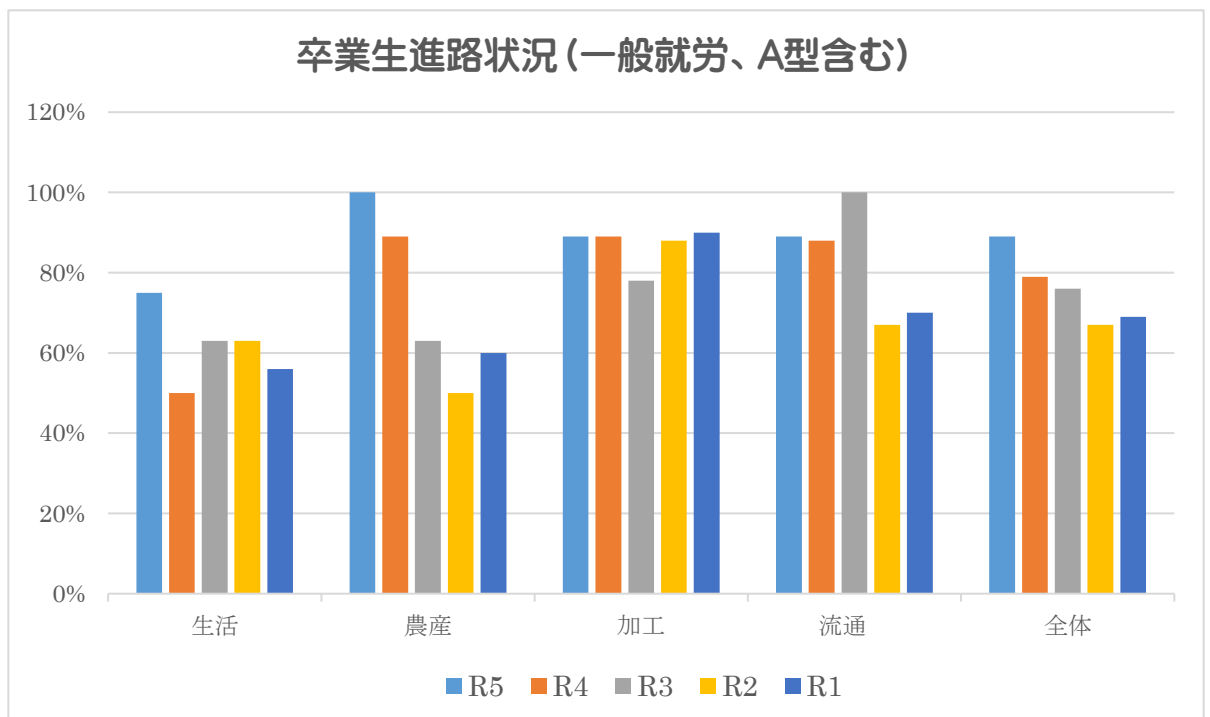


【図3 R6就業体験実習評価票 所見 課題と思われる点】



また、進路支援部がまとめている卒業生進路状況（R1～R5）をグラフ化したものを以下図4に示す。グラフからも分かるように、一般就労（A型含む）率が年々上昇していることから、実践の成果が上がってきていると考える。

【図4 卒業生進路状況】



(2) 授業参観アンケートから

前期、後期就業体験実習中に授業見学期間を設定し、所属以外の科・班の授業を見学し、アンケートに回答してもらった。アンケート集約は資料1 - ③に示す。

他の科の取り組みや工夫が参考になったり、生徒の実態把握ができたりと授業改善につながっている。

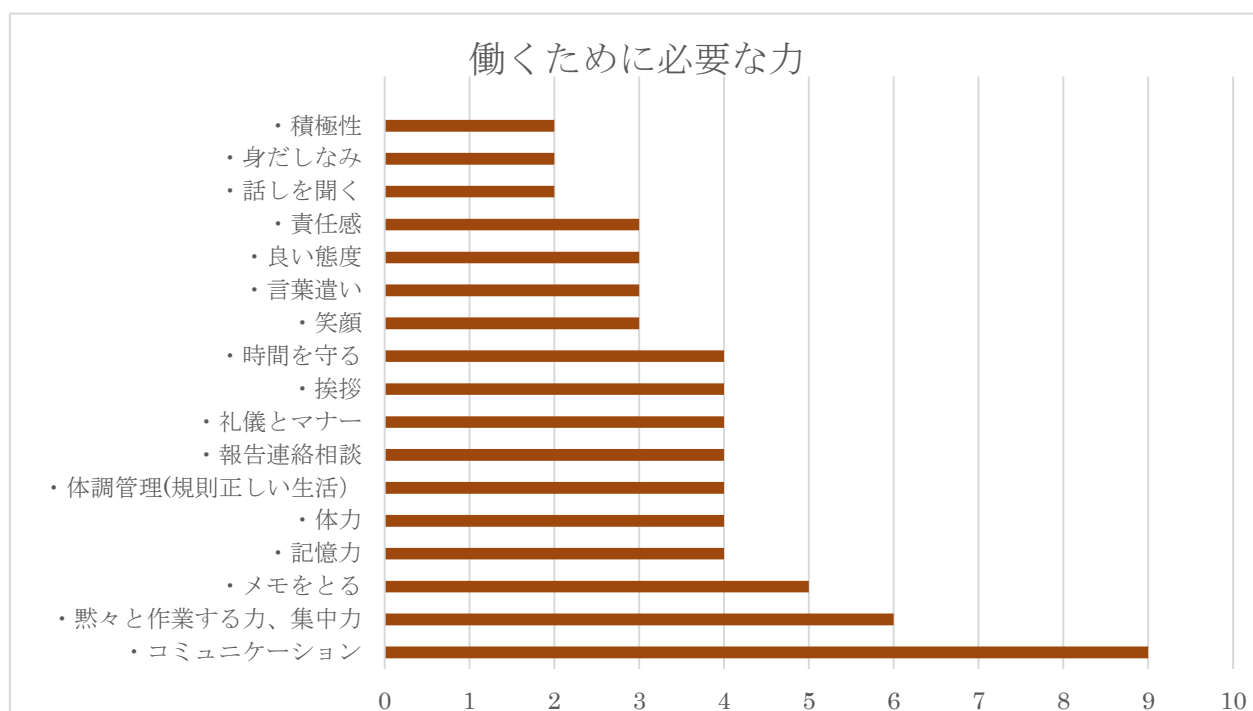
(3) 生徒が考える働くために必要な力

生徒会執行部では、生徒総会の「みんなのしゃべり場」において毎回テーマを決め話し合っている。生徒総会に向けて、各学級でテーマについて話し合い意見をまとめ、生徒総会で発表を行っている。

今年度の前期生徒総会「みんなのしゃべり場」のテーマの一つが「働くために必要な力は何か」であった。実践で「働く力」について取り組んでいることから、生徒指導部の協力のもと12学級の意見をキーワードでまとめグラフ化したのを図5に示す。

グラフから、生徒が考える働くために必要な力は、コミュニケーションが一番多いことが分かった。これらの結果からも生徒が考える働く力と本校の求める「働く力」と相違ない考える。

【図5 生徒が考える働くために必要な力】



2 専門教科の取り組み

生活科学科の取り組み

(1) 昨年度の成果と課題から

生活科学科では、「主体的に作業に取り組むことができる生徒」「正確に作業ができる生徒」を目指し、いくつかの取り組みを行ってきた。昨年度の成果と課題は表1のとおりである。今年度は課題にある2点と、成果に上がった点に引き続き取り組んでいくことを確認し、授業実践を行った。

【表1 生活科学科の成果と課題】

成果	・外注品を多く受け量を視覚的に感じる事ができた。また、売り上げ計算を行い、自分たちがいくら分の仕事をしたのかを感じる事ができていた。 ・1か月の目標を決めるときに、生徒同士での話し合いやまとめが成立している。また、話し合いに慣れてきたことで、役割分担や協力体制の取り方について、話し合っすぐに実践できるようになってきている。 ・博物館との連携で外への活動、関わりができたことは生徒にとって大きな経験になったと感じる。自分がしている仕事が社会に役立つことをより身近に感じられたと思う。
課題	・クリーニングや縫製で専門を学ぶが、身につけた力を社会で発揮してスムーズに般化させていくこと、生活に移行していくこと。 ・正確な作業の定着を図り、自信をもって作業に取り組む姿を目指し、技術面の校内検定（テスト）の効果的な取り組みの検討。

(2) 「働く力」を育てる授業実践

ア 研究授業について

(ア) 概要

日時：令和6年7月8日（月）2～4校時

授業者：沼崎悠華（T1） 高橋勝子（T2）

対象：生活科学科2年生3名（3年生3名）

題材名：異素材を組み合わせた製品製作「裂き織り巾着」

(イ) 授業の実践 学習指導案【資料2-①参照】

本時では「裂き織り巾着」製作の場面を取り上げ、正確な作業を行うために作業のポイントや、報告や確認が必要な場面を最初に全体で確認し、生徒と職員とで共通認識をもって作業に取り組むことができるようにした。また、段階ごとの見本を提示し、分からないときに生徒自身で確認することができるようにした。

(ウ) 授業研究会より

○協議の柱1「働く力を育成する授業について」

生徒は外部実習を経験しているが、働くイメージをもてていないようで「働きたい」という気持ちが育っていないと感じる。働く意欲を高め、コミュニケーション力を高めるためにはどうしたら良いか、皆さんはどのような取り組みをしているのかを知りたい。

今回、一つの製品を完成させるまでにどれくらい時間がかかるかを自分で把握し、得意なことを分担して皆で作業をすることでコミュニケーション力を上げたいと考えた。

<良かった点>

- ・朝礼を全学年一緒に行うことで、1年生には2・3年生の姿を見て学んでほしいという意図が感じられた。
- ・授業の雰囲気、働く場のような緊張感をもって行われていた。
- ・作業前に目標の提示をして、注意することや大事なポイントを示範しながら詳しく説明していた。
- ・マナー、礼儀が身についている。挨拶や報告、連絡、声掛けが徹底されていた。
- ・生徒は、分からないことを自ら教師に尋ねていた。

<改善点>

- ・製品の仕上がりについて、生徒間で仕上がりを確認し合うことをやってみてはどうか。
- ・どの程度作られていれば製品としての合格ラインかが分かっている生徒が、仲間が製作している製品を見て教え合う機会があっても良いのではないかな。

○協議の柱2「生徒が正確な作業ができるようにするための支援の手立てについて」

生徒は日頃より「多分こうではないか」という予測で作業を進める様子が見られ、自分で確認しないまま教師に製品を見せにくるが、そのような姿が「正確な作業」ではないと感じている。「正確さ」のとらえ方について生徒は困っているのではないかと考えて、年度当初4月にアンケートをとった。しかし結果は3人とも「(自分の)作業は正確にできている」と回答した。これを踏まえ「手順書どおり、見本どおり」が「正確」であると伝えようと思い、今回の授業作りをした。

<良かった点>

- ・用意されていた手順書は、見やすく分かりやすいものだった。

<改善点>

- ・指導者が見本や手本を示したり、具体的なことばで説明したりするなど、支援の方法を変えることで理解できることがあるかもしれない。どの支援がヒットする生徒なのか、また、対応の仕方で変わるかもしれないので、方法を探りながらやっていくのが良いのではないかな。
- ・正確な判断をするには繰り返しの経験が必要と考える。分かったふりではなく、確かに理解しているのかを確認しながらやっていくことも大事である。

○助言者から(高橋 奈津子 副校長)

- ・分かりやすい指導案で、指導案どおりの授業であった。1時間遅れになったという話

だが、指導案をきちんと書いているからこそ気づけることである。生徒は焦らず取り組んでおり、この強みを育てていくとよい。

- ・学級の雰囲気をみると、普段からの学級づくりが良いと感じる。
- ・手順書にメモをとらせる活動もよかった。
- ・連続して取り組み、積み重ね、熟練するための時間も大事である。
- ・「完璧」と「OK」の基準はあるのか、教師側で決めておけると良い。
- ・本当に面白いと向上心につながる。授業の中の面白みで意欲を高めることができる。

○講評（矢鳴 慶之 校長）

- ・丁寧さと細やかさを感じる素晴らしい授業だった。また、良い指導案であった。
- ・作業を考えると、作業のベストを模索することが大事である。
- ・私は書道が専門で、大筆は立って書くとききやすい。小筆は座ったほうが良い。書いて立って、離れて見てみて…などをやってみる。作業を正確にできるのはどんな姿勢が模索すると良い。
- ・「どれが良くできている？」「どのように工夫した？」のように生徒同士で確認し合う場面があると力がつくのではないかな。

イ 生徒の主体的な行動を促すための取り組みについて

<博学連携の経緯>

生活科学科では、専門教科の「職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」という目標を踏まえて、昨年度から岩手県立博物館と連携し、作業をとおして地域貢献活動に取り組んできた。クリーニング班は、体験学習コーナーで使用されている衣装や収蔵品を保護する養生マットのクリーニング、縫製デザイン班は体験学習コーナーで展示されている雫石あねっこ装束の帯（裂き織り）の製作・寄贈を行い、生徒たちは、自分たちの仕事が、誰かの役にたち、地域貢献につながっていることを体験し、自己有用感をもって作業に意欲的に取り組むようになってきた。

<今年度の活動>

今年度は、引き続き博物館の展示に関わるもののクリーニングや、雫石あねっこ装束用の帯の製作を行う他に、博物館から「館の体験コーナーをより多くの方に利用してもらうための企画を共同で考えてほしい。」との依頼があり、博物館の出張授業の中で「利用者が楽しめる体験コーナー」を目指し話し合いを持った。生徒からは、装束の着用の仕方の表示についてや、体験コーナーの啓蒙啓発について、部屋の装飾について、利用者が楽しめる企画について（低学年用塗り絵の製作、写真スポットの設置）など意見が出され次年度実践に向けて活動する予定である。

<生徒の変容>

これまでの活動の中から、作業に対する積極性を引き出すことができたと感じている。そ

して今年度、体験コーナーの企画をいただいたことでより主体的に活動する姿がみられるようになった。例えば縫製デザイン班では、小さい子供にも着用して楽しんでほしいと帯の幅を変え、小さいサイズを織りたいと帯の製作を申し出る生徒や、峰南祭でも装束を展示、着用して紹介してはどうかという意見を出す生徒がいて、主体的な活動に変わりつつある。また、クリーニング班では、体験実習コーナーの衣装等をクリーニングしているが、普段取り扱っていない特殊な衣類の素材についても気を配り、手洗いに丁寧に取り組む努力がみられた。このことから生徒は地域貢献活動を担っていることを知り、自分たちが前向きに変わっていくことで周囲の人たちや自分たちの働く環境を変えていけることが伝わってほしいと考える。

(3) 成果と課題

ア 成果

<作業の段階表や達成目標の提示について>

- ・生徒は、前日または前回の自己反省や教師の評価をふり返り、課題を意識した目標設定ができた。
- ・見やすい場所のホワイトボードに目標個数や分担が書かれてあることで、授業後生徒が自主的にそこに集まって、目標までの残りの個数や、次の時間の分担について話し合う様子がみられた。
- ・作業工程順に書かれてある進行チェック表があることで、見通しがもちやすく生徒同士作業の分担をスムーズに行っていた。



進行チェック表

<書き込み式の手順表の活用について>

- ・教師の助言や、作業工程のポイントを自発的に手順書に書き込み、作業手順や仕上がりを生徒自身が判断できるようになった。
- ・手順書を活用して作業することにより、教師の指示は最小限に、ポイントを明確にして作業を進めることができた。
- ・その日の役割における手順について手順書をみて確認して、慣れてくると手順書を見なくても作業を工夫し、自分の力を存分に発揮することができた。
- ・日誌に取り組みの様子を具体的に反映することができる生徒が増えた。

作業項目	目標個数	分担	備考
名刺入れ	35	2	
名刺入れ	69	23	
名刺入れ	10	7	
名刺入れ	14	13	
名刺入れ	30	17	
名刺入れ	4	2	
名刺入れ	33	11	
名刺入れ	0	0	
名刺入れ	7	6	
名刺入れ	16	6	

目標個数・分担ボード

<その他 働く力の育成全般について>

- ・繰り返し工程を学習することで技術が向上し、生徒の実態や得意分野をいかした適材適所の役割分担ができていた。生徒同士で話し合って決めた分担は、粛々と進めていた。
- ・接客、売り上げ計算、生徒が協力して作業する体制ができていた。
- ・ミシン、手縫いの校内検定への取り組みは、正確な作業につながっていると考える。できることとできないことを共通理解する良い機会だった。
- ・評価表や実習期間中の授業参観シートを基に専門教科の授業検討を推進することで、目指す姿や共通しておさえていくべき視点を共有することができた。
- ・体力面、あいさつの仕方について伸びている生徒が多くみられた。伸びをほめながら、今後も支援していきたい。

イ 課題

<作業の段階表や達成目標の提示について>

- ・ クリーニング班全体として段階表をうまく活用していない。目標や作業スケジュール、次の内容への見通し等について、現在の状態を確認して使っていけるようにしたい。
- ・ 学年毎に取り組む製品の段階が明確に示してあることは良い。ロール機、ランドリーなどの作業工程における段階表などがあるとステップアップ化し、仕上がりの精度や態度等、適切に評価できるようになる、適材適所のレベルアップがはかれるのではないかな。
- ・ 作業の段階表はシラバスを使用している。必要であれば、1つ1つの工程の段階表(チェック表)を作成していく。
- ・ 適切な製品製作個数目標の設定が難しい。まずは1人1個その製品を作ってみて、どれくらいの時間がかかるかを体感する。その後、専門の日数やそれぞれの生徒の状況(実習でない等)を踏まえて、話し合いのもと目標を設定する…という流れで進めているが、目標が高すぎる、あるいは妥協して低い目標ということもあるためどのような支援が必要か考えていく。

<書き込み式の手順表の活用について>

- ・ 書き込み式の手順表は今後も継続していきたい。また、できるだけ元からの情報量を少なくして、生徒のメモをとる力を高めていきたい。そのために要約する方法、重要なキーワードのみを書く、自分なりに図を描く、教師が実際に書いたものを手本にして書くなどの「メモのとり方」の指導を今後行っていく。

<その他 働く力の育成全般について>

- ・ できた時だけではなく、失敗した時や分からない時の報告の仕方を身につけさせたい。どうして間違えてしまったか、何が分からないかを誠実に職場の人に伝えられるようにしたい。
- ・ 専門教科の時間に限らず、外部実習でミスがあっても悪びれない、失敗してもフォローしてもらって当たり前というような態度面に課題がある生徒が多い。「働く」ことへの意識や責任感がまだ少ない生徒が多いので、自分の仕事に責任をもって取り組む経験をより多く設定したい。
- ・ 生徒同士での相互評価ができる場が設定されるとやりがい、達成感、働く喜びにつながるのではないかな。
- ・ 相手によって言動を変える場面がみられ、どの仲間にも、どの先生にも同じように接する力が育っていない様子がみられた。様々な場面や実習をとおり、適時声掛けをして気づいていく機会を増やす。
- ・ ミシン、手縫いの校内検定を実施し教員同士で共通理解が図られたが、生徒へフィードバックする時期が遅くなってしまった。検定後にすぐに結果を生徒に伝え、すぐに作業に生かせるように、検定の時期を考えて実施する。

農産技術科の取り組み

(1) 昨年度の成果と課題から

農産技術科の成果と課題を表1に示す。今年度農産技術科では、昨年度の成果を継続しながら、課題にある「生徒個々の実態に応じた教材の工夫」や苦手なこと（自分から挨拶や返事）ができるようになるための支援として「声出し」を普段の専門の朝礼から行うことを確認し、授業実践を行った。

【表1 農産技術科の成果と課題】

成果	・場の設定の工夫によって主体的に取り組む姿やコミュニケーション力の向上が見られた。 ・生徒主体の取り組みを繰り返し設けることで積極性や自分から学ぶ姿が増えた。 ・指導者が考える材料の提示や思考を促す声掛けをすることで自分から考えて動く姿が見られた。 ・生徒自身が個々の課題を理解し、週目標を自発的に設定する姿が見られた。 ・「ほめ曜日」の取組から、やる気がでて自己有用感の高まりが見られ、次からの作業に自分で考えて動く姿が見られた。
課題	・生徒個々の実態に応じた教材や作業量を準備し、苦手なことから逃げないように支援の工夫やメモの取り方の支援が必要である。 ・指導者があいまいな声掛けをしないよう、専門性を身につける必要がある。 ・指導者が「ほめ曜日」を忘れる場合があるので、忘れないように心掛ける必要がある。また、ほめた内容を指導者で共有できるようにしていくことも重要である。 ・一貫した指導や支援を意識していくために、より生徒情報を共有していきながら、授業記録ファイルの回覧を滞ることのないようにする。

(2) 「働く力」を育てる授業実践

ア 研究授業について

(ア) 概要

日時：令和6年7月16日（火）2～4校時

授業者：高橋 恵子（T1） 森川 龍誠（T2） 白樫 憲一（T3）

対象：農産技術科2年4名、農産技術科3年3名

題材名：トマトの管理作業

(イ) 授業の実践 学習指導案【資料2—② 参照】

本時では、生徒同士で声を掛け合い、確認し合いながら、意欲的に作業に取り組むことができるように、ペアで行う作業の場面を設定した。また、分からないことはすぐに指導者に質問するのではなく、自分たちで話し合っ進めようとする姿や相手の様子に気配りができるよう、必要最低限の声掛けを意識して行った。併せて、対象生徒に対して前回の

授業の課題点を意識して取り組めるよう、必要に応じて声掛けを行った。使用する教材では、昨年度までトマトの人工授粉で使用するトマトトーンの液体が有色のものであったことから、生徒自身が手に着色してしまうことを気にしてしまい、作業に集中できない様子が見られたため、今年度より無色のトマトトーンへ変更した。

(ウ) 授業研究会より

○協議の柱1「働く力を育成する授業について」

<良かった点>

- ・ペアでチェックし合う活動について。作業の正確性やコミュニケーション力を育めると感じた。
- ・必要最小限の声掛けで良かった。また、確認したいときは、すぐに聞ける環境づくりができていた。
- ・3年生から2年生に的確な指示が出ており、2年生は3年生の働く姿を見て、テキパキと働く姿が見られた。
- ・生徒同士で確認し合う作業の設定をしており、自分たちで解決しようという姿勢が見られた。

○協議の柱2「意欲的に作業するのが難しい生徒の対応について」

<良かった点>

- ・名前を挙げ、みんなの前で褒められることは自信につながると感じた。
- ・ペアの相手がいるから、集中が途切れない環境づくりができていた。
- ・手本を示されたことで、イメージや見通しをもって取り組めていた。
- ・作業のテンポやペースを崩すことなく必要な指示をしており、生徒の気持ちを途切れさせないので良いと思った。

<各科・各学級での支援の方法>

- ・事務班では、布張りは全員が行うが、受託は作業を選ぶことができる。新しい仕事をしたい生徒もいれば、同じ受託の活動を選び、積み重ねる生徒もいる。積み重ねることによって、自信もつけていける。生徒は、自信や責任をもって取り組んでいる姿が見られる。
- ・実習前はなかなか登校できなかった生徒がいたが、前期実習では遅刻・早退はなかった。人や場所、雰囲気が変わったからなのか実習後も、授業は難しくても専門では上手く気持ちを切り替えられて参加している。
- ・普段なかなか登校できない生徒がいるが、校外学習には参加し、当日の日記に、『自分でも参加できるかなと思っていたが、できて自信がついた』という内容を書いていた。

○助言（高橋 奈津子 副校長）

生徒の雰囲気良く、3年生は知識があると感じた。2年生の対象生徒もクラスメイトに馴染んでおり、本人も楽しんで作業に取り組んでいた。科、学級でも安心して過ごせていることだろう。昨年よりも良くなっており、普段の良い雰囲気が見られた。

指導案では、題材設定の理由と配置図がなかったのが惜しい。この授業のねらいが記されていると良かった。題材目標が、農1と農2・3が同じである。差別化することで、1年生や2・3年生の違いや段階を追った姿を比較できる。実質のところ、シラバスの農2・3年生の目標は達成できていると感じた。

○講評（矢鳴 慶之 校長）

分かりやすさを感じた。芽かきの方法について、指を使った教え方をしていたが、判断基準を理解させることは大事なことである。比較させたり、気付かせたりしていくことで意欲的になると感じた。もし、自分だったらどう教えるかと考えた。これはわき芽だから取ろうと教えるのか、ではなく、まず取らせる方法もある。間違っても良いから取らせる。また、サンプルとして正しく芽かきをした苗とわき芽のある苗を用意する方法もある。色々な方法、指導法があると思う。計画的に失敗させて、成功させていく。思考することの大切さもある。正しいことを知るだけが楽しいのではないので、これらを含めて、楽しみながら授業ができると良い。

イ 「生徒個々の実態に応じた教材の工夫」について

農産技術科では、日々生徒個々に応じた様々な支援や教材の工夫に取り組んでいる。例年、校内の前期就業体験実習と後期就業体験実習の朝礼時に、農産技術科の教師から生徒に向けて「実習への心構え」や「働くために大切なこと」を話す機会がある。生徒たちには、メモを活用するよう指導はしているが、自分でわかりやすくメモをとるのが難しい生徒もいる。そのため、今年度から先生方が話した内容を用紙に簡潔にまとめ、生徒たちが出入りする入口付近に掲示することで、より話した内容を理解し、実習や専門の授業に生かしていく様子が見られた。そして、その場にいなかった教師も話した内容を共有することができ、生徒たちに対して統一した指導をすることができた。次年度以降も、継続して取り組んでいきたい。

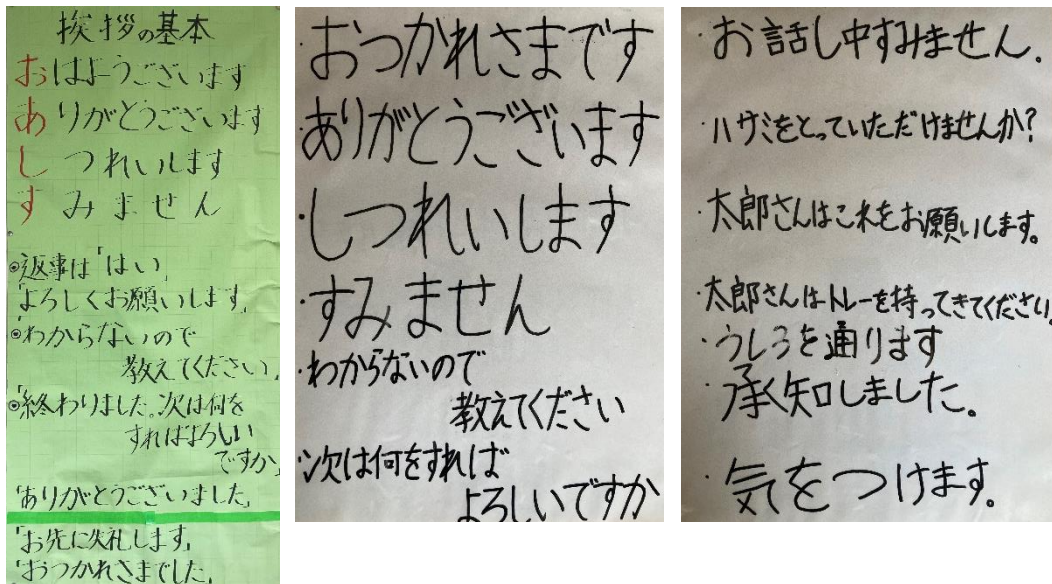
【図1 話した内容一覧】



ウ 「声出し」の取り組みについて

苦手なことができるようになるための支援として、農産技術科では今年度より、専門の朝礼時に「声出し」を行っている。自分から挨拶することや場に応じた声の大きさを会話することが苦手な生徒が多いことから、実習期間中だけではなく、普段の専門の授業でも挨拶練習や報告・連絡・相談の仕方の練習に取り組んできた。習慣化して取り組んでいくことで、挨拶や声の大きさに課題があった生徒は、無意識のうちに定着していく様子が見られた。今年度は、挨拶や声の大きさに定着が見られたため、「声出し」を途中でなくしてしまったが、定着しきれていない生徒や「声出し」をなくすことで、だんだんとできなくなってしまう生徒もいたため、継続して取り組んでいく必要がある。次年度は、年間通して取り組んでいきたい。

【図2 声出しの文言一覧】



(3) 成果と課題

ア 成果

- 先輩から後輩に教える場面が多くあり、そのたびに3年生の教え方が上手になっている。
(作業理解、的確なタイミングでの声掛け) そのため、作業についての評価やほめ曜日だけではなく、先輩としての姿やアドバイスの仕方についても評価できるのではないかと。
- ほめ曜日については、忘れてしまうこともあるが、積極的に生徒の良いところや頑張っているところを見つけようという意識をもつことができている。日誌にも記載欄があり、自分で確認して次回につなげることができるようになっている。
- 実習中の朝会で教師が輪番で生徒に向けて話した内容を簡潔にまとめて掲示したことが効果的であった。メモの活用するよう指導はしているが、自分で分かりやすくメモを取るのが難しい生徒が多いことから、適切な支援であった。
- 実習中だけではなく、普段の専門の朝礼から声出しを行うことで、自分から大きな声で挨拶することや、場面に応じた声の大きさを話すなどの定着が見られた。

- ・製品の手順表があることで、一人でも製作ができたり、作り方を忘れたときにも確認することができたりと指導の手立てとして有効であると感じた。
- ・昨年度の反省を生かし、当日の朝までには作業の記録を回覧することで、生徒の様子や指導内容を共有し、作業に取り組むことができた。
- ・生徒の実態に応じて、教師同士で連携し、生徒個々に応じた作業量や作業内容の工夫ができた。

イ 課題

- ・目標決めでは、生徒たち自身が自分の課題をある程度、把握できていないと目標が曖昧になってしまうことがある。そのため、目指すべきポイントや前の週の取り組み状況からヒントを教師が出す必要がある。
- ・体調管理や衣類の調節が不十分な生徒がいるため、職員の見守りや声掛けがをしていきながら、継続して指導が必要である。
- ・分からないことや困ったことがある時に、すぐに教師に相談することが定着してしまい、まずは自分で考える、分からなければ仲間に確認する、それでも分からないときには教師に確認することを指導していくことが必要である。
- ・「ほめ曜日」を忘れずに、継続して取り組んでいく。
- ・「声出し」を定着が見られても、継続して取り組んでいく。

加工生産科の取り組み

(1) 昨年度の成果と課題から

加工生産科の昨年度の成果と課題を表1に示す。加工生産科では、「一緒に働きたいと感じてもらえる生徒」、「職場でかわいがってもらえる生徒」の育成をめざし、課題にある「加工生産科のルール」の徹底、教師の技術向上、メモの活用、生徒同士のかかわり合いを重点として授業実践を行った。

【表1 加工生産科の成果と課題】

成果	・他生徒とのかかわりをとおして、自分のメモを見返しながら伝わりやすさを意識して話す姿やお互いの意見を伝え合う姿が見られた。 ・作業のノルマを設定し、生徒自身が役割分担を考えることで、時間や作業量に合う人数配置について意見を出し合う様子があった。 ・「加工生産科のルール」を意識した行動や活動をしていることが、学校生活の様々な場面に良い行動として表れている。 ・ミスを責めるのではなくその原因を考えさせることで、確実な作業を意識でき、ごまかしや嘘をつかずに正直に報告するようになった。 ・高野連プラカード製作やラ・クラのプレゼント企画によるおしゃれケースの追加製作をとおして、人の役に立つ喜びや自分たちの作業や製品に対する自信を得ることができた。 ・小皿づくりに手順書を取り入れたことで、自分の取ったメモと組み合わせて活用したり、自分から準備や片付けをしたりする姿が見られた。
課題	・職員も「加工生産科のルール」を意識し、同じ視点で指導にあたる。 ・生徒の技術の向上や一定の質の製品づくりを行っていくために、職員自身の技術の向上と知識の習得に努める。 ・「何をメモするのか」、「どうメモするのか」を指導・支援する。 ・コミュニケーションや協力・協調の態度についての指導場面を増やす。

(2) 「働く力」を育てる授業実践について

ア 研究授業について

(ア) 概要

日時：令和6年7月5日（金）2～4校時

授業者：遠藤大河（T1） 中村昭彦（T2）

対象：加工生産科2年生3名

題材名：体験入学、峰南祭体験コーナーで使用する木箱の材料づくりをしよう

(イ) 授業の実践 学習指導案【資料2—③ 参照】

木工班に所属している2学年の3名は、4月から製品づくりに使用する道具の名称や準備の仕方、使い方など基本的な知識と技術について学んできた。日々の作業を繰り返す中で、聞いた指示をメモに残し、活用すること、自分から準備や片付けをすることなど働くために必要となる力が身についてきている。しかし、生徒同士で協力し、効率を考えて取り組む力はまだ十分ではない現状がある。本時では、声を掛け合いながら工具や機械を安

全に使うこと、お互いの様子や作業進度を確認し合いながら正確に作業を進めることを目指し、題材を設定した。

(ウ) 授業研究会より

○協議の柱1「働く力を育成する授業について」

<良かった点>

- ・繰り返し取り組むことで、作業の効率化をはかり工夫する様子が見られた。
- ・最低限の声掛けにより、生徒は周りをよく見て行動することや自分から報告・連絡・相談をすること、教師に確認する前にメモを見返し、考えることができていた。
- ・教師も一緒に仕上がりを確認することで、正確性を意識した作業ができていた。
- ・ホワイトボードに手順を示し、視覚的に確認できるようにすることで、生徒たちは見通しをもって取り組むことができていた。

<改善点>

- ・生徒が手順を理解できる繰り返し作業などでは可能な限り工程を任せ、教師は「待つ」姿勢を意識することで、より主体的に動くことができると思った。
- ・個人への指示だけでなく、全体への指示に対する返事や反応がもう少しあると良い。

○協議の柱2「自ら考え行動する力を育む授業づくりについて」

<良かった点>

- ・意図的な問いかけにより生徒に考えさせる場面と安全にかかわる留意点を伝える場面が適切に設定されていた。
- ・生徒自身で役割分担をすることで、自分以外の人が何をするのか、どんな仕事をするのかに目を向けられると感じた。
- ・生徒同士の話し合いの場が多く設定されており、自ら考え、協力する力が育まれていると感じた。

<改善点>

- ・報告・連絡・相談の際には、教師側が先回りして意図を汲むのではなく、生徒自身が最後まで明確に伝えることを意識させるとより良いと感じた。

○助言（高橋 奈津子 副校長）

考えることを十分にせず、すぐに答えを求めてくる生徒については教師が予め把握しておき、自分で考えさせるためにどのような声掛けや手立てが必要か準備しておく必要がある。また、安全に作業を進めるために、機械の配置や動線を含めた環境整備、生徒同士の声掛けの目的についても改めて指導していくことが大切である。

昨年度に比べて一人一人が自分で考えて行動する力が高まっており、大きく成長していると感じた。働く力を高めていくために、生徒の働く意欲やモチベーションを向上させられるよう工夫しながら指導を進めてほしい。

イ 加工生産科のルールについて

加工生産科では「加工生産科のルール※1」を軸とした指導を行っている。内容として

は、挨拶や身だしなみ、コミュニケーションといった社会人として基本となる項目のほか、「良い仕事」をするために、環境整備、メモの活用、5分前行動、心配り、向上心など、具体的な例を示しながら生徒、職員で取り組んできた。これらすべては、「働く力につながるものである」という考え方のもと、加工生産科が目指す生徒像の実現に努めている。

「加工生産科のルール」については、年度始めに生徒と指導者と一緒に確認をしたり、日頃からの意識づけのために各教室、実習室に掲示したりしている。今後はさらに定着を目指し、「加工生産科のルール」の活用場面や有効的な活用方法を検討・実践していく。

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・手順書の使用により、作業を正しく丁寧に進めることができていた。
- ・日々の声掛けや指導により、挨拶、服装、整理・整頓、教え合いや協力の姿勢、自分から必要な報告や相談をすること、報告の際には「〇〇先生」と相手を呼んでから話すことなど、働くために必要な基本的習慣、コミュニケーション力が身についてきている。
- ・下級生、上級生の取り組みを見ながら働き方やコミュニケーションのとり方などについて学ぶことができた。
- ・手本を示すことと実際の作業を繰り返すことで、作業のポイントの理解、技術の習得、製品の質の向上につながった。

イ 課題

- ・メモをとる習慣は徐々に身についてきたが、特に「どうメモするのか」に関してはさらに細かく指導していく必要がある。メモをとるための時間を確保しつつ、活用しやすいメモのとり方（メモをした場所をすぐに見つけられるような工夫、内容を関連させて書き足していくなど）を伝え、支援していきたい。
- ・メモの内容を見返しやすくように整理させたり、手順書や判断基準となる見本の準備を充実させたりすることで口頭説明の時間を短縮し、手工具の扱い方や作業練習などの基礎の部分を確認し、練習する時間を確保していきたい。
- ・作業室内の道具の配置や動線など、生徒が安全に、集中して作業に臨めるよう構造化をはかる必要がある。職員同士で検討しながら進めていきたい。
- ・「加工生産科のルール」の定着をはかるために普段の指導場面でも活用したい。生徒の実態を基に達成状況を確認し、重点項目を決めて指導する、また生徒が作業の目標を決める際には個人の实態や本時の作業内容に合わせて「加工生産科のルール」から選ぶことで作業に生かせるようにするなど活用方法を工夫していきたい。
- ・職員の技術向上をはかり、職員同士の技術伝達や情報交換、講習を引き続き実施していきたい。

加工生産科のルール ※1

★★★加工生産科のルール★★★（R6年度版）

○挨拶—コミュニケーションの基本。

- ・姿勢良く、指先を伸ばす。お辞儀は背筋を伸ばしたまま頭を下げる。
- ・元気よく、相手の顔を見て、キビキビと、誰にでも。

○身だしなみ、衛生—人を不快にさせないように。

- ・ルールを守った服装を（だらしなく見える着こなしをしない、制服や作業着の下に運動着を着ない）。
- ・ポケットに手を入れて歩いたり話をしたりしない。
- ・寝癖は直す。毎日ひげを剃る。髪を留める。
- ・つめの手入れをする（毎週日曜日に手入れをする）。
- ・手洗いをしっかり行う（ハンカチを持ち歩く習慣を）。
- ・暑いときには脱ぐ。寒いときには着る。
- ・運動着、作業着が汚れたら洗う。週末は必ず持ち帰って洗う。

○コミュニケーション—社会生活で一番大事。

- ・話しかけるときは、必ず「〇〇先生」「〇〇さん」から。
- ・歩きながら話し始めない。話し始めるときは立ち止まってから。
- ・報告、連絡、相談の徹底。
- ・言いたいことをしっかり、簡潔に話す。語尾まではっきりと話す。
- ・パーソナルスペースを意識できる人に。
- ・まずは「はい」と言う素直な姿勢（自分のやる気を相手に分かってもらえるように）。

○整理整頓—身の回り、教室、作業場をきれいに保てる人に。

- ・使ったものは元の場所に戻す（使う前よりもきれいにして戻す）。
- ・自分のものもしっかり整理整頓。目につきにくいロッカーなども。

○安全—何よりも優先する。

- ・何をするにも安全第一。冷静に、確実に、正しい姿勢で。
- ・走らない（実習室内も校舎内も）。
- ・周りをよく見て行動する（危険と思ったときには迷わず声をかける、声をあげる）。
- ・重いものは両手で持つ。複数で持つ。
- ・実習室からの道具の持ち出しは必ず先生のいるところで。

○メモの活用—確実に行うため、ミスを少なくするためのツール。

- ・話を聞くときにはすぐにメモを用意する意識を。
- ・メモは箇条書き、単語、イラストで。あとでしっかり振り返る。

○より良い製品づくり—お客様に喜んでもらえる製品を。

- ・効率よく、確実、丁寧に。
- ・「これくらいいいや」「これくらい大丈夫」は絶対ダメ（失敗したとき、製品に不安があるときはすぐに報告する）。

○エコの意識を—地球にやさしく。

- ・節電、節水の意識。
- ・冷暖房が入っているときには、教室の扉をしっかり閉めてから移動。

○書字—丁寧に。

- ・人に見てもらうことを意識して書く（正しい字を、できるだけ漢字を使って—辞書の積極的な活用）。

○5分前行動—時間に余裕をもって、心にも余裕を。

- ・開始時間、終了時間に間に合うように余裕をもって行動。

○心遣い、心配り、気配り—自然にできる人に。

- ・自分がやってほしくないことは人にしない（相手を不快にさせない言動を心掛ける）。
- ・さりげない、ほんのちょっとしたことをできる人に。

○向上心をもつ—常に成長する努力を。

- ・「やればできるから」、「やるときはやるから」はダメ。いつでもどこでもやれる人に。
- ・当たり前前のことを当たり前前ができる人に。

流通・サービス科の取り組み

(1) 昨年度の成果と課題から

流通・サービス科は清掃と事務、各々の技術向上を目指すことを主軸としながら、就労に必要な主体的に行動できる力を身に付けられるよう、昨年度に課題とされた「生徒一人一人が自ら考えて行動する姿」、「チームで互いの進捗や環境に合わせた作業内容を確認し合い作業する姿」を目指し、自立とコミュニケーションを要する場面を設定した授業を進めることを確認した。昨年度の成果と課題は表1のとおりである。

【表1 流通・サービス科の成果と課題】

成果	・1年生の専門教科やプレ科で流通・サービス科の作業内容や道具の使い方の基礎を学んだことが、2・3年生で生かすことができています。 ・役割を交代して繰り返すことで、作業全般の手順やスキルを身に付けることができた。 ・生徒同士で教え合う経験を積むことで、適切な説明ができるようになってきた。上級生は下級生に教えることで、自分が覚えたことを再確認することができている。 ・外部から作業を受託することで、相手あつてのサービスという意識をもって取り組むことができた。 ・チームで確認やフォローしながら作業をする力を付けることができた。 ・できるだけ個人に任せて作業を行うことで、失敗してもごまかさない、分からないことは確認するという環境を作ることができた。
課題	・自ら判断し、作業に入るタイミングをつかめていない場面が見られた。 ・場の設定の工夫をしたり、作業の質の良し悪しを判断したりするなど、自分や生徒同士で考えて作業を進めるまでに至っていない。 ・一人で製品を完成できる生徒と難しい生徒がいる。ある程度自分でできるよう技術を身につけられるとより良い。 ・自ら質問や報告をすることが難しい生徒がいる。 ・チームで活動する際、人任せにしまい、自分から動くことが難しい生徒がいる。 ・道具の使い方や手順の確認が必要な場面があった。引き続き安全面への配慮が必要である。

(2) 「働く力」を育てる授業実践について

ア 研究授業について

(ア) 概要

日 時：令和6年9月17日（木）2～4校時

授業者：藤原 崇行（T1） 黒川 浩（T2） 小泉 光則（T3）

対 象：流通・サービス科2、3年生（6名）

題材名：定期清掃（流通・サービス科2年生教室の床清掃）

(イ) 授業の実際 学習指導案【資料2-④参照】

チーム清掃では清掃技術はもちろんだが、周りの様子を見て声を掛けたり、気付いて動いたりする力が必要である。本時は、清掃技術の丁寧さはあるものの、場面によって作業スピード、コミュニケーション、自分で考えて行動することが課題の生徒を対象とし、授業を構成した。

木床清掃の基本的な技術の習得と定着を図り、チームで作業の役割を交代しながら繰り返す設定とした。また、主体的に行動する力を身に付けられるよう、リーダーを中心に生徒自身で役割分担や物の撤去作業などを決める場面や、互いの進捗や状況に合わせた作業内容かをチーム内で確認しながら考える場面を設けた。指導者は状況に合わせて助言したり、チームで考えるよう促したりし、適宜確認と称賛の声掛けを行った。

(ウ) 授業研究会より

○協議の柱1「働く力を育成する授業について」

部屋の形や床の材質など、清掃場所に合わせた作業内容があるため、臨機応変さ、自ら気付く行動する力、仕上がりの精度などを要する。教師の指示や手本の示し方を工夫したり、教師の発問に対する答えを考えたりする場面を積極的に設けることで、主体性や自ら考える力を高められないかと考えている。

<良かった点>

- ・生徒が考え、発言したことを称賛することで自信となり、主体性が育まれると感じる。
- ・教師も一緒に活動したり、声掛けを工夫したり、グループに合う対応をしていた。
- ・最低限の声掛けで、役割分担をしながらチーム内でよく考えて作業していた。前時の内容を振り返ったり考えたりできるような声掛け・問い掛けをしていた。
- ・作業前、作業途中で今日の作業の目的とポイントを確認することで、前回教わったポイントを共有しながら作業することができていた。

<改善点>

- ・生徒間のやりとりが少ないように感じた。回数を重ねるごとにリーダーが活躍する場面を増やせると良い。黙々と作業するのではなく、「～します。」と自分の行動を声に出して周知しながら作業をすると、もっと雰囲気良くなるのではないかな。
- ・普段の清掃時間に、専門での学びを生かすことができているか。どの場面でも学びの成果が発揮できると「働く力」がついたと言えるのではないかな。

○協議の柱2「正確に作業に取り組むことができる力を身につけられる支援について」

清掃は正確性・丁寧さを要するため、生徒が視認しやすいようにレーザーポインターを用いて注目箇所を示したり、教師が示範しながら作業の注意点やポイントを伝えたりしている。集中力が途切れそうな場面での声掛けやサポートなどを工夫し、仕上げまで取り組めるように配慮している。

<良かった点>

- ・教師の場面や状況に合う的確な指示、教室内の物や壁などを目印にすること、手本やレーザーポインターで位置や注目箇所の視覚化、考える場面の設定が良かった。
- ・黒板に配置図を書く際に、教師と共に確認することで正確に書くことができていた。
- ・物の配置を黒板に書いて、自分たちで動けるようにしていた。書いて残せば、元の位置に正確に戻せることを生徒が理解している。
- ・必要最低限の声掛けにより、生徒自身の気づきを指導者が待っているところが良い。

<他科の取り組み>

- ・生活科学科では、作業の手がかりになるよう、作業の示範と手順書を用いている。
- ・農産技術科では、正確な作業が分かる人と不安な人でペアを組む、手順書を用いるなどの取り組みをしている。
- ・加工生産科では、ガイドと補助具を用いている。また、同じミスを繰り返さないように、場面を逃さず声掛けし、ポイントを確認している。

○助言者から（高橋 奈津子 副校長）

導入時に場面を想像した対応策を問い掛けて、前時に学んだ作業のポイントを押さえていた。清掃道具のある流通実習室の整理整頓がされていること、養生テープなど細かい準備物を元の場所に戻すよう身についていることなどは、正確な作業と作業心得の「安全」にも繋がることである。清掃作業は、状況や環境に合わせてマルチタスクをこなさなければならない。「考動力」が大切である。作業内容が分かっているからこそ、暗黙の了解で取り組んでしまう場面も見られたが、声に出してコミュニケーションをすることで、自分の状況を周知し、みんなで作業の状況把握をできることが大切であろう。蓄えた力を外部清掃で発揮できるところが、流通・サービス科の良いところである。

○講評（矢鳴 慶之 校長）

今回2回目の木床清掃で、前回の学びを生徒はどう課題としているだろうか。言語化することで有効になるのではないかな。また、今日身に付ける事柄は何なのか、目標を明確化してあげることが大切である。教師からの細かい指示が、生徒の主体性にどう繋がるかを考えていくことが必要だ。役割に応じて決められた用具を準備していたが、道具リストを用意し、生徒同士で確認する方法もある。色々な方法があるだろう。授業をリードするT1、ベテランのT2・T3が作業技術をしっかり指導するなど、チームでの取り組みは良い。本時の作業内容は、回数を重ねることが大切だろう。この力が、他の場面でどう生かされていくのか。「生きて働く力」を大切にしていきたい。

イ 流通・サービス科での取り組みについて

(ア) 外部からの作業受託

清掃班では、前期・後期就業体験実習期間に外部清掃を受託している。清掃会社の方に講師としてご指導いただきながら、3年生が主体となって行う。後期実習では1年生も外部の窓清掃に一日参加する。外部清掃を行う上で必要な技術やスピードの向上を目指し、校内の弾性床や木床など材質の違う教室や廊下、物の置き場所など変化に富んだ場所を繰り返し清掃し、技術が定着するように授業構成を工夫して取り組んだ。施設側からは清掃の仕上がりを評価していただいております、特に広報はしていないが、依頼件数は増加している（参照・R6:17件、R5:18件、R4:16件）。

事務班では、一年を通して校内と外部からの受託作業を行なっている。主に資料の丁合・製本、案内文書などの三つ折り等発送準備作業、各学級に配る物品の仕分け・配達作業などである。今年度の外部からの受託内容は、地域団体からの折り込み依頼、学校記念誌の丁合・製本依頼等があった。校内の受託件数は、R6(12月現在):41件、R5:59件、R4:54件である。受託作業がない日は、事務用品の基本的な使い方の確認や技術向上をねらい、布張り製品作りを行う。「個」と「ペア」での作業、流れ作業の練習などを行い、働く場でも応用できるように授業内容や教材を工夫して取り組んだ。金曜日はパソコン操作の技術取得を目指し、ワードとエクセルの基本操作の他、テキストを読み取って課題に取り組む作業など、受託の指示書を読み取る力にもつながることをねらいながら、授業構成を工夫して取り組んだ。

今年度の本科の生徒の一人は、清掃業の実習先で、パソコンで使用物品の集約などの事務補助を行ったり、物流業の実習先で伝票打込みなどを行ったりする機会があった。スムーズに取り組めたと報告を受けており、両班を学ぶ形態がどのような「働く場」でも生きることが確認できた。働く場に近い作業環境の中で技術取得できる授業を構成していくよう、次年度も教師間で考えや情報を共有して取り組む。また、基礎の技術取得に主力を置き、生徒の実態に合わせながら教材や指導内容を工夫し、生徒一人一人の技術向上に努めたい。

(イ) 販売事務管理

本校製品の販売事務管理として、校内に設置された店舗「ドットコム」の運営を行っている。主に接客や売り上げ製品の値札タグを各科ごとに分類する等の会計処理などを行う。また、定期的に外部での出店や納品・見学をし、売れ筋商品や客層についてのインタビュー、売上や在庫確認などを行うことで商品管理やお客様のニーズなどを学ぶ機会としている。接客サービスと商品管理を実践で学び、会計の仕方や金銭等の適切な扱い方、対人対応のマナーやコミュニケーション能力の育成を図っている。

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・両班に属し、外部からの多岐にわたる受託作業を年間通して行うことで、技術向上と応用力が少しずつだが着実に定着している。
- ・依頼者がいることから必然的に納期等の作業期限と作業の丁寧さが求められることで、作業スピードと安定した品質となるように取り組む姿勢ができてきている。
- ・縦割りでチームを組むことで上級生が下級生に作業を教える場面も自然に生まれ、互いに学び合いの場となった。互いの作業進捗や状況に合わせて仕事を進めることで、自分から気付いて動こうとする力が身についてきている。
- ・専門教科と就業体験実習の経験を重ねることで、自ら報告や相談ができるようになってきた。
- ・本科の卒業生から、チームワークや協調性は「清掃」、集中力や仕事を自分で見つけていく力は「事務」で身に付いたとの話があった。2種類の異なる作業を1週間ごとに学ぶスタイルは定着までに時間がかかることもあるが、メリットになっていることが卒業生の発言からも実感した。

イ 課題

- ・3年生は3年間の経験から作業内容が概ね身についているため自主的に動けているが、2年生は1週間ごとに班が替わるため、期間が空くとちょっとした手順や動作を忘れてしまう。
- ・チーム内での声掛けも、遠慮したり馴れ合いになったりして声を出せず、コミュニケーションをとれていない姿が見られている。3年生がリーダーとして自覚し、チームやペアの生徒を引っ張っていく力が育つと良い。
- ・何が分からないかが分からず、分からないことを質問できなかつたり、作業し始めて思い違いであることを注意されたりする生徒がいる。指示されたことを自分の言葉で繰り返して確認する力が身につくと良い。
- ・生徒自身が場の設定の工夫や、作業の質の判断などを考えて作業を進められるようになると良い。

3 寄宿舎の取り組み

(1) 寄宿舎が考える「働く力」について

昨年度までは身体づくり（健康管理）を寄宿舎で身につける「働く力」と考え、棟ごとに生徒の心身の健康面での課題を明らかにし、実態に合わせた取り組みを行ってきた。

今年度の取り組みを始めるにあたり、改めて「働く力」の育成のために寄宿舎ができることを考えた時、「働く力」の基盤となるのは生活であり、その生活を整えることが「働く力」を身につけることにつながると考えた。そこで、昨年度注目した「健康」にこだわらず、生活全般を通して生徒の課題を明らかにし取り組むこととした。

(2) 「働く力」を育てる実践（昨年度の成果と課題から）

日々の生活の中での取り組みや情報共有がしやすい棟ごとでの取り組みとし、以下の流れで実践を行った。

- ①棟長を中心に取り組む。
- ②取り上げる課題については以下のどちらかを選択する。
 - a 昨年の取り組みを継続する。
 - b 現在の生徒の課題を明らかにし、新しい課題に対する取り組みを行う。
- ③生徒の変容に合わせてながら適宜実践する。
- ④取り組みの過程および成果と課題をまとめる。

表1 昨年度の成果と課題

成果	・生徒の変化や新たに生じた課題に応じて、適宜支援方法を工夫しながら取り組めた。 ・話し合い活動を経験することで、自分の気持ちを話すことができるようになった。 ・様々な余暇の場を設定したことで、将来の楽しみについて想像できるようになった。 ・朝の運動を継続することで、体調がよくなったことを実感できた。
課題	・前年度有効だった手立てをそのまま継続して取り組んだが、生徒の実態に合わせた工夫が必要だった。 ・設定した時間内では余暇の広がりは見られたが、それ以外の時間は同じ過ごし方をするが多かった。 ・継続して取り組むことが難しい生徒に対しての効果的な言葉掛けが難しかった。

男子棟1階

1 選定項目

身だしなみを習慣化するための支援

2 選定理由

男子棟1階の生徒は、個人差はあるものの、総じて身だしなみを整えることが苦手である。

身だしなみといっても、洗顔、ひげ剃り、歯磨き、整髪といった身体に関わる領域から、衣類の洗濯、衣類のしわやほこりの除去、ハンカチやティッシュの携帯といったマナーやエチケットに関わる領域まで多岐にわたる。

本校生徒は指示や声掛け（外発的動機付け）で行動できるが、習慣化していないので継続は難しい。長い歳月をかけて身につけた生活習慣を変えることは容易ではないが、身だしなみを整えることは社会人として重要な「働く力」と捉えている。したがって寄宿舎という集団生活の場を生かし、棟全体で身だしなみについて取り組むことで、集団効果により習慣化できるのではないかと考えた。

3 実践内容

身だしなみを意識するために有効な手立てについて職員間で話し合った。「身だしなみ」というフレーズに嫌悪感を抱く生徒、消極的な態度を取る生徒がいる一方で、優先順位を誤って身だしなみに気を遣う生徒がいるなど、その実態は様々である。日常的な指導で目新しさが無い身だしなみ支援を、生徒たちにとって義務的にならず主体的な活動としていくために、「男子棟1階イケメン化計画」と題して、興味関心を育めるアプローチ（内発的動機付け）を取ることにした。

(1) 話し合い活動 ～イケてるってどんな人のこと？～

日時と場所：6月27日（木）19：00～@男子棟1階ディールーム

内容と方法：少人数グループで「イケてる人」について話し合う（進行：山口、菊池）。

(2) ワークショップ&外出 ～お気に入りの服を着て出かけよう～

日時と場所：7月4日（木）17：00～20：00@男子棟1号室

8月22日（木）16：00～18：00@カラオケ合衆国・盛岡南イオン

内容と方法：職員の古着を活用してフリーマーケットを開催する。「外出するならどんな服を着たらよいだろう？」というテーマとルール（一人一着）を設定。外出は事前に希望を取り、その際には選んだ衣服を着ていくこととする（引率：日廻、峠舘）。

(3) 話し合い活動 ～イケてる点検表を作成しよう～

日時と場所：7月11日（木）20：00～20：45@男子棟1階ディールーム

内容と方法：少人数グループに分けて、「身だしなみ点検」として何が必要なのかを考え、「イケメン化計画」に即した点検項目を話し合う（進行：山口、村田、横田）。

(4) ワークショップ ～コーディネートについて学んでみよう～

日時と場所：11月7日（木）19：00～20：45@男子棟1階ディールーム。

内容と方法：着こなしとコーディネートの講座を開催した（講師：横田、村田、日廻）。

(5) まとめ～ワークショップ、話し合い活動

日時と場所：1月28（火）および2月26日（火）20：00～20：45@男子棟1階ディールーム

内容と方法：これまでの活動を振り返り、イケてる点検表を見直す（進行：山口、小原）。

4 取り組みの様子

- (1) 話し合い活動 ～イケてるってどんな人のこと？～
生徒からは「見た目」「身体の清潔」「所有物の保持」「心構え」など様々な意見が出された。また棟の指導員からは、朝のミーティングを通して様々なタイプの「イケてる人」のエピソードを紹介した。

<良かった点>

- ・「イケてる人」を顔ではなく、身だしなみや心構えといった、日々の取り組みで全員がなれると理解する機会となった。

<改善点>

- ・課題：支援前の生徒のアセスメントを行えなかった。

- (2) ワークショップ&外出 ～お気に入りの服を着て出かけよう～

古着屋のように衣服が展示された会場を歩いて周り、デザインやサイズを合わせながらお気に入りの衣服を選んだ。ブランドや買い方に関する指導員の話に耳を傾けていた。後日、外出ではその衣服を着て出かけた。普段意識することのない「周囲の視線」の話をすると、身だしなみを整えてから出発する生徒も見られた。

<良かった点>

- ・これまで社会経験が少ない生徒たちにとって、好きな衣類を選んで外出する楽しみを体験することができた。

<改善点>

- ・フリーマーケットは生徒の実態がわからなかったため、トラブルを回避するために2～3人の少人数で行った。

- (3) 話し合い活動 ～イケてる点検表を作成しよう～

毎朝、ミーティングの中で行っている「身だしなみ点検」は、ハンカチ・ティッシュを携帯しているかの点検となっていた。生徒たちで小グループによる話し合いを行い、3領域（身だしなみ／登校時に必要な持ち物／心もち）21個のチェック項目を出すことができた。

また、「身だしなみ点検」のルールも自分たちで話し合い、以下の2点を確認することとなった。

- ① ミーティングの司会が3つの点検項目を選ぶ。
- ② 不備があった生徒は正してから登校する。

<良かった点>

- ・自分たちによる、自分たちのための身だしなみ点検という認識が高まり、和やかかつ真剣に点検する様子が見られるようになった。
- ・点検項目にあげた事柄について、今までは気にせずに過ごしていたが、下校後にYシャツの襟、靴下や作業着の汚れに気づき、自ら手洗いをしたり、点検の前に爪を切ったり、Yシャツにアイロンをかけたりする様子が見られた。

<改善点>

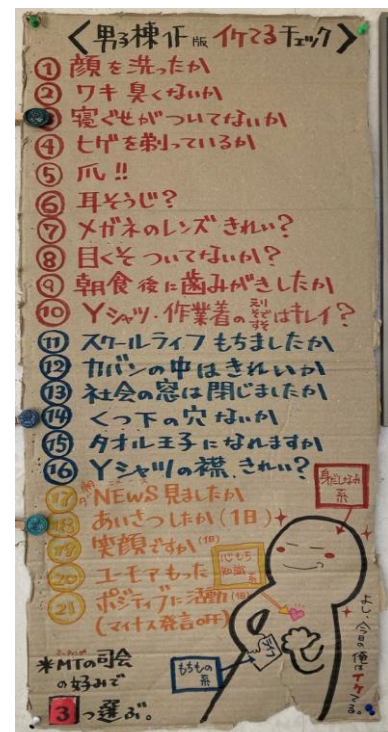
- ・生徒の意思を尊重したため、チェック項目の内容や、表現の公平さに偏りがある項目となった。



1 イケてる人に関する話し合い
生徒の「イケてる人」の概念を広げていくための話し合いとなった。



2 WSと外出のようす
フリマで好みの衣服を選び、近隣のカラオケとイオンへ外出した。



3 イケてる点検表の話し合い3領域
21項目の点検表を作成し、朝のミーティングで確認した。

(4) ワークショップ ～コーディネートについて学んでみよう～

SNS で話題になっている着こなし特集の映像資料も視聴しながら、職員が講師となって「冠婚葬祭とドレスコードについて（講義）」と、「昼と夜のカジュアルな服装について（実演）」、「トルソーを用いた衣類のコーディネートについて（演習）」説明した。イメージを膨らませた上で、続けてフリーマーケット（2回目）を行った。

講義の最中、生徒たちはうなずいたり歓声をあげたりしながら聴いていた。フリーマーケットでは、お互いに印象を話しながら試着して、お気に入りの1着を選んでいった。生徒からは「GUに外出して自分の服に合う衣類を探してみたい」や「カラーコーディネートについて学んでみたい」「ファッションショーをしてみたい」といった意見が出された。

<良かった点>

- ・場に応じた衣類の選び方、色や素材を考慮した衣類の組み合わせについて学ぶ機会となった。

<改善点>

- ・興味関心の広がりが見られたが、生徒からのリクエストに応えられていない（R7.1月時点）。

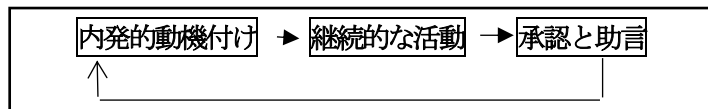
(5) まとめ～ワークショップ、話し合い活動

- ・未実施（1月20日時点）。

5 まとめ

ア 成果

- ・習慣化のプロセスを確認し、「内発的動機付けを」丁寧に行なえた。



- ・朝の点検を「継続的な活動」とし、日を追うごとに主体的な行動（ひげ剃り、作業着の洗濯等）が見られるようになった。その際には「承認と助言」を行い、意識や意欲が高まるように働きかけた。
- ・職員による情報共有と共通認識、生徒への継続的な声かけが必要不可欠で、それぞれが様々な生活の場で働きかけることができた。

イ 課題

- ・生徒の変容を客観的に把握するためのアセスメントシートが必要だった。本年度のまとめとして先行研究を元に作成した。

【資料1】

- ・内発的動機付けが難しい生徒がいた。寄宿舎での集団効果を活用しながら、さらなる工夫と改善が必要である。
- ・自身の見られ方や地域とつながる経験が少ない生徒のために、ワークショップや生徒間の話し合い活動を充実させることで、身だしなみの習慣化を、ひいては働く力を育む機会を増やしていきたい。

まとめ 生徒の変容（自主的・主体的な行動）

- ①イケてる点検 ②下校後すぐ作業着を洗う S.Y.
③点検前に爪を切る H.Y. ④食後すぐ歯磨き（1月）



4 コーディネート講座とフリマ
衣服の組み合わせとドレスコードに
ついて学び、好きな衣類を選んだ



資料1	身だしなみに関するアンケート調査 【A 群】															
【アセスメントの方法】 ・ 時期：年度始めと、年度末にアセスメントを行う。 ・ 方法：A 群は行動力調査で、「自分がどれくらい身だしなみを整えているか」と「他人の身だしなみをどれくらい意識しているか」という、<u>実際にどれくらい行動（評価）しているか</u>をチェックするためのもの。Q1とQ2、Q5が自己意識に関すること、Q3とQ4は他者の評価に関すること、Q6はおしゃれに興味関心があるかの調査。 ・ B 群は知識量調査で、「身だしなみ」や「おしゃれ」に関して図や写真でチェックするためのもの。 ・ A 群が60 点満点、B 群が40 点満点、計100 点満点となる。 ・ A 群とB 群の群別の点数と総得点により、得意な分野と苦手な分野を把握し、「知識型」なのか「実践型」なのか「内発的動機が必要型」なのかを判別する。																
Q1 あなたは「身だしなみ」について、どのくらいできていると思いますか？ ① ちゃんとできている ② 少しできる ③ 気にしない ④ あまりできない ⑤ できてない 【程度の調査】 ①30 点 ④ 5 点 ②20 点 ⑤ 0 点 ③10 点																
Q2 あなたが「身だしなみ」で気を使っているのはどこですか？ <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">髪の中の状態</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">寝ぐせ、バサバサ、フケ</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">等</td> </tr> <tr> <td>顔の状態</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">肌荒れ、ニキビ、鼻毛、眉毛</td> <td style="text-align: center;">等</td> </tr> <tr> <td>服の状態</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">しわ、汚れ、ほつれ、ほこり</td> <td style="text-align: center;">等</td> </tr> <tr> <td>におい</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">口臭、体臭、汗のにおい、足</td> <td style="text-align: center;">等</td> </tr> <tr> <td>服のセンス・着こなし</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">色、柄、サイズ</td> <td style="text-align: center;">等</td> </tr> </table> 【箇所の調査】 記述×1 点 (MAX 5 点)		髪の中の状態	寝ぐせ、バサバサ、フケ	等	顔の状態	肌荒れ、ニキビ、鼻毛、眉毛	等	服の状態	しわ、汚れ、ほつれ、ほこり	等	におい	口臭、体臭、汗のにおい、足	等	服のセンス・着こなし	色、柄、サイズ	等
髪の中の状態	寝ぐせ、バサバサ、フケ	等														
顔の状態	肌荒れ、ニキビ、鼻毛、眉毛	等														
服の状態	しわ、汚れ、ほつれ、ほこり	等														
におい	口臭、体臭、汗のにおい、足	等														
服のセンス・着こなし	色、柄、サイズ	等														
Q3 初対面の時、相手の「見た目」は重要だと思いますか？ ① 重要です。 ② 重要ではないです。 【他者評価の調査】 ①5 点 ②0 点																
Q4 あなたが人と会った際、好意的な印象を受けるポイントは何ですか？（複数回答OK） ☐ 身だしなみ ☐ 笑顔・表情 ☐ 話し方 ☐ 丁寧なことばづかい ☐ しっかりとした挨拶 ☐ 姿勢 ☐ 聞き方 ☐ 声のトーン ☐ 特になし 【他者評価点の調査】 チェック個数×1 点 (MAX 5 点) (特になし＝0 点)																
Q5 （Q1で①～③と答えた方のみ回答） あなたは「誰のために」身だしなみを整えますか？（複数回答OK） ☐ 自分自身のため ☐ 友人・知人 ☐ 職場・仕事先（将来のため） ☐ 彼女（あるいは、彼女はいないがモテたいため） ☐ 家族 【他者意識の箇所調査】 チェック個数×1 点 (MAX 5 点) (特になし＝0 点)																
Q6 あなたは、ファッションや着こなしに興味ありますか？ ① 興味ある ② これから挑戦したい ③ 興味ない 【おしゃれ関心度調査】 ①10 点 ②5 点 ③0 点																

身だしなみに関するアンケート調査 【B群】

(1) 下のイラストを見ながら直した方が良い所を書いて下さい。



- ① 寝ぐせ ② 髭のそり残し ③ 第一ボタン閉め忘れ
④ ネクタイの緩み ⑤ スーツのシワ 各2点

(2) 下の写真を見て当てはまる言葉を選んで書いて下さい。



① 結婚式スーツ



② リクルートスーツ



③ 喪服

各5点

・リクルートスーツ ・喪服 ・結婚式スーツ

(3) 下の写真を見て服の名前を教えてください。



① Tシャツ



② コート



③ パーカー

各5点

・タートルネック・ジーパン・コート・ロングTシャツ・スウェット
・ジャンパー・ジーンズ・ブルゾン・Gジャン・カジュアル・パーカー
・インナー・ポロシャツ・シャツ・タンクトップ・カーディガン
・ニット・Tシャツ

男子棟2階

1 選定項目

余暇の充実

2 選定理由

学校研究のテーマである「働く力」を育むにあたり、男子棟2階ではその基盤となる生活をより豊かにするため昨年度から「余暇の充実」というテーマで取り組んだ。「余暇の充実」は趣味や楽しみをもつことになり、それは「働くための励み」「働いたあとの楽しみ」につながり「働くモチベーション」になると考えた。そこで生徒たちの興味、関心をもとに色々なレクリエーションや行事、活動を行い、卒業後も休日などの余暇時間が充実できるよう「楽しめること」を探してもらった活動を多数実施した。

昨年度の反省から、取り組みの前後で行ったアンケート調査によると「週末の楽しみは何ですか？」の問いに対し一番多かったのは「スマホ、ゲーム」であり、大きな変容は見受けられなかった。また、レクリエーション開催日は好きな生徒同士が集まってトランプやオセロ、ボードゲームやカラオケなどを楽しそうに行うのだが、普段の日は誘い合って行うことがあまり多くはなかった。

そこで今年度はより生徒主体で「これがやりたい」「これに興味がある」という遊びや活動を行える場や機会を設け「余暇の充実」を図ることで生涯の楽しみを見つける機会にしたいと考える。

3 実践内容

- (1) 6月26日(水) 夏物フリーマーケット 10月17日(木) 秋・冬物フリーマーケット

昨年度、生徒から好評で今年度も「また、服をえらんでみたい」という声が多かったので開催した。棟の職員の不要衣服を持ち寄ったが、生徒から話を聞いた学部職員からも衣服の提供があり、昨年よりも選択肢の多い品揃えでの開催となった。

- (2) 7月2日(火) 実習ごくろうさん会バーベキュー

3年生の生徒数名が1年生の頃から「バーベキューをやりたい!」と言い続けていたため待望の開催となった。最初は「外で炭をおこして盛大に行いたい」と言っていたが、その際の準備等を伝えると「面倒くさいな〜」との声が上がった。さらに炭の代金を伝えると「高い! そのお金でお肉をいっぱい食べたい!」とのことで梅雨時期だったこともあり室内でホットプレートを使用しての開催とした。

- (3) 7月18日(木) 第5回デイルームレクリエーション 部屋対抗イントロクイズ大会

「みんなで手軽にできる、やってみたい遊びを行う」という名目で昨年度から引き続き開催した。棟長、副棟長がみんなの声を聴き内容を考えた結果、最初にみんなで「部屋対抗イントロクイズ」を行い、その後「トランプ」「ウノ」「ジェンガ」「オセロ」「カラオケ」などを行った。

- (4) 9月10日(火) 第6回デイルームレクリエーション 怪談会

9月になっても残暑が厳しかったため「怪談で涼しくなろう」との声が上がった。そこで最初に希望した生徒、職員が話し手の怪談会を行い、ゾクゾクしたところで「ウノ」「オセロ」「ジェンガ」「なんじゃもんじゃ」などのゲームで熱くなってもらった。

- (5) 9月12日(木) お楽しみ夏まつり会

今年度から生徒たちが毎年楽しみにしていた寄宿舍夏まつりがなくなったことで「ぜひ棟で夏まつりをやりたい」との声が上がり開催した。内容は実行委員の生徒に考えてもらった結果「輪投げ」「千本引き」「くじ釣り」を、お菓子や文具などの景品を付けて行った。

- (6) 11月20日(水) 第7回デイルームレクリエーション 腕相撲大会

以前より生徒同士の腕相撲が流行しており、「腕相撲大会をやりたい!」との声が上がって開催した。腕相撲が苦手或不参加の生徒2名は、それぞれが「審判やります」「トーナメント表の記録します」との申し出があったので全員参加で行うことができた。

(7) 11月28日(木) 映画観賞会

11月レクリエーション実行委員生徒の「昨年の映画会が面白かったので今年もやりたい」との熱望で開催した。観たい映画のアンケートをとり、希望者の多かった作品二本を2会場で上映した。

4 取り組みの様子

(1) 6月26日(水) 夏物フリーマーケット 10月17日(木) 秋・冬物フリーマーケット

昨年度から引き続きの開催だったので、2,3年生は自分のサイズ、好みの色やスタイルなどが分かってきており「これいいな〜」「これに決めた」と言って短時間で自分好みの服を選ぶことができていた。また、洋服好きの棟長、副棟長が店員係として常駐し、古着屋風のBGMを流したり、服選びが不慣れな生徒に「これどう?」「〇〇にはこれ似合うと思うよ」とアドバイスしたりする場面もあった。



<良かった点>

- ・昨年よりも品数が豊富だったため多数の服の中から、より自分好みの色やデザイン、体型に合ったサイズの服を選ぶことができた。また、今年度は生徒同士でアドバイスし合う場面が増えてきた。

<改善点>

- ・Tシャツやトレーナー、パーカーなどが大半だったためズボンや小物などをもっと多く陳列し、アイテム同士の組み合わせも考える「トータルコーディネート」も踏まえた服選びができれば良かった。

(2) 7月2日(火) 実習ごくろうさん会バーベキュー

当日は食材の下準備、会場のセッティングなどを生徒中心で行った。テーブルに牛肉、豚肉、ウインナー、野菜などを並べると「いただきます!」の合図後すぐに鉄板で大量の肉が焼かれ始めた。生徒たちの食べるペースが上がり「焼いては食べる」が最高潮に達すると、ダイルームに充満した煙を火災報知器が感知しサイレンが鳴り響いた。それを見た数人の生徒が「焼肉の煙で火災報知器って鳴るんだ〜」と言っており、これから生活するうえでの注意事項を実際に体験することができた。



<良かった点>

- ・下準備の調理を担当した1年生の生徒はバーベキューに合わせたおいしい野菜の切り方を学ぶことができた。会が始まると焼肉に慣れている生徒が不慣れな生徒に「そろそろひっくり返して」「もう食べごろだよ」と肉の焼き方や食べるタイミングなどを教えていた。また、不慣れな生徒は実際にやってみて「まだ早かった」「こげちゃった」など自分にとってのおいしい焼き加減を知る良い経験となった。

<改善点>

- ・お肉の購入などは職員が行ったため、食材の価格や分量などを係の生徒と一緒に調べ、相談しながら購入しても良かった。

(3) 7月18日(木) 第5回デイルームレクリエーション 部屋対抗イントロクイズ大会

音楽好きの棟長が選曲したイントロでクイズが始まった。なんとなく聞き覚えのあるフレーズが流れると司会の副棟長が「さあ！この曲名は？」と生徒に投げかけた。すると「知ってる！何だっけ」ともどかしい自問自答と同室生徒間での相談が始まり、答えを書いたボードを掲げた直後に曲名が発表されると「よし！」「そうだった！」と明暗分かれる歓声があがった。その後は各種目の希望者同士でオセロやウノ、カラオケなどを行い「勝った！」「負けた！」の声や自慢の歌声が響く会となった。



<良かった点>

- ・イントロクイズは部屋対抗のため生徒同士が「これ〇〇じゃない？」「いや〇〇だよ！」と意見を出し合い協議、決定する良い経験ができた。

<改善点>

- ・出題者が棟長のみだったので「自分の好きな音楽を紹介する」という意味合いも込めて生徒全員から出題希望者を募っても良かった。

(4) 9月10日(火) 第6回デイルームレクリエーション 怪談会

明かりを消した暗いデイルームの中、話し手だけがオレンジ色の光に下から照らされるという設定で会は始まった。副棟長の「私たち家族にしか見えていない謎の白洋服の婦人」の話から始まり「中学校の廊下から聞こえた不思議な足音」「スマホの上に落ちてくる謎の液体」「自宅で遭遇した戦時中の初老の兵隊さん」などの話を各生徒が恐る恐る語ってくれた。中には途中で悲鳴を上げ退室する生徒もいたが、ほとんどの生徒は体を小刻みに震わせながら話し手の不思議な体験談に聞き入っていた。

その後、いつも通りトランプやウノ、ジェンガ等を行ったが、少し背後を気にしながらゲームを行う様子があり、消灯時間になると全部屋が常夜灯を点けて就寝するという事態になった。



<良かった点>

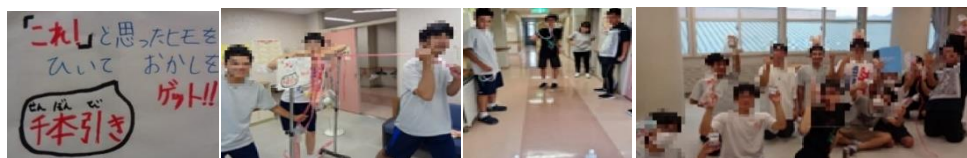
- ・話し手を希望した生徒が週末に母親相手に怪談の練習をしてくるなど、相手に伝わる話し方を自分なりに勉強、工夫する良い経験となった。また、普段消極的で人前で話すことが苦手な生徒が、話し手に立候補して怪談を披露する場面もあり、自分の殻を打ち破ろうとする様子も見受けられた。

<改善点>

- ・怪談が苦手な生徒数人が会場に入ることができなかつたり、途中退席したりしていたので「怪談話会」「面白い話会」など二本立てで開催し、全員参加できるような工夫が必要であった。

(5) 9月12日(木) お楽しみ夏まつり会>

「夏まつりの縁日」ということで3か所のゲームコーナーで係の生徒が一人ずつ担当し行った。「輪投げ」では「オレ、フライングディスク得意だよ！」という生徒が狙い通りに入らず悔しがり、「クジ釣り」では「オレ、溪流釣り得意だから！」という生徒は狙ったクジは釣れず、「千本引き」では「この賞品のヒモはこれだ！」と言って引くが目当ての賞品ではないなど終始喜びと悔しさの音が響き渡る縁日となった。



<良かった点>

- ・実行委員の生徒が各ゲームコーナーの担当に入り、説明や進行、景品の受け渡しなどを行ったため生徒同士で大変盛り上がる事ができていた。

<改善点>

- ・職員がゲームの景品を購入したため、係生徒が予算を踏まえながら生徒たちの嗜好を考え、景品を選ぶ機会を設定しても良かった。

(6) 11月20日(水) 第7回デイルームレクリエーション 腕相撲大会

企画、準備、実施まで生徒主導で行った。4回勝てば優勝のトーナメント表をつくり、クジを引いて対戦相手を決めた。審判である棟長の「レディーゴー！」の掛け声で勝負が始まると「うおー!」「なにこの!」と声上がり「〇〇がんばれ!」と声援を受けると顔を真っ赤にしながら男のプライドがぶつかり合う戦いが始まった。対戦が進み、決勝は優勝候補の3年生と、決勝まで行くとは誰も予想しなかった2年生との勝負になった。全員が見守るなか、決勝が始まるとお互い蓄積した疲労で腕がプルプル状態の接戦となったが3年生が先輩の意地を見せつけ見事初代王者に輝いた。その後の優勝者会見では「強さの秘訣は?」の問いに対し「うちの農作業小屋の梁で懸垂することです」と答えていた。



<良かった点>

- ・普段行う腕相撲の勝敗基準は「相手の手の甲がテーブルに着くまで」であったが、それでは肘や肩を痛める可能性があったため、対戦テーブルの左右に高さのある箱を設置し前腕の角度が約50度傾いたところで勝負が決するよう特別ルールをつくり開催した結果、腕を痛める生徒は出なかった。

<改善点>

- ・生徒が「トーナメント表をつくり、進行をやります」と言っていたので任せてみると、トーナメント表を書くことはできたが、審判、記録係を含め多くの生徒が勝敗線の見方、書き方を理解していなかったため事前に「トーナメント表」についての説明が必要であった。

(7) 11月28日(木) 映画観賞会

映画館風にプロジェクターとスクリーンを使用し「踊る大捜査線」「本当にあった怖い話」を上映した。また、個人の好みに応じたジュースとお菓子も配布し映画館の雰囲気を出した。「本当にあった怖い話」を観ている生徒の中には恐怖に耐えきれず「踊る大捜査線」の会場に逃げ込んだり、震えながらフードを被ったりする様子もあった。また「踊る大捜査線」を観終わったあと、主人公「青島俊作」のトランシーバーでの通話シーンに多大なる影響を受け、何度かトランシーバーシーンを模倣する生徒もいた。



<良かった点>

- ・「踊る大捜査線」を観たあと「面白かったので今上映中の踊る大捜査線を映画館で観たいです」と言う生徒もいたので、実際の映画館に興味を持つきっかけになった。

<改善点>

- ・観たい映画アンケートを取り、希望者の多い2本を上映したが、他にもアニメや恋愛系などの希望者も多かったため機会があればまた開催し、より生徒の興味の幅を広げていきたい。

5 まとめ（成果と課題）

ア 成果

- ・昨年度、余暇活動を実施するにあたり生徒に「何をやりたいか？」を尋ねたところドッジボールやウノ、トランプなど今まで学校や寄宿舎でやってきたものが大半であった。しかし今年度は「イントロクイズ」「腕相撲大会」「縁日ゲーム大会」「怪談話会」「増え鬼ごっこ大会」など、より生徒たちの「これやってみたい」「あれやったら面白そう」の声が出るようになり、実際にやってみることで「次はこんなのやってみたい」につながり、より生徒たちの興味、関心の幅を広げることができた。
- ・昨年度は各余暇活動の際に計画から準備、実施の際に大部分で職員の支援が必要であったが、今年度は職員が必要最低限の支援を行うだけで棟長や副棟長、実行委員の生徒が中心となり準備、実施できる場面が増えてきた。
- ・研究実践を行う前の5月と実践後の12月に同じ内容でとった「余暇充実アンケート」をもとに変容を考察すると、特に際立ったのは「寄宿舎の余暇時間にやってみたいことは何ですか？」の設問に対して5月は「特になし」2名、他カラオケや運動など11種類だったのに対し12月は「特になし」0名、他「お菓子づくり」「夕食づくり」「コスプレ大会」などが増え、7種類増の18種類となった。

イ 課題

- ・棟長、副棟長や各行事の実行委員が中心となって行う活動には、大多数の生徒が喜んで楽しそうに参加しているが、普段の余暇時間で他の生徒が中心となり「これやろうよ」と誘い合って遊ぶ様子はあまりなかった。
- ・実践前後でとった「余暇充実アンケート」の「自分の趣味、興味関心は何ですか？」「週末の楽しみは何ですか？」の設問の上位回答は昨年度と同様に「ゲーム」「スマホ」「ユーチューブ」で大きな変容は見受けられなかった。

※参考資料 「余暇充実アンケート」
 < 5月、12月に配布 同一生徒による回答 >

5月 寄宿舎生活 余暇充実アンケート
 名前

☆ 自分の趣味(好きなこと)や興味・関心のあることは何ですか？

特撮・アニメなどが趣味

☆ 週末(土、日)の楽しみは何ですか？

タブレットを見ること

☆ 寄宿舎の余暇時間にやっていたいことは何ですか？(ゲーム、TV、DVD等視聴以外で)

言周理(お好み焼きなど)

☆ 卒業後、仕事をしてお金(給料)をもらったらどんなことに使いたいですか？

日用品を買い置きしておく
 自分の好きな物を買う

※5月31日(金)の登校前までに様の先生に提出してください。

12月 寄宿舎生活 余暇充実アンケート
 名前

☆ 自分の趣味(好きなこと)や興味・関心のあることは何ですか？

仮面ライダーシリーズ・スーパー戦隊シリーズ・
 ウルトラマンシリーズ など

☆ 週末(土、日)の楽しみは何ですか？

タブレットで自分の好きな重カ画やアニメを見る
 自分の好きな特撮の雑誌を立ち読み
 (SF特撮雑誌アルファシオン等)

☆ 寄宿舎の余暇時間にやっていたいことは何ですか？(ゲーム、TV、DVD等視聴以外で)

男子オタク2人組でコスプレ(金髪アニメライクなキャラクター)を
 撮る

☆ 卒業後、仕事をしてお金(給料)をもらったらどんなことに使いたいですか？

自分の好きなものを買いたい 生活費など買う
 (宇宙船乗組員用タブレットモニタースクリーン)

※12月4日(水)の登校前までに部屋担当の先生に提出してください。

5月 寄宿舎生活 余暇充実アンケート
 名前

☆ 自分の趣味(好きなこと)や興味・関心のあることは何ですか？

ゲーム
 音楽鑑賞

☆ 週末(土、日)の楽しみは何ですか？

金銭関係の動画を見る

☆ 寄宿舎の余暇時間にやっていたいことは何ですか？(ゲーム、TV、DVD等視聴以外で)

かつお
 ごうかな料理を食べる

☆ 卒業後、仕事をしてお金(給料)をもらったらどんなことに使いたいですか？

旅行
 ゲーム
 ごうかな食事

※5月31日(金)の登校前までに様の先生に提出してください。

12月 寄宿舎生活 余暇充実アンケート
 名前

☆ 自分の趣味(好きなこと)や興味・関心のあることは何ですか？

ゲームウーキング、夕食作り など

☆ 週末(土、日)の楽しみは何ですか？

ゲーム、YouTube、買い物、たまに自宅で
 カラオケ (ジャンルは様々)

☆ 寄宿舎の余暇時間にやっていたいことは何ですか？(ゲーム、TV、DVD等視聴以外で)

カラオケ外し

☆ 卒業後、仕事をしてお金(給料)をもらったらどんなことに使いたいですか？

金銭道博物館に行く

※12月4日(水)の登校前までに部屋担当の先生に提出してください。

女子棟

1 選定項目

自らの課題に気づき意識するための支援

2 選定理由

令和4～5年度は体力づくりに取り組み、朝の運動が定着し生徒が主体的に取り組む様子が見られるようになった。生徒からも「体がすっきりしたり、温まったりすることを実感した。」という声が聞かれ、運動を習慣づけるきっかけになり体調管理に役立っていることが実感できた。健康面の意識は出てきたが、日常生活の様子を見ていると生徒自身の自己評価が高く自分自身の課題をきちんと把握できていないために職員が声掛けをしてもなかなか改善が見られない場合が多いと感じた。

就労に向けて身に付けたい力を生徒自身が理解することでスキルアップが図れるのではないかと考えた。より効果的な支援を目指すために、実態調査を行い課題ごとのグループを作り支援に取り組むこととした。

3 実践内容

- (1) 実態調査を行い、課題別に少人数のグループ編成をする。
- (2) 生徒に取り組みの説明を行い、グループでの話し合い活動を行う。
友達と話し課題を共有することで、自らの課題について取り組む意識の向上を図る。
- (3) 個人での取り組みの様子をグループで発表する。
お互いの取り組みの様子を発表しポジティブに評価し合う。
※生徒が進んで参加できるよう、茶話会形式も取り入れて行う。

4 取り組みの様子

(1) 経過

5月…実態調査（職業準備性ピラミッドを参考に課題をチェック）

グループ編成（課題別に5グループに分ける）

7月…グループごとの話し合い1回目（前期実習反省、シート記入）※参考資料①

8、9月…グループごとの話し合い2回目（シート記入、後期実習目標決め）※参考資料②

12月…グループごとの話し合い3回目（後期実習目標反省、シート目標振り返り）※参考資料③

【グループ編成】 各グループに職員1名入る。

Aグループ（言葉遣い：N・Y、M・H）
Bグループ（身だしなみ：I・A、G・H、I・A）
Cグループ（健康管理：S・R、K・R）
Dグループ（コミュニケーション：T・A、S・Y）
Eグループ（コミュニケーション：I・A、O・Y）

(2) 1回目の話し合いの様子

- ・課題に気付いてもらうための話し合いのきっかけとして、実習の反省をからめておやつを準備して行った。実習の反省 → 自分磨きシートに記入 → 発表・感想 の流れで行った。

- ・記入後に発表し合い仲間の良いところやもっと伸ばしたいところについて話をしたが、お互いに遠慮してなかなか言えないでいた。職員の話には身構えて素直に聞くことができない生徒もいた。
- ・グループによっては、シート記入に時間がかかり話し合いまでできないことや関係ないおしゃべりをして集中できない生徒もいたが、各グループとも自分で立てた目標を意識して生活することを確認する。

<良かった点>

- ・小人数のグループにしたことで、集中してできた。話しやすい雰囲気良かった。

<改善点>

- ・話し合いに十分な時間が取れるよう、進め方の工夫をする。

(3) 2回目の話し合いの様子

- ・グループごとに集まり、後期実習の目標（寄宿舍や家の生活で意識すること、がんばること）を立てて確認した。
- ・目標を考えられない生徒や何度目標にあげても達成できていないことを目標に挙げる生徒もあり、考えるための詳しい説明や助言等が必要であった。
- ・目標をグループ内で発表した際に、家では朝食を食べないと話し、実習中は1日3食きちんと食べることを目標にした生徒がおり、食事の大切さについて確認した。

<良かった点>

- ・後期は、「実習頑張ろう会」を行わなかったもので、実習中の生活について気をつけるべき点について考える機会となった。

<改善点>

- ・実習後の反省会をすぐに行うことができなかった。

(4) 3回目の話し合いの様子

- ・後期実習後にグループごとに集まり、後期実習の目標反省と自分磨きシートの目標の振り返りを行う予定だったが、時間が取れず、冬休み前にできたのはCグループのみであった。
- ・A子は、前回の話し合いの際に話題になった「1日3食きちんと食べる」ことについて、意識して取り組んだことを報告してくれた。
- ・A子は、自分磨きシートの目標について自己評価が3→6に上がっていたが、B子は、6→5に下がっていた。理由を聞くと、目標2つのうち1つが達成できなかったからと話す。A子は、初めは早く休みたいため不機嫌な表情であったが、B子に対するアドバイスを求めると表情が変わり自分の経験からいろいろ話をしてくれた。B子も話を聞いて参考になったようだった。

<良かった点>

- ・事前にプリント記入を済ませてから集まったので、話し合いに時間を取ることができた。
- ・お互いにアドバイスをすることで、違う視点から見ることができ、気づきがあった。

<改善点>

- ・自己評価について、周りから見た評価との違いと改善方法の意見交換について深める。

(5) 取り組みを通して

- ・職員の声掛けだけではなく気づきを得るきっかけ作りをしたいと考え小グループでの話し合い活動に取り組んだが、5月の実態調査の時には見えなかった課題が次第に明らかになり、見立ての甘さ、取り組みの内容や支援方法が生徒の実態に合っていなかったことがわかった。
- ・自己主張はできるが、人間関係を良好に築くための基本的なベースができておらず、周りへの配慮や周りから自分がどう見られているかという視点に気付けたところまでもっていくことができなかった。
- ・1年生は、個々の生活面での課題が大きく日課をこなすだけで精一杯である。

☆自分磨き・女子力アップシート		名前	
進路実現のために	▽将来、なりたい自分 ・卒業後の進路 ・どんな生活がしたいか	・老後の貯金を考える ・3年間(最低)働く！	
	▽自分の良いところ (得意なこと)	・うなぬなところ ・すぐ変える	仲間先生から見てどう？
	▽もっと伸ばしたいところ (苦手なこと)	・まわりを見る	
	▽自分の目標	かんは、て 働く(働く)	
	・今はどれくらいできている？	—1-2-3-4-5-6-7-8-9-10—	
	▽目標達成のために、 どのようにがんばるか	「作業スピードUP」	
▽目標の振り返り			
	・どれくらいできるようになった？	—1-2-3-4-5-6-7-8-9-10—	

※資料②

女子棟		名前	
こうきじしゅうもくひよう <後期実習目標> (きしゆくしゃ せいかつ いしき) (寄宿舎や家の生活で意識すること、がんばること)			
・早寝早起きを毎日し、規則正しい生活する ・体調管理を毎日しっかり出来るようにする			
ぐたいてき 具体的に			
夜は21:00に寝る。朝は6:00に起床する。 ・			
3食しっかり食べて、仕事に集中出来るように、水分補給を、疲れ時や体調が悪い時はしっかり ・休む。自分の体を守る			
はんせい 反省..			

※資料③

☆自分磨き・女子力アップシート		名前	
進路実現のために	♡将来、なりたい自分 ・卒業後の進路 ・どんな生活がしたいか	食々食堂、スーパー、料理屋ほほ、マクド、モス どんな生活がしたいか 今まで親にしていたことを将来実践し、一人でできるように生活したい お昼も家で家族にプレゼントをし、そこから2人で暮らしたい	
	♡自分の良いところ (得意なこと)	あまり人の褒めを言わない、時間を見る 人のお世話、おとなしい 一車庫車、キホルダー作り	
	♡もっと伸ばしたいところ (苦手なこと)	良く言われるとブス となるからアラスの方に考えて生活したい 人前で話す	
	♡自分の目標	どうどうと人前で話せるようになる マックスの方向にいかないようにする	
	♡目標達成のために、 どのようにがんばるか	普段から相手に聞こえる声で話す 落ち込んだ時は、家で好きなことをする	
	♡目標の振り返り ・どれくらいできるようになったか?	人前でどうどう話せるようになってきたのでこの調子で伸ばしていきたい。2年生が終わるまで達成できるように頑張っていく。 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		仲間・先生から見えてどうか?	・ミーティングでは、聞こえる声で話せるようになってきている ・落ち込んでいる時がある ・気持ちの切り替えができていない ・大きな声で話せるようになってきた ・マックスの気分を引きずらない ・ために → おやも食べたり、好きなことしたり、寝たり ・できる

→ 評価が低くなったのは、気持ちがマックスになる時があったから

☆自分磨き・女子力アップシート		名前	
進路実現のために	♡将来、なりたい自分 ・卒業後の進路 ・どんな生活がしたいか	調理補助、介護、保育園、店員の仕事をしてみたい。 仕事として給料をもらって一人暮らしをして、と暮らすマックス	
	♡自分の良いところ (得意なこと)	料理やお菓子づくり、ピアノやスケートをすること が得意	
	♡もっと伸ばしたいところ (苦手なこと)	異性と関わりたりコミュニケーションをできるようにしたい。	
	♡自分の目標	言葉遣いをもっと付ける。 5分前行動をする。	
	♡目標達成のために、 どのようにがんばるか	頭の中で考えながら話す。 時間を見て行動する	
	♡目標の振り返り ・どれくらいできるようになったか?	言葉遣いは、タメ口やさん付けに気をつけて話すことができた。 自分は何かから準備ができてくるのかを考えたから、時間前に行動できた。 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		仲間・先生から見えてどうか?	・周りから見えてきているように見える ・一時期、女子棟内で呼び捨てで話していたことがあったが、良くなった

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・棟毎での取り組みとしたことで、生徒の変化や新たに生じた課題に応じて適宜支援方法を工夫しながら取り組むことができた。
- ・活動の形を工夫することで、生徒が楽しみながら活動に参加する様子が多く見られた。
- ・時間経過とともに、また活動を重ねるうちに、主体的な行動が見られるようになってきた。
- ・昨年度より少ない支援で活動できる様子が見られた。

イ 課題

- ・取り組みの場以外では、過ごし方にあまり変化が見られない。
- ・現在の寄宿舍での生活が将来の生活（働く力）に結びつくという意識づけが難しく、自ら変わろうとする様子が見えにくい生徒も多い。成育歴や経験値などをもとに支援を工夫する必要がある。

VIII 研究のまとめ

本研究では、昨年度あがった成果を継続し課題を解決すべく、目指す生徒像を実現していくために、専門教科や寄宿舎で実践に取り組んだ。以下、成果と課題をあげる。

1 成果

各科や寄宿舎からの成果を以下にまとめる。

(1) 手順表や目標数、学習内容の提示の仕方の工夫

生徒が一人で見通しをもって行うことができ、自分でいつでも確認や振り返りしながら作業することができた。そのため、教師の支援も最小限で行うことができた。また、製品を正確、丁寧に作ることにつながり製品の質の向上につながった。

(2) 作業内容の繰り返し、経験の積み重ね

作業内容を繰り返し行うことや多様な経験を積み重ねることで、生徒の理解が深まり、自信をもって意欲的に動くことができた。また、技術力の向上につながった。

(3) 研究を充実していくため、「授業研究会の実施」「就業体験実習評価票の集約」「授業参観アンケートの実施」「研修会への参加」等を手段として、指導力向上の一助にすることができた。特に「就業体験実習評価票」「授業参観アンケート」を集約しまとめることで、ここ数年の傾向や今年度の強みや弱みを把握できた。

(4) 各科、寄宿舎の取り組みや実践を共有することができた。生徒がより充実して取り組み、結果として生徒一人一人が「働く力」を伸ばすことができた。

2 課題

(1) 1 学年は1 週間ごとに専門教科が変わるため、知識と技術の蓄積が難しい、生徒が作業に集中するために、朝礼と終礼のもち方や専門日誌の使い方、メモの活用方法など4 科で共有し、できる範囲での共通化を図っていきたい。

(2) 今後も「働く力」を高めるために、各専門教科や寄宿舎で出された課題を解決できるように授業実践や研究会をとおして、意見交換しながら共有を図り、今後も他の分掌と連携しながら進めていきたい。

令和6年度 研究に取り組んだ職員

校 長 矢鳴 慶之

副校長 高橋 奈津子

〔1 学年〕

小田島利紀 (農産)
 藤谷憲司 (加工)
 吉田誠一 (流通)
 後藤恵子 (農産)
 及川勝宏 (生活)
 菊池由香子 (流通)
 佐藤純子 (農産)
 刈屋開 (生活)
 村里明香 (流通)
 佐々木朝香 (加工)
 熊谷一葉 (農産)
 下権谷かおり (加工)
 高橋真由 (生活)
 大野孝雄 (流通)

〔2 学年〕

黒川浩 (流通)
 小原智子 (流通)
 大村成子 (生活)
 熊谷知子 (農産)
 高橋勝子 (生活)
 佐藤望 (流通)
 福田晃子 (農産)
 土居朝香 (流通)
 稻田雪恵 (加工)
 森川龍誠 (農産)
 沼崎悠華 (生活)
 遠藤大河 (加工)
 佐藤義文 (加工)
 熊谷如紘 (農産)
 白樫憲一 (農産)
 陳場信人 (加工)
 鈴木裕子 (生活)

〔3 学年〕

藤村良子 (流通)
 新里善徳 (加工)
 上山恭子 (生活)
 高橋恵子 (農産)
 小松泉 (生活)
 高橋尚憲 (生活)
 木津悠子 (農産)
 中村昭彦 (加工)
 赤澤雄一 (加工)
 菊地淑子 (流通)
 藤原崇行 (流通)
 馬場貴大 (加工)
 舘洞美里 (農産)
 五十嵐健人 (流通)
 小泉光則 (流通)
 佐々木亨恵 (農産)
 西利勝 (加工)
 渡部奈緒子 (生活)

〔寄宿舍〕

浅沼明子	横田泰洋
千葉育子	沼田育恵
鈴木満	佐藤祐美
澤田めぐみ	菊池成紀
小笠原利枝	玉川公栄
川村みどり	小原郁子
藤沢卓哉	佐藤麗奈
日廻葉子	川島久美子
峠館祥代	村田陸
山口祥	佐々木幸子

資料

資料1-①		就業体験実習評価票				
実習生氏名						
実習期間	令和 6年 月 日（曜日）～ 月 日（曜日）					
実習受入先の名称 及び所在地						
記入者名	（役職）					
実施していただいた 主な作業の内容						
勤務の状況	予定実習日数	日	遅刻 日（理由）			
			早退 日（理由）			
			欠勤 日（理由）			
			（備考）（			
項 目		評価 ※裏面の標準を参考に該当の欄に○				特 記 事 項
		A	B	C	D	
1 挨拶・返事ができる。						
2 作業にあった服装・身だしなみができる。						
3 分からないことを質問することができる。						
4 終了や失敗時に報告することができる。						
5 時間を守ることができる。						
6 決まりを守ることができる。						
7 指示とおりに取り組むことができる。						
8 正確に作業することができる。						
9 注意を素直に聞くことができる。						
10 時間中むらなく取り組むことができる。						
11 仕事を覚えようとしている。						
12 仕事を最後までやりとげることができる。						
13 集中して取り組むことができる。						
14 工夫して取り組むことができる。						
15 慣れるに従って習熟する。						
16 準備・後片付けをすることができる。						
17 道具・機械・材料等を丁寧に扱うことができる。						
18 危険に配慮して対応することができる。						
19 自分で健康管理をすることができる。						
20 仕事に興味や関心をもてる。						
総合評価	A	職業（就労）に適応することが可能と思われる。				
（該当する項目を	B	職業（就労）に適応するためには一部個人的な配慮を必要とする。				
○で囲む）	C	職業（就労）に適応するためには全体的に個別的な配慮が必要である。				
所 見	良い面					
	課題と思われる点など					

生活科学科

【どのような「働く力」が育成されていると感じたか、参考になった点、取り組んでみたい点】

クリーニング班	縫製デザイン班
・3年生が1年生に教え、アドバイスしながら進めている。 ・介護等体験の学生さんに分かりやすく作業内容を説明していた。 ・協力して作業、声を掛けて折り畳む、配達、領収書、営業チラシ、仕事を意識して活動ができていた。 ・グループ内でハチマキのプレス、畳みを分担し、1つの工程としてつなげることでチームとしての意識、自分の作業への責任感をもつことができているように感じた。 ・自分たちに任された仕事に責任をもつ姿勢や生徒同士で声を掛け合える関係性がよく思えた。教師も一緒になって働く姿があって良かった。 ・自分の作業に黙々と取り組む姿勢が良かった。 ・仲間同士で聞いたり、教えたりする関係性がとても良い。 ・聞かれたときにすぐに答えることができていた。 ・作業や使用している機械（用具）の説明をしっかりとするのが出来ていたところが立派だと思いました。 ・3年生が1年生に教えていた。自分の技術の定着につながっているようだと感じた。 ・実習生に仕事の内容を丁寧に説明する生徒をみて、自分の仕事（特に熱を発する機械）への責任を感じる事ができた。 ・生徒が自分の担当の作業が分かり、手順に従って進めている。 ・作業に集中して取り組んでおり、途中で手を休めたりせず、一つの工程が終わるまで行っている。 ・生徒一人一人が自分の役割を理解し、任された「仕事」を丁寧に取り組んでいた。 ・手順表が明確に示されていて、視覚的支援がなされていた。 ・お客様からの受注された商品への丁寧な扱い等、生徒がしっかり理解できている。	・1、3年生どちらも、工程が終わるたびに先生に報告していること。 ・作業室内の道具、黒板の掲示が整理されており、分かりやすかった。目標の視覚化もあり、生徒が見通しと課題数を意識して取り組めると感じた。 ・生徒が、手順書やチェックシートをもとに主体的に取り組んでいた。手順書を専用のファイルに挟んであり、チェックシートはコンパクトで使いやすいサイズ感に工夫されていて参考にしたかった。 ・一人が責任をもって、手順表を見ながら作業をしていた。よほどのことがない限り大人は手をかけないことを徹底していた。そこに至るまでの様々な支援があって生徒たちが確実に成長しているのだろうと感じた。 ・集中して自分の作業に責任をもって取り組んでいた。 ・作業途中の確認をしっかりと行っていた。（どのタイミングで何を確認してもらうのか明確でよいと思いました。） ・生徒が手順書をもとに自分で作業を進めている。（同一） ・分からないことを仲間同士で確認しながら進めている。 ・手順の間違いに気付いたら、すぐにやり直している。 ・地道に取り組む力。（同一） ・手指巧緻性。 ・デザインセンス（色の組み合わせ等） ・ホワイトボードにその日の作業内容やそれぞれの生徒の目標が分かるようになっていた。見通しをもたせるためにも生徒が見て分かる黒板やホワイトボードの使い方を意識したいと思う。 ・裂織り作業の丁寧な仕事ぶりや3年生が1年生に優しく教える姿がとても良かった。 ・色々なところで様々な技がありとても勉強になりました。

・計画（予定）に従って担当作業を仲間と協力して取り組んでいた。（働く力） ・ホワイトボードを活用し、1日の作業の予定表を作成して「作業内容」「分担」「担当者」を示していたところが参考になった。 ・作業手順、進行状況を視覚的に確認する工夫に取り組んでみたいと思いました。 ・宣伝活動やアンケート等の活動をとおして自分たちで考えて取り組む力、お客様の声を自分たちの取り組みに生かす力が育成されていると感じた。 ・学年で段階をふんで難易度を上げている。 ・白布の計量と畳みを行っていた。3人チームで声を掛け合いながら協力して取り組んでいた。（1年） ・質問すると丁寧に答えることができていた。（1年） ・シーツ、カーテン畳み…声を掛け合って協力して取り組んでいた。互いに教え合う。 ・先輩や先生が話したことをすぐメモする姿。 ・シーツ畳みで、口頭で悪い点をいうのではなく、実際にどのようにすれば空気が入ってしわになるのかについて良い、悪い例を師範していた点。 ・グループでクリーニング済みの物の仕分けをしていた。Tは少し離れた場所での見守りであった。生徒間のコミュニケーションのためには、常にTがそばにいるより良い面もあると感じた。 ・朝礼前の生徒間の小さなトラブル（声の掛け方）について、当事者だけでなく全体で確認されていた。ある程度関係性ができていると、つい流してしまうところを拾って、第3者が聞いてどう思ったか、どういう言い方が良かったかを丁寧に指導されていて、とても勉強になった。生徒達も気をつけるきっかけになったと思う。 ・仲間同士で声掛け合いながら作業に取り組む力。 ・作業工程を理解し、正確に作業する力。 ・上級生が1年生に「指導・指示」する場面が多くみられた。また1年生も「学ぼう」とする姿勢も感じる事ができた。 ・一人での作業もあるが協力して複数人で行う作業も多かった。声をかけあい、確認しながら作業を行っていた。周りの人と協力して作業を進める力が身につくと感じた。	・自分の作業手順を理解し集中して取り組んでいた。 ・製品の工程を分担しているため、「進行チェック表」で担当した生徒と確認、点検した職員で二重にチェックをしながら進めていた点が参考になった。 ・作業手順、進行状況を視覚的に確認する工夫をしていきたい。 ・決められた時間集中する。報告・確認が徹底されている。 ・表示・物品管理が働きやすい環境になっている。 ・介護実習生を交え、和やかな雰囲気でも作業を行っていた。 ・周囲をよく見て手を止めることなく動いていた生徒もいました。 ・藍染め体験…普段行うことができないのでいい経験になっていると思う。 ・目標が具体的（完成の個数、まっすぐ縫う…等）なので、生徒も意識しやすく評価もしやすいと感じた。そして、とにかく板書がきれい。 ・役割分担をして一つのエコバッグを作っているので、自分の仕事が分かりやすいし、自然と時間の意識にもつながっていると思う。（自分が終わらないと次の人が作業できない） ・集中力、粘り強さ ・忍耐力 ・ミシン操作、手縫いの技術向上 ・報告の仕方が黒板で示し、生徒が見て分かるように工夫されていた。 ・エコバック製作個数表もあり、目標が分かりやすく示されていた。 ・黒板にしっかりとスケジュールや観点が分かりやすく示されていて見通しをもって活動しやすいと思いました。 ・〇〇のとき→〇〇するなど、伝え方に困らないよう細かな支援が見られた。 ・生徒同士で教え合っていたり、周りに声をかけて行動したりしながら取り組んでいた。一人一人作っている製品が違うので、自分から分からない部分を確認して取り組んでいた。 ・手順表をもとに、生徒自身が考え、判断しながら取り組むことができる。 ・型紙等によって生徒が自信をもって取り組んでいる。
--	---

・上級生が実習生へ分かりやすく説明を行い、手本として正しい手順で相手が理解するまで動きを教えていた。 ・動作のポイントをおさえながら丁寧に行っていた。 ・3人1組でシーツの畳み方をやっていた。役割を交代しながら手順に沿って作業に取り組んでおり、終了後の報告まで流れていた。 (協力・報告) ・少人数の時に見たが、それぞれ役割をテキパキとこなしていた。 ・元気の良さ、キビキビ感。	・手先の器用さ。手順を間違えないように、手と足の組み換え、色のバランス。 ・緯糸巻きを決められた巻き方で「集中」して「丁寧」に作業を進めていた。 ・糸巻き、裂き織りの作業を時間で区切られていた。準備から本作業へと流れがある手順に工夫されていた。 ・各自がエコバックの作業を進めていた。手順表が整えられており、生徒が一人で作業を進められるようにしてあった。(手順表を見なくても進めていた。) ・各自、淡々と折り作業を進めていた。自分から報連相ができていて3年生は質問にも的確に答えていた。 ・ミシンで直線縫いをすること、終わった時に報告することを徹底していて、スピーディーな動きをしていました。 ・集中力、製品の良し悪しの見極め。 ・安全な機械操作のための指導。
共通 ・自分の仕事に責任をもってやり遂げる力。 ・一人一人が落ち着いて作業に取り組んでいるところがよいと思いました。 ・どちらの班も作業分担が明確に提示してあって分かりやすいところがよいと思いました。	

【課題点やその他気付いた点】

クリーニング班	縫製デザイン班
・先輩から教わっているとき、下級生同士が目配せして、にやにやしている様子が気になりました。 ・確認（報告・連絡・相談）の声に元気がない。 ・生徒の作業を見守るスタイルも良いと思うが同じ場で働きながらコミュニケーションをとるスタイルのほうがより臨場感があるように感じる。 ・1年生の言葉遣い。 ・白布の計量で、先生が「横から計測だよ」と指摘していたが、縦から計測することが幾度とあった。複数の生徒でいたが、午後ということもあり生徒同士で気付かなかったのが残念。 ・1日の作業内容と分担についての表が示され、表に基づき作業が進められていた。 ・今自分の作業はなんのためにやっているのか理解して取り組ませたいと思った。 ・生活・加工とともに機械が多くスペース、動線に余裕がない。	・上級生が下級生に指導する場面があった。指導するためには、多くのことを知っていなければならない、広く総合的な能力が求められる。責任を意識させるために効果的な学習方法と感じた。 ・作業室内が綺麗に整理されており参考になった。(同1) ・「目標個数・分担ボード」に記入し、しっかりスケジュールが管理されている点が素晴らしいと感じました。 ・細やかな部分を少しずつ外していけるような工夫も必要と感じた。(1年生段階のプレ科くらいには) ・板書がきれいに整理され示されていた。板書の活用について改めて気づくことができた。 ・視覚的な情報伝達が工夫されている。

・黙動清掃という雰囲気でした。先生方から積極的に清掃していて生徒も機械の隙間のゴミを丁寧に集めていました。 ・チームで行っているので教師に報告する前に3人で出来栄をチェックすることあっても良いかと思った。 ・作業中ではあったが、気持ちが緩んでいる生徒が見受けられた。(ON、OFFを切り替え作業中は気を引き締めて取り組めると良い。)	
共通	

農産技術科

【どのような「働く力」が育成されていると感じたか、参考になった点、取り組んでみたい点】

農業班	園芸班
・雑草対策のための枝、小枝の切断作業を少人数（3名）で行っていた。分担し、一定のペースで作業を黙々と進めており、「働く力」として根気強さが育まれていると感じた。 ・作業の合間の会話は、生徒の把握、カウンセリングの場でもあったと感じた。 ・生徒同士、声を掛け合いながらかん水の作業を行っていた。生徒に任せて作業を進めることで、協力する力が育まれていると感じた。 ・ネギの追肥…追肥の方法、注意点、説明をしっかりと確認し、真剣に取り組んでいた。なかなかの作業量を仲間と協力してやっている様子が良かった。 ・自分たちが取り組んでいる作業をしっかりと理解し、聞かれたことにも正確に答えることができていたので良かった。 ・刈った芝を集める作業。生徒が主導して進めているようだった。慣れた作業のためか、リーダーの生徒が指示し、他の生徒も自ら動きつつ、確認したいことはリーダーに確認していた。リーダーは自信があるからこそできる指示だろうし、自ら状況を判断して指示したり、確認作業をとれる力は、働く上でも役立つ力だと思った。 ・草集めの場面で、一人で黙々と作業する場面と協力して運ぶ場面があり、一人でやり遂げる力と周りとの協力する力、双方の力がつきそうだと感じた。 ・分からないことや迷ったことは、先生に確認してから作業に取り組んでいた。 ・暑い中でも作業に取り組む体力と集中力が育まれていると感じた。 ・重い物を運んだり、中腰での作業も多く、体力や忍耐力がつくと感じた。熱中症予防も考慮した休憩の仕方も身について良いと思った。 【1年生】 ・一人一役だが、協力して行うことが必要な灌水を見て、効率の良い方法を考える力や責任感が身についていると感じた。	・中庭花壇の重石の運搬作業を少人数（2名）で行っていた。効率よく、作業を進めるために運搬する量と時間を見ながら進めていたところが「働く力」だと感じた。 ・時間内での作業量を見通して指導にあたっているところを参考にしたい。 ・自分の作業に集中し、無駄話をせずに取り組んでいた。 ・自分の担当する作業（播種）に集中して取り組んでいた。種を一つずつ慎重に置いていた。 ・ドライフラワーを輪ゴムで束ねる作業をしていた。どの植物だと何本で束ねる等、細かいところが身に付き、指示なく作業できていた。立ち作業で黙々と取り組んでおり、手先の器用さだけではなく、集中力や体力もつくと感じた。 ・ホワイトボードの作業内容が端的で分かりやすく、生徒が見通しをもって働くことができると感じた。 ・花材の束の本数の一覧を見ながら生徒が作業していて、一人で取り組む経験になっていると思った。 ・少ない人数だったが、声を掛け合いながら作業に取り組んでいた。 ・自分で仕事を見つけて、自分から取り組む主体性が育まれていると感じた。 ・仲間と声を掛け合って協力していた。 ・ドライフラワーを束ねる作業を見学した。繊細なものを崩さないように、大きさや数のバランスを考えながらの立ち仕事だった。考えながらの作業の訓練、足腰の訓練ができていたと思った。 【1年生】 ・収穫するものとしらないものを区別できていた。（指示理解の向上） ・困った時の相談の仕方が身についていた。周囲の状況を見ながら相談や依頼をして仕事を進めることができていた。 ・2年に1度行う道路側のアジサイの環境整備：フェンス2枚分、その後1枚分の仕事内容の見通しを大きい声で適確に指示していた。それに対し生徒は「はいっ」と大きい声

・じゃがいもサイズ仕分け。ライン作業ではないが、テンポよく作業する力。流れ作業の中で、簡潔な言葉での意思疎通、連絡ができていた。最初の人サイズを調べてシートの上に置くが、次の人は気になったじゃがいもは再度チェックしていた。責任をもって役割を遂行していると感じた。 ・挨拶や返事が大きく、揃っていて立派だった。どの働く場でも生きる力だと思えます。 ・朝礼の職員からの話のメモ…簡潔なキーワードで示されており、分かりやすかった。 ・ポットの洗浄作業…「計画性」片付けをしながら準備を進めている。「効率性・協力」全員で2段階で作業を進めている。「環境整備」作業用具等の整理整頓がなされている。「責任感」日頃、どんな天候でも外での作業に取り組んでいる。 ・除草剤を先輩・後輩とペアを組ませ協力して行っていた。職員からのアドバイス・ポイントを良く聞き取り受け答えをしていた。 ・気づいて他に協力する力や時間を守って効率よく仕事をこなす力が養われていると感じた。 ・ホワイトボードの記載や教師の丁寧な声掛けによって、生徒が見通しをもって行動することができていた。 ・臭いなど、近隣住民への配慮がされていた。 ・3年生が1年生をリードしていた。 ・(当たり前ですが) 直接の販売は、お客様に喜んでいただく笑顔が見られたり、感謝の言葉を聞いたり、働く意欲に直結する活動だと思います。元気のいい声、笑顔いっぱいだと購入したくなると思います。	で返事をしていて良かった。仕事分担の確認のため、必要なところを質問して話させて、分かっているかどうか確認していることも良かった。 ・ひょうたんの種出し作業。寒空で匂いのキツイ作業に集中し、黙々と取り組んでいた…多少のつらい作業でも取り組める根気強さが培われると思う。種が全部除去されたか適宜確認…作業が正確に行われているか自ら適宜確認する力が育まれると思う。どうしたら種を効率的に取り出せるのか自分なりに工夫する…どうしたら上手く作業できるか試行錯誤する力が付くと感じた。 ・実習の個人目標の達成度を付箋に記入し、確認していた。 ・ミスがあるときに自分で気づけるように声掛けをしていた。 ・リース製作用花の採取…「観察力・判断力」花の大きさを見ながら材料として適したものを選別している。また剪定する場所を間違わないよう慎重に作業していた。「計画性」次の作業を見据えて。摘み取る時期を判断し作業している。「分担・効率性」複数ある花を担当を決めてそれぞれ作業を進めている。 ・種類の多い花や道具の名前を正しく覚えるためにも写真付きの段階手順表が役に立つと思った。 ・教室内の整理整頓がされていて、作業がスムーズに進んでいた。 ・返事、反応が素晴らしい。一人一人が声を出していた。 ・リース作りの手順を覚え、一人で作業を進めることができおり、必要な報告を自分から行っていた。 ・リースの手順書がとても分かりやすかったです。「～が終わりましたので、確認をお願いします。」という文も書かれていて、どこまで進んだらどのように報告するのかが分かりやすいと思いました。 ・リース作りの際、環境整備が行われており、生徒自身が材料置き場や道具の配置を工夫する場面が見られた。 ・1学年はペアになって協力して製作する力(協調性)、手順書を読みとる力が(指示や説明の内容を理解する力)が育まれていると思った。
--	---

	・花の保管場所が整理されていて、生徒も見通しをもちながら選んで作業していると感じた。 ・手順表があつて、取り組みやすい相談の仕方が書かれており、生徒から報告や相談ができていた。 ・リース製作では基本の形が決まっている上で、各自、花を選びバランスを考えていたので、生徒は悩みすぎない程度に個性を出せると感じた。 ・1年生のフラワーボトルを見せていただきました。花作りからドライフラワーを作り、製品に仕上げ、販売をするという一連の流れは、ただフラワーボト作りで製作する以上にワクワク感だったり、仕上がったときの喜びは大きいと思います。手本があつたり手順書（質問するときの赤文字付）は特にも分かりやすくスムーズに作業ができていたと思いました。
共通 ・花壇への花苗植えを1、3年で取り組んでいたが、1年生は3年生を手本として自分の作業に集中して取り組んでいた。	

【課題点やその他気付いた点】

農業班	園芸班
	・仲間が畑をきれいに耕す作業を終えた後に他の人が畑を歩いていたため、仲間の担当した場所の把握・共有が必要だと感じました。
共通	

加工生産科

【どのような「働く力」が育成されていると感じたか、参考になった点、取り組んでみたい点】

木工班	窯業班
・プラカードを一つ一つ真剣にチェックしていた。→良い製品作りにつながると感じた。 ・作業終了後の報告確認が定着している。(1年) ・手本を見せながら、子ども達に実際に触れさせ、視覚だけでなく、触覚的にも確認していたのでより分かりやすいと感じた。(1年) ・製作過程を黒板に掲示していて分かりやすい。 ・ダメなことをなぜダメか考えさせる。 ・プラカードの棒の部分と並べるための教具を使いながら、生徒が主体的に作業に取り組んでいた。 ・黒板にやるべき作業が書き出され、終わったものから見え消し線を引いていた。見通しをもつことができ、生徒同士で話し合っている姿が見られた。 ・挨拶、返事がしっかりしている。 ・分からない部分はすぐに職員に聞いていた。 ・自分の取り組んでいることがどのように仕上がり、どう提供されていくのかをしっかりと理解して取り組んでいた。 ・作業の確認のとき、自分で考える力、良しあしだけでなく、どうしてそうなのかを教師と一緒に考えるところが良いと思いました。 ・生徒の目標意識が高まる工夫を授業の中に取り入れている点を参考にしたい。 ・作業中に、生徒と職員が話し合う場面があり、指導者という立場ではなく職場の仲間として意見交換をしていた。生徒の考えを伝える力、コミュニケーション力が育成されていると感じた。 ・カッティングボードのやすりがけ…たんたんとした仕事で集中し続ける強い心が育ちそうです。両手指に力を加える作業は職人さんのように見えました。手の使い方、あらためて、生徒に伝えたいと思いました。 ・挨拶などの所作においても指先まで意識する丁寧さ。 ・手元に手順表を置くのではなく、黒板に掲示しているのを見ることで環境が整えられている。	・一人でコーヒーカップを作っていた。作り方についてメモも何も見ないで作業していた。 ・個人目標が見やすく掲示されていて、意識付けにつながっている。 ・生徒の作業を見て的確に指導していると感じました。 ・個人目標、生産目標などを具体的に設定しているため、目標に向かってそのような工夫や努力ができるかを生徒自身が考えて作業することができる。 ・職員が、報告の仕方についても丁寧にアドバイスをしている場面があり、働くうえで必要な態度面の力も育成されていると感じた。 ・環境について①道具の場所が明確（ラベルシールあり）②整理整頓されている（棚、生徒の私物、道具など）③黒板に手順や時間、目標数等が示されている→見通しがもてる等の工夫によって、生徒が主体的に準備や片付け、作業に取り組むことが出来る点、参考にしたいと思う。 ・無心に土に向かって作業している表情がよかったですと思います。完成までのイメージ、見通しをもって作業していることも必要だと思いました。 ・何をやるのかが明確になっており、集中できると思いました。重さ「1000g」など分かりやすい。 ・くつつかないかの判断→場所を変えて、1回はがしてみるとというのが考える力を育てていると思った。 ・一つ一つ粘土に同じものがないので臨機応変さが求められると感じた。 ・作業の一連の流れを、一枚の表で示しており分かりやすいと感じた。 ・失敗しても、また0から作り直しができる切り替えの早さが働く力につながっていると感じた。 ・報連相がしっかりできていた。 ・作業の開始時間や次にやる事を伝えることで生徒が見通しをもち、作業に取り組んでいた。

・よくできている製品をみんなで見る（さわりごごち、光りぐあい）。→違いに気づきにくい生徒にどのように支援されているのか知りたいです。 ・どういった原因でその結果となったのか説明できる。 ・目で見て判断して作業する力が高まる。 ・バンドソーでは、生徒と職員がペアを組み声かけをしながら行っていた。また、職員からのアドバイスに対して生徒は目を見て感謝の気持ちを伝えていてすばらしいと感じた。 ・報告・連絡がしっかりとできていて（言葉遣い、姿勢）、身についていると感じた。 ・3年生の生徒3人が木箱の仮組みをしていて、うまく組み合わせができない時に、3人で案を出し合ったり、自分の意見や思いを話したりして、製作に熱意を感じた。 ・生徒が製作工程や製品の特長などを丁寧に説明してくれた。 ・自分で仕事を進めることができる力に加えて、判断に迷う際に聞く力がある姿。 ・掲示物が整理されている。 ・見通しをもって進んで取り組んでいた。チームワークの良さを感じた。製品づくりの良しあしを自分で判断したり、相談したりして将来につながる場面が多かった。 ・プラカードの手直しをしていた。どれが良くてどれが良くないかを自分たちで判断しながら進めていた。また、判断がつかないものについては、確認するということが徹底されていた。 ・カッティングボードの製作、手順の説明を1つの項目について生徒にまとめて説明していた。 ・どのように進めるのが正しくて、そうでない行い方でやるとどうなるのかを分かりやすく説明していた。自分で自分の作業の良し悪しを考えながら進められると思った。 ・職員が働く姿を「見せる」…生徒と職員のペアでは、声掛け、その場で考えさせる。 ・参観者が木工室に入室すると大きな声で挨拶がかえってくる。 ・質問すると一生懸命答える姿。 ・機械を扱う時お互いが声を掛け合う点。「トリマー使います」「はい」 ・礼の仕方を動画で録って確認したところ～自分では分からないため動画を見て自分で確認できる、綺麗に礼をするのは大事なので。	・説明できる力があること。仕事内容を理解していること。正しく進めることができる力を持っていると感じた。 ・じっくり粘土と向き合う姿勢を指導者側が汗を流して仕事への姿勢を示していた。普段の生活で不用意な発言をしがちな生徒もその姿勢から学んでいるようだった。 ・先輩が1年生に教えたり、仕上げの確認をしたりしており、1年生も素直に聞いていた点。 ・生徒一人ひとりが何をやっているのか、何のためにやっているのか、それをやらないとどうになってしまうのかまでこたえられる、何度も学習、確認している証拠だと思う。 ・「では次は〇〇をします」と生徒が言えている。自ら次の仕事に取り掛かっている。 ・仕上げ作業でやすり掛けをしていた。出来栄を意識して行っていた。 ・作業環境が掲示物も含めて整理され、自分が<u>何の作業をすればよいのか</u>明示されていると感じた。 →作業の集中力に通じるか ・自立して製品製作に取り組んでいた。 ・基本的な道具の扱い方を分かりやすく説明してくれた。 ・集中力の持続性。 ・課題解決する力。 ・（1年）小皿成形に取り組んでいた。3年生が1人教えに来てくれていて、1年生も安心して取り組んでいた。 ・（1年）見本と比べて自分が作成した物がどうか、見比べる、確認する、修正する力がつくと感じた。 ・（1年）作り方が目の前に提示されていて分かりやすいと感じた。 ・（1年）Tが「どこからスタートするんだっただ？」と声掛けし、生徒がどこに視線を向けるのか思い出そうとしていた。 ・手順を覚える段階のようでしたが、みんな集中して作業をしていたと思います。先輩が仕上がりを確認する担当になっていて、先輩も勉強になっていると思いました。 ・一人ひとり今日の目標を記入し、黒板に貼っている点。 ・周りを気にせず、一人ひとりが集中できる環境整備。
--	---

・ある程度任せきるところは任せていて生徒に責任感が生まれているように思う。 ・割り振り、何をするのかも3年生が考えて行っている点。 ・全員が挨拶、返事ができる、(大きな声で) ・仲間同士で確認、相談し合うことができる。 ・自分がTに学んだことを、次は同級生に教えることで、教えた生徒の理解力や説明する力が高まると感じた。 ・1年生は、お互いの作業の様子が見え、安心して、自信をもって作業をすることができると感じた。 ・3年生は自分の担当する仕事に黙々と集中して取り組んでいた。 ・協調性。 ・ノルマを果たす姿を見ることができた。 ・危険な状況判断をしながら取り組んでいた。 ・安全に機械類を操作するために、「(機械名)使います。」と声が出ていた。普段、前に出て話すときに意識しすぎ、緊張して声の小さい女生徒も、みんなによく聞こえるよう声を出して立派にできていました。(結団式も同様でマイクなしでも声がよく出ていました。) ・本人のやる気と、そうさせる科の雰囲気、そうできる指導、支援の方法をお聞きし、参考にしたいです。 ・自分が今やっている仕事はどうつながっていくか、どうお客様まで届くのか届けたいのかの意識をもって取り組んでいると感じました。 ・見本、手本を指導する側が一度見せてから一人でできるように、最初の指導を大切にしている点。 ・自分で作ったものを分かるようにし、後から完成度を確認できる点。 ・参観に入った時からさわやかな挨拶ができていた。 ・生徒自身による製品の説明をしてくれた。 ・どの生徒も集中して作業に取り組んでいた。 ・作業の行程ごとに作業台が分かれており、手順表も併せて使用しているため、自分がどこまでの作業を終えたか、見通しをもちやすい。 ・先輩が自然と後輩に教えたり、後輩が先輩の作業を真似て取り組んだりしているのが良かった。	・目標(班、個人)が常に掲示で確認でき、生徒自身も振り返りやすいと思う。自分の課題も意識しやすい。 ・生徒一人で取り組む=自分の責任で行う経験につながっていると思う。 ・生徒自身(3年生)が不具合に気付いて丁寧に作業していた。生徒同士で声を掛け合っているところが良かった。 ・(1年)粘土づくりの準備をしていた。ビニール袋をまとめて結ぶ、ほどく、というような基本的なことではあるが、繰り返し行うことでコツを身につけることができていた様子だった。 ・(1年)「できません」とすぐあきらめの言葉をだしてしまう生徒には安易に手を出さず、やれるよう、コツを教えたり、激励したりして「できる」状況にしていること。 ・集中力 ・視覚的なポイント確認と具体的指示有用性。
--	--

・自分が今取り組んでいる作業について、しっかり説明できる。(工程について、セールスポイントについても。) ・新しい機械を生徒に使用させるときの教師の説明が正しい使い方、間違った使い方、手の置き方など、分かりやすい。 ・製作途中の確認・判断力の育成。 ・協力・共同を意識したグループ活動。	
共通 ・3年生は、挨拶が元気よくできている。参加者の質問に対して丁寧に説明する姿。 ・1年生は、指導者の話を聞く態度が良い。挨拶や報告がスムーズにできていた。 ・1年生は、必要な時は自分から聞きに行き、それ以外の声掛けは必要最低限にしていることが印象的だった。生徒たちだけで考えさせる時間を大切にしていると感じた。 ・目標の設定や振り返りを大切にしている様子が見える。 ・集中して、自分が仕上がりを確認しながら作業をすすめる力。 ・安全に気をつけて正確に用具を扱う。 ・適切なタイミングで教師から助言があった。 ・生徒が自分の行っている作業を理解して説明できるところがよいと思いました。	

【課題点やその他気付いた点】

木工班	窯業班
・生徒の実態に応じた声掛け、指導ができている。 ・指示や説明の内容を理解できているか確認しながらすすめていたのがよい。	・目の前に小皿仕上げの手順表があるにも関わらず、手順をとばして取り組んでいた。先生に報告してから手順表に気付いていた。 ・気持ちのコントロール(2年生)に課題が見られた。 ・出来栄えの判断基準を自分で行っていてよい(1年) ・考えながら、困ったことがあるとすぐに教師に相談できていた。 ・土に向き合い、作業する心地よさも段々に感じられるといいと思いました。(個人の感想です。)
共通 ・1年生、全員ではないが言葉遣いに課題。	

【どのような「働く力」が育成されていると感じたか、参考になった点、取り組んでみたい点】

事務班	清掃班
・1年生のポチ袋作成で、流通の挨拶「いってらっしゃいませ」等が定着していた。 ・返事（反応）良い。（1年生） ・作業開始前に個々に手順表で作業工程の確認し、指示しなくても必要な道具の準備を自分達で行う様子（1年生） ・新聞紙を再利用しての袋作りはSDGsでの取り組みが行われていました。生徒にも伝わっているといいと思いました。 ・説明された段取りのまま、素直に作業していて感心しました。 ・繰り返しの作業に丁寧に取り組む力、自然なコミュニケーションがあると感じました。 ・細い針金でボンドをつける作業では手先の器用さや集中力が求められると思いました。 ・生徒同士、お互いに自然に声を掛け合いながら作業を進めているところが印象に残りました。職員も働く仲間の一員として一緒に作業を進めていました。 ・プラカードの製作を見学させていただきました。シールを貼る作業はとても慎重で細かな仕事でしたが、3年生は慣れた手つきでスムーズな作業を進める力が身についていた。それぞれの役割分担がしっかりしていてとても効率的に作業していた。 ・困った時、すぐに相談できる体制がとられていた。場面設定など、テーブルごとに設けられ実践できていた。 ・メモブロックの製作、1年生では短冊づくりをしていたが（6月第1週）その工程と共通している部分があり（そのように見えました）段階を踏んだ作業内容の工夫がみられた。 ・受注品のプラカード作成を見学できました。素早い作業で阿吽の呼吸で作業していてすごいと思いました。 ・ドットCOMの売り上げ計算をしていて、自分たちの製品が売れたのを目に見えるお金として見えるのはいいなと感じた。 ・プラカードの校名貼りでは、なかなか慎重な作業でしたが、声を掛け合い協力して行う様子がとても良かった。	・体育館清掃では、用具の扱いができていた。モップの拭き方が3人シンクロして揃っていた。 ・廊下と違い広い場所で清掃をグループで行っていた点。 ・指示を聞いて正確に清掃する点や体力がないと道具の搬入出や清掃できないので体力が付いていると感じました。 ・分担、連携がとれていてスピード感があった。 ・一人ひとり役割を分担し、自分が任された仕事を全うしている場面が見られた。自分の仕事をしながらも、生徒同士で良・不良のチェックをし、自分のスキルアップにつながる展開をしているところが良かった。教師からの指摘より生徒同士の指摘のほうが心に残る場合が多く、そういったやりとりがスキルアップにつながると思う。自分も取り入れたい。 ・コードを片手で巻き、他の人と協力して邪魔にならないようにしていた。 ・生徒同士、お互いに声を掛け合いながら作業を進めていた。ペア、チームで協力して仕事をする力。 ・聴覚的な情報やジェスチャーを中心に指示がなされていた。聞いて作業する力。 ・1回目と2回目（ワックスがけ）の違いを目で見て判断する、違いが分かる力。 ・何をするか自分たちで分担する、何が不足しているか考える力。 ・実際に利用している人の前で清掃することで、感謝される体験にもなっていると感じた。 ・自分の役割に責任をもって作業に取り組んでいる。 ・時間・ペース配分、丁寧な清掃を意識、報告など働くうえで必要な要素をしっかり指導とおして生徒が意識できていた。 ・外部清掃の前に学校の体育館で練習をしている。段階を踏んでステップアップする形が生徒にあっていて感じた。 ・チームワークの大切さ ・自分以外の仕事も「確認し合い、教え合い」の声掛けの様子がとても良かった。

・プラカードの校名貼りでは、どうしたらうまくいくのか自分たちで考えて作業するところや校名を逆さまに貼ってたが、次回からはみんなで確認し合ってた。自分たちで考えてやっていた良かった。 ・手先の細かい作業を集中して丁寧に行っていた。仕上がりまで3つの工程があるが2～3人のグループで同様の作業を進めていました。まとまった枚数を早く仕上げるのに効果があると感じた。 ・個々の作業の得意不得手に応じた分担を心掛け、生徒の得意を伸ばす指導も考えていきたいと思った。 ・製品の品質管理については明確に規定されている。 ・生徒同士で協力をし、プラカードを作成していた。学校名を貼る際に気泡ができてしまったが、声を掛けあって作業ができていた。 ・自分の担当する作業に生徒一人一人が集中して取り組んでいる。 ・カッター等の道具を安全に丁寧に扱っている。 ・パソコンを使用して伝票番号の確認はパソコン操作能力やアルファベット（大文字・小文字）の理解力。 ・校内で受注された園芸班のリースを入れる箱を分業して作っていた。自分の担当している作業に集中して取り組んでいた。 ・販売の活動をとおして、自分のオススメを紹介できていた。 ・商品の補充ができていた。 ・細かな作業を真剣に取り組むことができていました。商品作り（峰南祭）を急いでいるとのことで、袋詰めの作業をしている生徒が売れ筋も説明してくれていた。 ・（農産から受託した箱を製作していた。）ペアで作業しているグループは、組み立て作業のポイントをチェックしながら作業しており、自分たちで仕上がりを確認してから教師の点検を受けていた。（点検・協力・報告） ・「リース箱づくり」に取り組んでいた。箱の切りだし、組み立て、装飾用の材料準備等「分担」して作業を進めていた。 ・一人一人の作業スペースが確保されていて作業しやすい環境でした。 ・個人個人で作業しつつも、迷ったときや困ったときはまず仲間に相談しているところが良かった。	・ワックス塗りは時間の制限がある中、スピードの正確さ、連携などの多くのことが求められるのが参考になりました。 ・清掃技術を校内で学び、外部施設で生かすという流れで生徒の自己有用感を高めている。 ・窓清掃を行っていました。清掃用具の扱い方にも慣れ集中して窓清掃を行っていた。 ・外部清掃は、たくさんの使用物品があるが、それを協力しテキパキとトラックへ運んだり降ろして片付けたりしている様子を見て、自分がやるべき事、次に何をしたら良いかを考え、動く力が育っていると感じる。 ・働く上で、細かい所まできちんと清掃するよう声掛けをしていた。その声掛けによって生徒たち（1年生）の集中力が増したように感じた。 ・（1年）『スッ』と入れる、「ちょっと」など感覚を身につけなければならないところを丁寧に生徒と確認していた。ミスがあったときも、指さしで一緒に確認したうえで、どうするかを端的に伝えていた。 ・（1年）道具の名前や使い方を繰り返し生徒と丁寧に確認していた。 ・（1年）黙々と窓清掃に取り組んでいた。 ・商品開発・製作時の細部へのこだわり→品質管理への高い意識 ・どの生徒も無駄話せず、黙々と作業に取り組んでいた。（集中力） ・道具等を正しく大切に扱うことができていた。 ・指示や説明をきいて正確に仕事をこなしていた。 ・「HR 窓清掃」を行っていた。2～3人1組に指導する教員1名がついていた。作業効率、きめ細かい指導の面から効率的な取り組みになっていると感じた。生徒の「意欲」的に作業している様子が印象に残った。 ・繰り返し作業することで技術定着 ・チームワーク、時間への意識。
--	---

・カッターの操作、紙を正確に折る等の技術向上。 ・手指巧緻性と集中力。 ・ミニノート作りに苦戦している生徒もいる様子だったが、少し難しい課題設定によってやり通す力が育成されると思いました。 ・目標が明確で実態に合った設定がされていて、作業途中に目標と照らし合わせて仕上がりの確認をしていて「できている、できていない」がはっきり分かり良いと思いました。 ・学校要覧の折り方作業について。チェック後の説明が具体的で生徒にとって分かりやすいと思いました。静かに丁寧に伝えていたので、本人の意欲もさがらず、あたたかく感じました。 ・3年生が1年生に教えている場面。3年生自信も教わったポイントを再度確認する良い機会になっているし、後輩で学びをつないでいる点がとても良いと感じた。生徒同士の学び合いになっていると感じた。	
共通 ・プラカードのシール貼りを見学。チームで声を掛けあいながら協力して取り組んでいました。また、リペアシートのやり方ではメモを活用する場面があったこと。 ・加工と流通の2科で連携し高野連のプラカードを製作する取り組みは大変良いと感じた。	

【課題点やその他気付いた点】

事務班	清掃班
・1年生のポチ袋作成の際、机上（生徒の）をもう少し整理するといいなあと感じた生徒がいました。 ・広告や新聞紙の再利用の袋を、女子WCの三角ボックスに使用している学校を見かけたことがありました。 ・生徒の配置が工夫されていた。Tのポジションも生徒に近すぎず遠すぎずよかった。自信をもって作業に取り組んでいた。 ・自分たちの仕事の対価としてお金をもらう場面がもっとあればいいかなと感じたが難しいかなという感じも思った。 ・これから特に求められる能力の育成（ICT活用能力）のために大事な学習と感じた。 ・会計でお客さんを相手にしているときにもっと元気に！ ・場に応じた対応ができるように教師の声掛けが上手であった。 ・静かにまた和やかな雰囲気のもと自らの仕事に集中して取り組んでいました。ものづくりにおけるひとつの理想の姿を感じました。	・体育館清掃では、初日のためか生徒同士の声の掛け合いが少なく感じた。 ・自分の作業が終わった後に周りを見てやれることを見つけられたらいいなと思った。 ・先生からアドバイスを受けたときの姿勢や態度が気になった。 ・農産から依頼された作業ということで他の科との連携が図られ良い取り組みだったと感じた。 ・指導にあたっている教員が全体の様子（作業・生徒）を把握しきめ細かく声をかけていた。 ・1年生が普段以上に興味をもって取り組んでいた。

生活科学科 縫製デザイン班 学習指導案

日 時 令和6年7月8日(月) 10:00～12:30

対 象 生活科学科縫製デザイン班 2年生3名、3年生2名

場 所 織りもの実習室・縫製実習室

指導者 沼崎 悠華(T1) 高橋 勝子(T2)

1 題材名

異素材を組み合わせた製品製作「裂き織り巾着」

2 題材の目標

- (1) 職業用ミシンの正しい扱い方を知り、製品製作の基礎的な知識と技術を身につけることができる。(知識・技術)
- (2) 手順書どおりに印付け、裁断、縫い合わせができていないか確認しながら作業することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 裂き織り巾着の製作に関心をもち、正確かつ丁寧に作業をしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

3 題材設定の理由

(1) 生徒について

本学習グループは生活科学科2年の男子2名、女子1名と、3年の女子2名の計5名で構成している。そのうち、本題材である「裂き織り巾着」は2年生3名を対象としている。障がい程度はそれぞれ違いがあるものの、3名とも一斉指導での指示を概ね理解し作業や課題に取り組むことが可能である。裂き織りの作業や職業用ミシンを使用しての製品製作が好きで、どの作業にも意欲的に取り組もうとする生徒たちである。また、6月に実施した就業体験実習をとおして、自分の成果や課題に気づき、働くことについて少しずつ理解を深めている。

2年生3名は4月から縫製デザイン班に所属し、裂き織りや製品製作で用いる道具の名称や使用方法、作業の手順などを学び、少しずつ基礎的な知識と技術を身につけてきている。また、製品ごとに目標製作個数を話し合って設定し、目標達成に向けて意欲的に製品製作に取り組んでいる。その一方で、正確な作業を行うことに課題が見られる。報告や確認が必要な場面で、自分で勝手に判断をして進めたり、曖昧なまま作業を進めてしまったりする生徒や、手順書と自分の作業の出来映えとを見比べて判断し、報告や相談をすることに課題がある生徒もいる。そこで5月下旬に、2年生3名に「正確さ」に関するアンケートを実施したところ、3名とも「(自分は) 正確に作業をすることができる」と回答した。このことから、生徒が考える「正確さ」と、就労を見据えて教師が生徒に達成してほしいと考える「正確さ」との間には差があると考えられる。どのような作業が「正確」なのか、また正確な作業を行うために必要な報告や相談の場面はどこか、どのように判断して報告するかについて、生徒と教師が共通理解を図り、判断が必要な場面ではその「基準」を明確に示すことが必要であると考えられる。

(2) 題材について

縫製デザイン班では、年間をとおして「裂き織り」と「職業用ミシンを用いた製品製作」の作業に取り組んでいる。

2年生3名は、4月から「裂き織り」では機上げや織り上げの工程を含めた、織りに関する基本的な知識や技術について学習してきた。また、「職業用ミシンを用いた製品製作」では職業用ミシンの扱い方を学習し、これまでに「しおり」、「コースター」、「名刺入れ」の製作に取り組んできた。4月下旬には「校内ミシン検定」を実施し、検定に向けた取り組みをとおして、正確に職業用ミシンを扱うことができるように取り組んできた。

3名とも1年生のプレ科ではほぼ同型の「巾着」の製作に取り組んでおり、作業工程が似ているため、概ね見通しをもって作業に取り組むことができると考えられる。しかし、本題材の

「裂き織り巾着」で初めて、布と織り布という異素材を組み合わせて製作する題材に取り組む。それぞれの布の特性を理解し、まち針の留め方やアイロンのかけ方などの違いを意識して作業に取り組むことが求められる。また、布の特性に合わせ、確認や相談をしながら作業を進め、必要に応じて作業の手順を見直すことも必要である。

指導にあたっては、生徒の「布巾着」製作の経験を生かしながら、異素材を組み合わせて製作するときの留意点を整理し、共通理解を図りながら正確に作業を進めることができるよう支援したい。

(3) 支援について

題材の目標を達成するため、具体的には以下の点に留意して指導・支援を行う。

(知識・技術)

- ・作業の手順やポイントを正しく理解することができるよう、教師が模範を示したり段階見本を提示したりしながら説明をする。
- ・これまでに学んだ知識については、生徒が自分自身で確認することができるよう、問いかけや声掛けをしたり、手順書を確認するよう促したりする。

(思考・判断・表現)

- ・生徒自身で作業のポイントや確認が必要な場面を判断することができるよう、手順書の内容を整理したり、進行チェック表を用いたりする。
- ・手順書と自分の作業の出来映えを見比べて判断することができるよう、段階見本に確認するポイントを視覚的に示したり、報告を受ける前に声掛けをしたりする。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・生徒一人一人が見通しをもち、目標達成に向けて作業に取り組むことができるよう、作業前に個人目標や目標製作個数、担当する作業工程を確認する。
- ・製品を手にとりてくださるお客様の視点に立ち、正確かつ丁寧に作業を進めることができるよう、必要に応じて声掛けをする。

4 題材の指導計画

※ここでは、製品製作「裂き織り巾着」のみを取り上げた計画を示す。

次	時	学 習 活 動	知・技	態度	準
1	0.5	オリエンテーション			○
2	4	裂き織り巾着（裏表切り替え） 1 個目の製作	○	○	
3	20.5	裂き織り巾着（裏表切り替え） 流れ作業 裂き織り巾着（裏表一体型） 1 個目を製作後、流れ作業	○	○	○

5 題材の評価規準と評価の方法

*家政Ⅱ＜縫製デザイン班＞

※ここでは、手芸「異素材を組み合わせた製品製作」（2 年）の内容のみを取り上げている。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (十分満足できる)	職業用ミシンの正しい扱い方を知り、製品製作の基礎的な知識と技術を身につけている。	手順書どおりに印付け、裁断、縫い合わせができていて自分で確認しながら作業することができる。	裂き織り巾着の製作に関心をもち、また自分の担当する工程に責任をもち、最後まで正確かつ丁寧に作業をしようとしている。
B (概ね満足できる)	職業用ミシンの正しい扱い方を知り、製品製作の基礎的な知識と技術を概ね身につけている。	教師からの声掛けで、手順書どおりに印付け、裁断、縫い合わせができていて自分で確認することができる。	裂き織り巾着の製作に関心をもち、自分の担当する工程の作業に取り組んでいる。

C (努力を要する)	常時教師や仲間から指示や支援を受けながら、職業用ミシンを用いた製品製作に取り組んでいる。	手順書どおりに印付け、裁断、縫い合わせができていないか、教師と一緒に確認することができる。	裂き織り巾着の製作に対する関心や、正確かつ丁寧に作業をしようとする意欲に課題がある。
評価の方法	・実技による活動観察 ・日誌の記述内容	・実技による活動観察 ・報告や相談の内容 ・日誌の記述内容	・活動観察 ・発言や質問の有無、内容 ・日誌の記述内容

6 題材に関する生徒の実態と支援

生徒	実 態			支援
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A	・繰り返し取り組むことで、知識や技術を概ね身につけることができる。	・報告や確認が必要な場面でも、自分で勝手に判断したり、曖昧な記憶に頼ったりして作業を進めてしまうことがある。 ・手順書と自分の作業の出来映えとを見比べて報告や相談をすることが難しい。 ・教師からの指示やまわりの様子を見てから行動するため、行動が遅れることが多い。	・気持ちを安定させて作業に取り組むことができる。 ・教師の声掛けで、見通しをもって作業に取り組むことができるようになってきている。 ・教師の声掛けで、メモをとりながら指示や助言を聞くことができる。	・基礎的な知識と技術を定着させることができるよう、正しい道具の扱い方や作業のポイントを確認する機会を意図的に設ける。 (知技) ・報告や確認が必要な場面が分かるよう、1 個目の製品製作の際に、手順書や段階見本を用いたり、教師の模範を示したりしながら確認する。(思判表) ・見通しをもって作業に取り組むことができるよう、作業に入る前に個別に今日の作業内容や時間の目安を確認する。(主体)

7 本時の指導（2/4 時間）

（1）本時の目標

- ①職業用ミシンなどの裁縫道具を正しく扱い、作業の手順やポイントを理解して正確に製作を進めることができる。
(知識・技術)
- ②本時の作業工程における、作業のポイントや確認が必要な場面を理解し、必要な場面で報告や相談をすることができる。
- ③手順書と自分の作業の出来映えとを見比べて判断し、報告や相談をすることができる。
(思考・判断・表現)

（2）各目標に対する個別の目標と手立て

生徒	実 態		手立て
	知識・技術	思考・判断・表現	
A	・作業の手順やポイントを概ね理解することができる。 ・布と織り布を型紙に合わせて置き、まち針で留めることができる。(手順書 9 番) ・正確に 2 枚の布を合わせてまち針で留め、10mm の縫い代で曲線縫いをすることができる。 (手順書 11 番)	・本時の作業工程における、作業のポイントを自分の言葉で説明することができる。 ・手順書と自分の作業の出来映えを見比べて、必要な場面で教師に報告をすることができる。	・「型紙に合わせる」「2 枚の布を合わせる」位置が分かるよう、段階見本を示しながら確認をする。 (知技) ・作業のポイントについて理解を深めることができるよう、手順の説明をする際、作業のポイントを関連付けながら確認する。 ・自分の作業の出来映えを振り返ってから報告をするよう、必要に応じて声掛けをする。(思判表)

（3）評価の方法

(知識・技術)

- ・実技による活動観察（正確に作業を進めることができるか）

- ・日誌の記述内容（作業の手順やポイントを理解しているか）

※日誌点検時の発問への回答も含める。

（思考・判断・表現）

- ・実技による活動観察（必要な場面で、教師に報告や確認をすることができたか）
- ・報告や確認の内容（手順書と自分の作業の出来映えを見比べて判断し、報告できたか）
- ・日誌の記述内容（作業のポイントを自分の言葉で説明することができたか）

※手順書やメモ帳への書き込みの内容も含める。

（４）本時の展開 ※本題材「裂き織り巾着」は11:05より実施する。

時間	学習内容・学習活動	指導・支援上の留意点	評価
～10:00	○日誌・ホワイトボード記入	・ボードを見て、本時の流れや作業内容を自分で確認するとともに、前時の課題点を元に本時の個人目標を設定するよう声掛けをする。(T1)	【知技】
10:00	○朝礼（縫製実習室） ・1年生と合同で朝礼を行う。 ・本時の流れについて確認する。	(A) 個人目標が抽象的な場合は、織りの長さや製作個数などの数値を取り上げながら、具体的な目標を設定できるよう声掛けをする。(T1) ・身だしなみや姿勢、場の広さに合わせた声の大きさを確認し、必要に応じて声掛けをする。(T1・T2) ・7月目標や「裂き織り巾着を1つ製作するまでにどれくらいの時間がかかるか」を意識して、作業に取り組むよう声掛けをする。(T1)	
10:10	○作業開始（織りもの実習室） ・3年生は、製品製作（トートバッグ）に取り組む。 【裂き織り（2年生）：平織り】 ・機上げ ・織り ・織り上げ	・正確に織り進めることができるよう、生徒に「5cm確認」を依頼された際は、以下5点に留意して確認を行う。(T1・T2) *5cm織った地点で教師に「5cm確認」の依頼をすることができたか。 *緯糸が出ている方向と板を踏んでいる足とが合っているか。 *耳の大きさはそろっているか。 *継ぎ目がきれいになっているか。 *一定の巾を維持して織ることができているか。 ・正確に機上げの作業を進めることができるよう、手順書のマークに注目するよう声掛けをしたり、適宜様子観察を行ったりする。(T1)	
11:05	・2年生は、織りで使った道具を片付け、製品製作に必要な道具の準備を行う。 ・3年生は裂き織り（巾が広い平織り）に取り組む。 【製品製作（2年生）：裂き織り巾着】 ①布と織り布の縫い合わせ（2枚） 手順書9番 	・班長が後半の作業に入るよう全体に声掛けをする。 ・前時までの作業内容を振り返り、本時の作業目標を確認する。(T1) (A) 本時の作業がどこからかが分からない場合には、手順書と実物とを照らし合わせて確認するよう声掛けをする。(T1) ・「型紙の中心線に合わせる」「織り布と別布をまち針で留める」の工程については、教師が模範を示しながら作業の手順とポイントを説明する。(T1) (A) 手順書の「まち針で留める位置」に○をつけるなど、必要に応じてメモをとるように促す。(T1) ・まち針で留め終わったら、教師に報告をするよう声掛けをする。(T1) (A) まち針留めの報告時、別布と織り布の両方を留められているか等、作業のポイントを自分で確認してから報告するよう、報告の内容に応じて促す。(T1・T2) ・「経糸4本目をミシンで縫う」工程について、織り布と別布のバランスを見て、状況によっては4本目以外を縫う場合もあることを確認し、迷ったときには教師に	【知技】 【知技】 【思判表】

<手順書9番：報告時に確認するポイント>

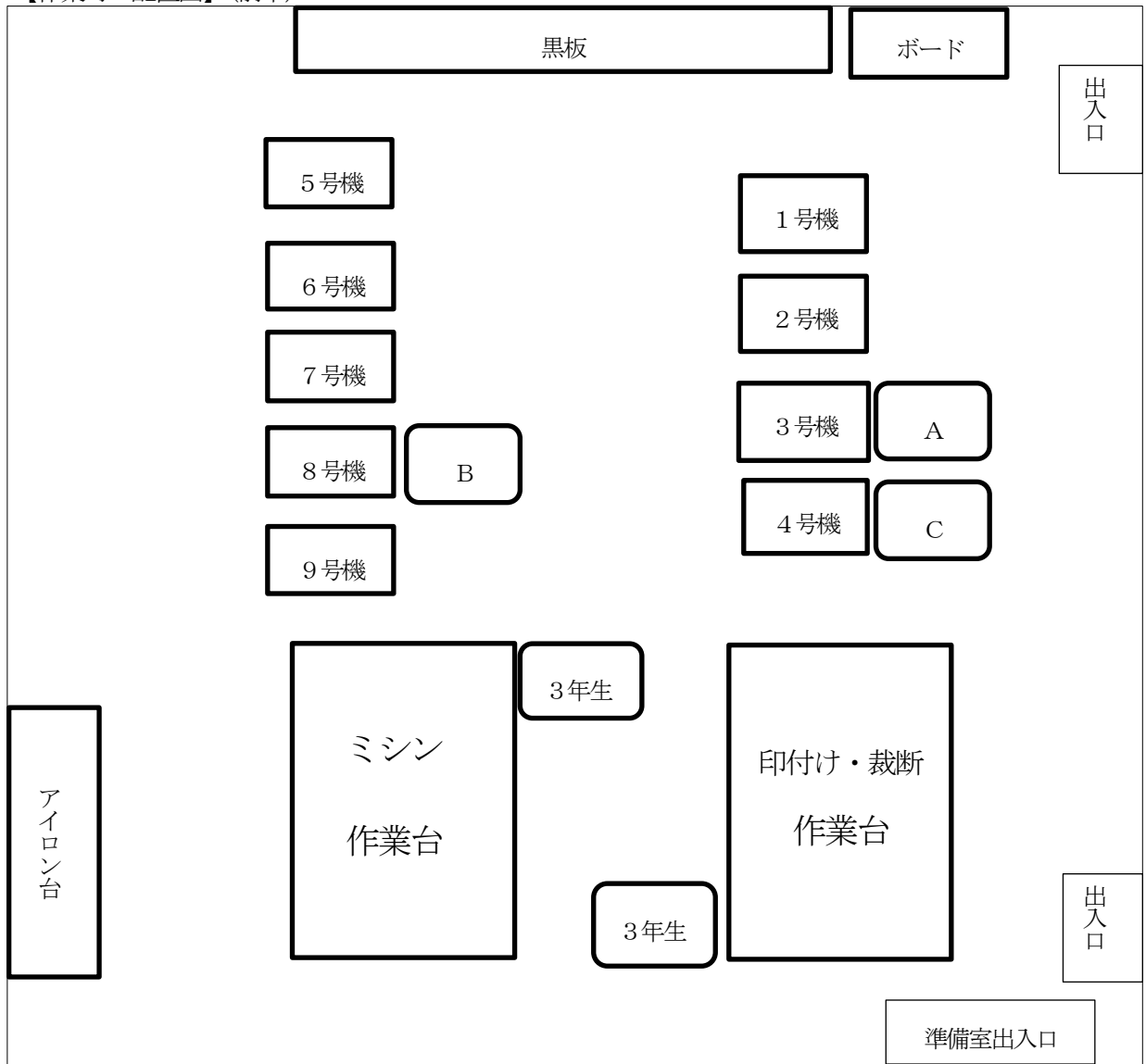
- ・裏布と別布の縫い合わせ部分が、型紙の中心線と一致しているか。
- ・織り布が一番上になっているか。
- ・まち針で別布と織り布の両方を留めることができているか。裏がきれいになっているか。
- ・別布と織り布の大きさに差がある場合、中心をとって合わせることでできているか。
- ・経糸4本目もしくは適切な位置で縫うことができているか（裏布からミシンが落ちているか）。
- ・ミシン糸の色を経糸の色に合せているか。

		相談をするよう伝える。 (T1)	
11:20	②ひも通しの部分と開け口の印付け 手順書 10 番	・段階見本を用いながら、作業の手順とポイントを説明する。(T1)	【知技】 【思判表】
11:25	③2枚の縫い合わせ (一周曲線縫い) 手順書 11 番 	・教師が模範を示しながら、作業の手順とポイントを説明する。(T1) (A) 作業のポイントなど、必要に応じてメモをとるように促す。(T1) ・2枚を中表に合わせてまち針やクリップで留め終わったら、教師に報告をするよう声掛けをする。(T1) (A) 必要に応じて、報告の際、自分の作業の出来映えがどうだったかを尋ねたり、手順書や段階見本と見比べ、判断してから報告をするように促したりする。(T1・T2)	【知技】 【思判表】
11:40	④縫い代を開いてアイロンかけ 手順書 12 番 ⑤反対側のアイロンかけ 手順書 13 番 ⑥ひっくり返してアイロンかけ 手順書 14 番	・段階見本を用いながら、作業の手順とポイントを説明する。(T1) ・3名とも、④⑤⑥までの工程を時間内に完了することができた場合は、次の「開け口縫い」の工程について、段階見本を用いながら作業の手順を説明する。作業速度に差がある場合は、⑥までの工程を終えた生徒に、流れ作業の準備を進めるよう声掛けをする。(T1)	【知技】 【思判表】
11:55	○片付け ○清掃 (織りもの実習室) ○日誌記入	・班長が作業終了の声掛けをする。 ・自分から進んで清掃に取り組んだり、声を掛け合い協力して清掃をしたりすることができるように見守りながら、一緒に清掃をする。 (T1・T2) (A) 必要に応じて、まだ先輩や仲間がやっていなかったり、手が足りていなかったりする仕事がないか確認するよう声掛けをする。(T1) ・教師から発問を交えながら本時の振り返りを行う。 (T1・T2) (A) 本時の作業のポイントにかかわる発問を行い、必要に応じて手順書をもとに作業のポイントについて確認する。(T1・T2) ・生徒の自己評価と教師の評価の差が大きい項目があった際は、より正確な自己評価ができるよう、なぜそのように評価したか生徒に尋ねたり、教師から見た客観的な様子を伝えたりする。(T1・T2) ・次時の作業に生かすことができるよう、改善点について「(今後)何をどのように変えていくのか」を尋ねる。 (T1・T2) ・本時を振り返り、良かったことや改善点について全体で確認する。(T1・T2)	【知技】 【思判表】
12:20	○終礼 (縫製実習室) ・1年生と合同で終礼を行う。 ・本時の振り返りを行うとともに、次時の見通しをもつ。		
12:30	○終了		

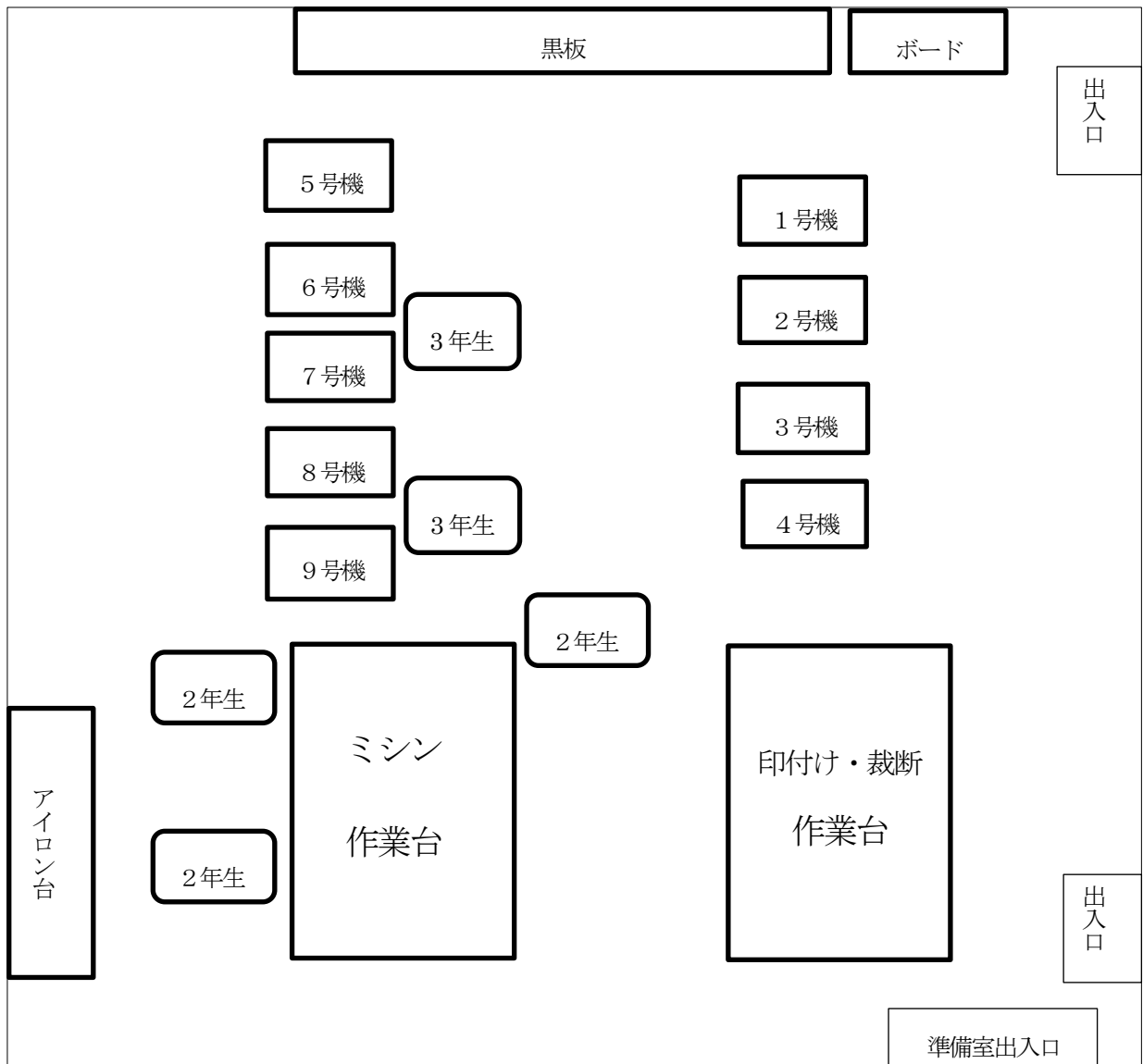
(5) 評価

- ①職業用ミシンなどの裁縫道具を正しく扱い、作業の手順やポイントを理解して正確に製作を進めることができたか。
(知識・技術)
- ②本時の作業工程における、作業のポイントや確認が必要な場面を理解し、必要な場面で報告や相談をすることができたか。
- ③手順書と自分の作業の出来映えを見比べて判断し、報告や相談をすることができたか。
(思考・判断・表現)

【作業時の配置図】（前半）



【作業時の配置図】（後半）



※前半、後半ともに製品製作時の座席は指定していない。生徒たちがミシンの種類やそのときの状況、作業内容に合わせて判断する。T1は全体を見ながら、対象生徒に支援がしやすい位置で作業を行う。T2は生徒の様子を見ながら、生徒の間で作業を行う。

農産技術科専門教科「農業Ⅱ」学習指導案

日 時 令和6年7月16日(火)
10:00～12:30
対 象 農産技術科2年4名
農産技術科3年3名
場 所 農業実習室、第一農場
指導者 高橋 恵子(T1)
森川 龍誠(T2) 白樫 憲一(T3)

1 題材名

トマトの管理作業

2 題材の目標

- 育てる野菜の名前や道具の使い方が分かり、正しい手順でトマトの管理をすることができる。
(知識・技術)
- 作業方法を理解し、作業時の適切な報告・相談をすることができる。
(思考・判断・表現)
- 仲間と声を掛け合いながら、意欲的に管理作業に取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 題材の指導計画

本時

次	時	学 習 活 動	知・技	思考	主
1	1	トマトの誘引、芽かきの仕方について(事前学習)	○		○
2	3	トマトの誘引、芽かき①	○	○	○
3	3	トマトの誘引、芽かき②	○	○	○
4	1	まとめ、確認テスト(事後学習)	○		○

4 題材の評価規準と評価の方法

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (十分満足できる)	野菜の名前、正しい手順など基礎的な知識と技術をほぼ身につけ、活用することができる。	正確に作業するために、相談や質問をすることができ、必要に応じてメモを残すなどの工夫をすることができる。	作業内容を理解し、準備や片付けでは、仲間と声を掛け合いながら、積極的に取り組むことができる。
B (概ね満足できる)	野菜の名前、正しい手順など基礎的な知識と技術を概ね理解し、身につけることができる。	野菜に対する関心をもち正確に作業するための相談をしようとしている。	作業内容を概ね理解し、準備や片付けでは、仲間と協力して取り組むことができる。
C (努力を要する)	個別に確認の時間を設けるなどの支援を受けて、野菜の名前、正しい手順など基礎的な知識と技術の習得ができる。	個別に確認や促しの機会を設けることで、野菜に対する関心をもち、正確に作業するための相談をしようとする。ことができる。	個別に確認の時間を設けるなどの支援を受けて、作業内容を再確認し、自分から準備や片付けをすることができる。
評価の方法	・実技による観察 ・日誌の記述 ・確認テスト	・活動観察 ・日誌の記述	・質問確認の有無 ・作業完了後の芽かき、誘引、人工授粉の確認

5 題材に関する生徒の実態と支援

生徒	実 態			支援
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
D	・繰り返し作業に取り組むことで、知識や技術を概ね身につけることができる。	・全体への指示後、自分で考えて道具の準備をしたり、すぐに作業に取り組むことが難しい。	・周囲の様子を見てから動き出すことが多く、他の生徒と同じ仕事を行おうとする。	・全体指導後、個別に生徒が理解しやすいよう、ポイントを絞って、手本を示しながら説明する。 ・分からないことは、確認、相談するように全体だけではなく、個別にも確認をする。
E	・雑に作業してしまい、誘引時、トマトの茎を折ってしまったことがある。	・指示した後に、理解しているにもかかわらず、自信がないため、確認などをすぐにする傾向がある。	・苦手な活動だと、片手で作業したり、作業に取り組めなかったりするが、苦手なことを自分から話す時もある。	・できたところをほめるなど、声掛けで、自信をもたせ、意欲的に取り組めるようにする。

6 本時の指導 (5/8 時間)

(1) 本時の目標

- 芽かき、誘引の目的や作業方法を理解し、正確に作業することができる。(知識・技術)
- 正確に作業をするために相談や確認をし、メモを活用することができる。
(思考・判断・表現)
- ペアの仲間と声を掛け合いながら、意欲的に管理作業に取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 各目標に対する個別の目標と手立て

生徒	実 態			手立て
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
D	・芽かき、誘引の作業方法を理解し、正確に作業することができる。	・分からないことがある場合には、ペアの仲間や教師に相談や確認をすることができる。	・ペアの仲間と協力して、管理作業に取り組むことができる。	・言葉だけの説明ではなく、手本を示し、視覚的に作業手順を理解できるようにする。 ・実際の場面で生かせるよう、仲間とのかかわり方を、模範で示す。
E	・誘引のときは、特に優しくトマトの茎に触れ、両手で作業する。	・芽かきする芽を、正しく判断し、とることができる。	・人工授粉の時には、ペアになった人と一緒に確認しながら、トマトーンを吹きかける花を確認する。	・取り組もうとする意欲を評価し、自信をもって作業できるように声掛けをする。

(3) 評価の方法

(知識・技術)

- ・活動観察 (正しく道具を使用できているか)

(思考・判断・表現)

- ・活動観察 (メモの活用、自分から報告・相談ができていないか)
- ・日誌の記述 (授業の内容・ポイントを理解できているか)

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・活動観察 (仲間と協力して作業に取り組むことができたか)

(4) 本時の展開 ※天候や気温等の状況により、変更の可能性あり

時間	学習内容・学習活動	指導・支援上の留意点	評価
10:00	○日誌記入（週の目標） ○朝礼、挨拶 ○週の目標を確認する。 ○挨拶練習 ○本時の予定 ○第一農場へ移動	・目標が作業内容にふさわしくないときは、作業内容を確認して、目標を考え直すように促す。 ・目標を決める際、出たキーワードをすべて入れるのではなく、作業に必要なワードを厳選するよう声掛けする。	
10:15	○芽かき ・茎と葉の付け根から出てくるわき芽を摘み取る。 ・ペア同士でわき芽が残っていないか確認し合う。	・わき芽が残っていないか確認する。 ・どれが、わき芽なのかペアと確認してから摘み取る。 ・大きくなってしまったわき芽を見落とさないよう声掛けをする。 ・わき芽を取る際は、両手で作業することを確認する。	【思・判・表】 ・活動観察 ・仕上がりの確認
	○誘引 ・誘引が必要な苗は誘引ひもに巻く。 ・ペア同士で誘引ひもに巻きついているか確認し合う。	・茎や葉を折らないように、ゆっくりと丁寧に誘引するよう声掛けをする。 ・時計回りに巻きついているか確認する。 ・誘引ひもに巻きついているか確認し、教師に報告するよう促す。 ・誘引をする際は、優しく、両手で行うように声掛けをする。 ・紐を結ぶときには、適度なゆりみをもたせるように気を付けて結ぶ。	【思・判・表】 ・活動観察 ・仕上がりの確認
	○人工授粉 ・トマトの管理作業に必要な道具を準備する。 ・人工授粉が必要な花房にトマトトーン（植物生長調整剤）をかける。 ※11:00を目安に休憩をとる	・人工授粉が必要な花をペアになった生徒と確認する。→分からない場合は、教師に相談するよう促す。 ・花房だけにトマトトーンがかかるよう、花を手で覆うように指示する。このとき、指が開いてしまわないように気を付ける。 ・必要以上に花に触り、花を落とさないように声掛けをする。 ・トマトトーンをかける際に、指が開かないように声掛けをする。	【知・技】 ・活動観察 ・仕上がりの確認
11:50	○片付け ○日誌記入、終礼	・仲間と声を掛け合いながら、協力して安全に片付けを行うよう、声掛けをする。 ・本時の振り返りを具体的に記入するよう指示する。 ・作業内容についての振り返りと評価をする。	
12:25	○終礼、挨拶		

本時のポイント（見ていただきたいところ）

(5) 評価

- 芽かき、誘引、人工授粉の作業方法を理解し、正確に作業することができている。
(知識・技術)
- 正確に作業をするためにメモを活用し、相談や確認をすることができている。
(思考・判断・表現)
- 仲間と声を掛け合いながら、意欲的に管理作業に取り組むことができている。
(主体的に学習に取り組む態度)

加工生産科 木工班 学習指導案

日 時 令和6年7月5日（金）

10:00～12:30

対 象 加工生産科2年生3名、（3年生1名）

場 所 木工室

指導者 遠藤大河(T1) 中村昭彦(T2)

1 題材名

体験入学、峰南祭体験コーナーで使用する小箱の材料づくりをしよう

2 題材の目標

○小箱の材料づくりにかかわる道具や機械の使い方の基礎的な知識と技能を身につけることができる。
(知識・技術)

○教師の指示を聞いて仲間と話し合い、役割を分担して作業することができる。
(思考・判断・表現)

○小箱の材料づくりの作業に関心を持ち、意欲をもって作業に取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 題材設定の理由

(1) 生徒について

本学習は、加工生産科2年男子3名で取り組む。生徒達は社会的自立を目指し、就労を意識しながら授業に取り組んでいる。また、就業体験実習をとおり、自分の成果や課題に気づき、働くことについて少しずつ理解を深めている。

4月から製品づくりに必要な道具の名称や準備、使用方法などを学び、基礎的な知識と技術を身につけてきている。教師の指示を聞きながらメモを取り、活用したり、振り返りを行ったりすることで自分たちの働く力を日々高めているが、生徒同士での作業の役割決めや協力して作業する際に仲間に遠慮してしまい、一緒に作業に取り組むことの難しさを感じている様子がある。また、それぞれで準備や片付けを行っているが、仲間と声を掛け合いながら効率的に取り組むことが課題だと感じている。

※随時実習の状況によって3年生も授業に参加する可能性がある。

(2) 題材について

木工班の2年生は、4月からスツールづくりをとおり木工に関する基本的な知識と技術について学習している。

小箱の材料づくりではこれまでの授業で使うことがなかった工具や複数の機械を扱うことになるため、正しい使い方を学びながら安全に気をつけて作業していく必要がある。本題材は生徒同士で役割分担をしながら協力して工具や機械を安全かつ正確に操作する方法を身につけることを意識して行っている。

本時の作業では、生徒同士で進捗を確認しながら作業を進めることや、声を掛け合いながら安全に気をつけて機械を扱うことが求められる。また、説明を聞いて正確に作業すること、材料づくりの作業に責任をもって取り組むことの大切さに気付けるようにしたいと考える。

指導にあたっては、お互いに声を掛け合い、協力して作業することの大切さや、作業手順を理解して正確な作業ができるように支援を行いたい。

(3) 支援について

題材の目標を達成するため、具体的には以下の点に留意して指導・支援を行う。

(知識・技術)

・作業手順やポイントを正しく理解できるように、教師が模範を示しながら説明を行

う。

- ・これまでに学んだ知識に関しては、生徒が自分自身で確認出来るように、メモの確認を促し、声掛けを行う。

(思考・判断・表現)

- ・自分たちで考えながら作業ができるように必要に応じて声掛けを行う。
- ・役割を話し合う場面を設定し、それぞれが声掛けをしながら取り組めるように確認をする。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・朝礼前に個人目標を生徒と確認し、それぞれが目標達成に向けて取り組めるように声掛けをする。
- ・作業の開始と終了を確認し、活動に見通しをもてるようにする。

4 題材の指導計画

次	時	学 習 活 動	知・技	態度	進
1	1	オリエンテーション (小箱の材料づくりについて)	○		○
	2	材料づくりの準備をしよう① (必要な長さを測り、板に墨線を引く。)		○	○
2	3	材料づくりの準備をしよう② (墨線を引いた部分を、のこぎりで切断する。)			○
3	2	材料づくりの準備をしよう③ (機械の使い方について)	○		
	2	材料づくりをしよう① (製材)		○	○
4	3	材料づくりをしよう② (製材)	○	○	○
5	6	材料づくりをしよう③ (妻手の加工、長手の加工)		○	○
6	6	材料づくりをしよう④ (底板の加工)		○	○

5 題材の評価規準と評価の方法

* 加工生産科<木工班>

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (十分満足できる)	小箱の材料づくりに使用する道具や機械の使い方について基礎的な知識と技能を身につけることができる。	作業に必要な道具や機械が分かり、指示を聞いて、仲間と声を掛け合いながら作業をすることができる。	材料づくりの作業に関心を持ち、必要に応じて質問をしながら意欲をもって作業に取り組むことができる。
B (概ね満足できる)	小箱の材料づくりに使用する道具や機械の使い方について基礎的な知識と技能を概ね身につけることができる。	作業に必要な道具や機械が分かり、指示を聞いて仲間の様子をみながら作業をすることができる。	材料づくりの作業に関心を持ち、正確に作業に取り組むことができる。
C (努力を要する)	小箱の材料づくりに使用する道具や機械の使い方について基礎的な知識と技能の習得に課題がある。	作業に必要な道具や機械が分かり、仲間や教師から指示や支援を受けながら作業をすることができる。	材料づくりの作業への関心や正確に作業することに課題がある。
評価の方法	・活動観察 ・口頭記述	・活動観察 ・口頭記述	・質問確認の有無 ・作業終了後に確認

6 題材に関する生徒の実態と支援

生徒	実 態			支援
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
F	・細かい作業や正確な作業が得意である。興味のあることへの集中力は高く、教師の話を聞いて作業に取り組むことができる。	・指示の内容が分かっていないときや作業の進め方が分からないときに仲間や教師に自分から相談することに課題がある。	・関心、意欲があり、難しい作業にもあきらめずに取り組むことができる。 ・教師や仲間のアドバイスを受け入れることができる。できないときがある。	・指示の内容や作業の進め方が分からない様子が見られるときに、仲間や教師に相談するように声掛けを行う。 ・メモを振り返るように声掛けをし、具体的な場面を挙げて思い出せるようにする。

7 本時の指導（11～13/25 時間）

（1）本時の目標

- 機械や道具を安全に操作、使用して作業を進めることができる。（知識・技術）
- 教師の指示を聞いて仲間と話し合い、作業工程の確認や分担をして、作業を進めることができる。（思考・判断・表現）
- 分からないことがあったときに教師や仲間に相談することができる。（主体的に学習に取り組む態度）

（2）各目標に対する個別の目標と手立て

生徒	実 態			手立て
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
F	・機械や道具の使い方を確認しながら、正確に作業することができる。	・自分の役割を教師や仲間と確認したら、作業を進めることができる。	・分からないことがある場合には、教師や仲間に質問や相談をすることができる。	・機械や道具の安全な使い方を作業前に確認する。 ・指示や説明について、分からないことは、すぐに質問するよう全体、個人に確認をする。 ・自分で役割を選択する場面を設定し、自分で考えて行動できるように支援する。

（3）評価の方法

（知識・技術）

- ・活動の観察（ポイントを確認しながら取り組めたか）
- ・反省、日誌の記述

（思考・判断・表現）

- ・活動の観察（自分の役割を理解し、積極的に取り組めたか）
- ・反省、日誌の記述（日誌点検時の発問への回答も含める）

（主体的に学習に取り組む態度）

- ・活動の観察（分からないことがあった場合にすぐ質問や相談ができたか）

（4）本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導・支援上の留意点	評価
10:00	○朝礼 ・挨拶、声出し ○本時の学習について知る。	・姿勢、声の大きさ、礼の仕方などの様子を確認し、必要に応じて声掛けをして支援する。 ・本時の学習、流れを説明する。	

10:05	○作業の内容を確認する。 <確認内容> ①作業手順 ②作業のポイント、注意点 ○役割分担をし、作業を開始する。 ・加工（必要な長さに切断する） バンドソー ①荒木取りした板の片方の端を切断する。 ②幅 66mm の板に製材していくために余裕をもって 75mm の幅で切断する。 ・加工（基準面〈直角〉を作る） 手押しかな盤、スコヤ ①板の反りを確認し、丸印をつける。 ②木目を確認し、手押しかな盤をかける方向に矢印をつける。 ③第1基準面を作る。 ④第2基準面を作り、スコヤで直角になっているかを確認する。 ・加工（木材の幅の調整） 自動かな盤、ノギス ①手押しかな盤で作った基準面の反対の面を製材する。 ②幅が 66mm になるように調整しながら自動かな盤をかける。 ・加工（必要な厚さに切断する） バンドソー、罫引き ①罫引きを使って、板の半分のところに印をつける。 ②バンドソーを使って、板を半分に切断する。③自動かな盤がかかっている残りの1面をかける。 ・加工（かな盤がかかった面の調整） ①かな盤がかかった面をサンダー（240 番）を使用して整える。 ②サンダー（600 番）をかける。	・話し合いの様子を見守り、生徒の要請に応じて作業に参加する。 ※T1、T2 は生徒の要請により動く。 ※作業中も常に生徒の様子を確認する。 F ・話し合いへの参加、役割の理解等が難しい場合には全体に声掛けをしつつ、個別に参加の促しや確認等を行う。 ・作業の様子を見守り、必要に応じて確認、称賛、声掛けを行う。 F ・役割が分かり、自分で考えて動いているか、<u>分からない場合は周囲に確認をできているか</u>など様子を観察し、必要な場合のみ声掛けを行う。 F ・全体での確認後、すぐに作業を開始することが難しい場合には、質問や相談がないか確認をする。ある場合には、周囲の生徒に確認するよう助言する。	【思考・判断・表現】 様子の観察 発問に対する応答 【知識・技術】 作業中の木材の状況の確認 様子の観察 発問に対する応答 【主体的に学習に取り組む態度】 （様子の観察）
11:50	○後片付け ○清掃 ○日誌記入、日誌点検 ○黒板の記入（次時の作業内容） ○メモの記入 ・授業中に書けなかったことを記入する	・様子を見守り、必要に応じて声掛け、手伝いを行う。 F ・目標に対する反省ができているか確認しながら、声掛けをする。 ・日誌点検時に活動の様子を聞き取り、発問しながら反省を深める。 ・タイマーを設定し、時間を意識して振り返りを行えるようにする。 ・自己評価が適切にできているかを確認し、称賛、指導を行う。 ・日誌点検が終わった生徒から話し合って記入するように声掛けをする。	
12:25	○終礼 ・先生の話聞く ・挨拶	・本時の様子について気付いたこと、次時の作業について説明する。 ・姿勢、声の大きさ、礼の仕方などの様子を確認し、必要に応じて声掛けをして支援する。	

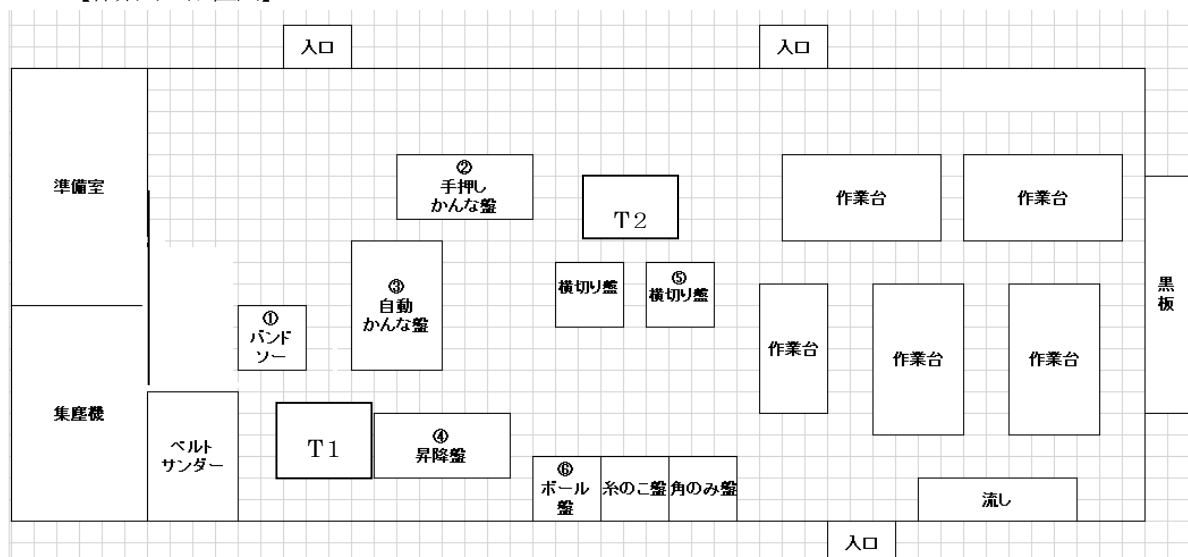
（５）評価

○今までの経験を生かし、安全、正確に作業ができていたか。

（知識・技術）

- 教師の指示を聞いて仲間と話し合いながら作業を進めることができていたか。
(思考・判断・表現)
- 分からないことは質問や相談をし、確認をしながら作業に取り組むことができたか。
(主体的に学習に取り組む態度)

【作業時の配置図】



番号	名称	写真	特長
①	バンドソー	 	带状の刃が回転して木を切断します。木取りをする際に使用します。
②	手押しかんな盤	 	製材の際の基準面(直角)を作ります。ここで正確に基準面を作る必要があります。スコヤ(直角を測定できる道具)を使って直角になっているかを確認します。

③	自動かんな盤		 手押しかんな盤で作った基準面の反対の面を製材します。ノギス(板の厚さを定規よりも正確に測れる道具)とセットで使用し、0.1 mm単位で調整して製材します。
---	--------	---	---

流通・サービス科 清掃班 学習指導案

日 時 令和6年9月17日(火) 10:00～12:30
 対 象 流通・サービス科2年生3名、3年生3名
 場 所 流通・サービス科3年生教室(全体集合場所)
 流通・サービス科2年生教室(清掃場所)
 加工生産科2年生教室(清掃場所)
 指導者 藤原崇行(T1) 黒川 浩(T2)
 小泉光則(T3)

1 題材名

定期清掃(流通・サービス科2年生教室の床清掃)

2 題材の目標

- 床清掃に関する清掃機器の名称や使い方、清掃手順、チーム清掃、マナーについての基礎的な知識と技術を身につける。(知識・技術)
- 身につけた基礎的な清掃時術を活用して、環境に応じた応用的な清掃をチームで行うことができる。(思考・判断・表現)
- 仲間と声を掛け合いながら、主体的に作業に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 題材について

清掃班では、校内清掃(床清掃、窓清掃)と外部清掃(依頼現場の清掃)をとおして清掃技術の向上を行っている。定期清掃については4月から2・3年生で混合チームを編成し、3年生が中心となって互いに学び合いながら取り組んでいる。

本題材の床清掃の取り組みでは、チームで役割分担をし、交代しながら繰り返し行うことで、基本的な技術の習得が定着することを意識して行っている。また、チーム内でお互いの作業進度や環境に合わせた作業内容を確認しながら進めるなど、チームの連携をより意識した清掃が求められる。様々な清掃場所を経験し、繰り返し行うことで自信をつけて、就労することに必要な主体的に行動できる力を身につけられるようにしたいと考える。

指導にあたっては、2・3年生がお互いに声を掛け合い、協力し、能率よく清掃する大切さ、清掃場所の環境や床の状態、作業進度に合わせた清掃ができるよう支援したい。

4 題材の指導計画

次	時	学 習 活 動	知・技	思考	主
1	3	2チーム編成、(床清掃【木床の性質を知る】チーム清掃の連携)	○		
2	3	2チーム編成、床清掃(木床 教室 汚水回収 チーム清掃の連携)		○	○
3	6	2チーム編成、床清掃(木床 教室 時間短縮 仕上りの重視) *実習期間		○	○

本時

5 題材の評価規準と評価の方法

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A (十分満足できる)	窓清掃、床清掃に関する清掃機器の名称や使い方、清掃手順、チーム清掃、マナーについての応用的な知識と技術を身につけ、後輩へ伝承できている。	基礎的な清掃手順を身につけた上で、状況、環境に応じた応用的な清掃がチームできている。	定期清掃に対してすすんで参加し、常に主体的に作業しようとしている。
B (概ね満足できる)	窓清掃、床清掃に関する清掃機器の名称や使い方、清掃手順、チーム清掃、マナーについての応用的な知識と技術を概ね身につけ、後輩へ伝承できている。	基礎的な清掃手順を身につけた上で、状況、環境に応じた応用的な清掃がチームで概ねできている。	定期清掃に対して自分の役割に気付き主体的に作業しようとしている。
C (努力を要する)	床清掃に関する清掃機器の名称や使い方、清掃手順、チーム清掃、マナーについての応用的な知識と技術の習得に課題がある。	基礎的な清掃手順を身につけた上で、状況、環境に応じた応用的な清掃ができているか確認や判断するために常に支援が必要である。	定期清掃に対して主体的に作業しようとする意欲に課題がある。
評価の方法	・実技による活動観察 ・日誌の記述内容	・チームでの活動観察 ・日誌の記述内容	・活動観察 ・質問や確認の有無、内容

6 題材に関する生徒の実態と支援

生徒	実 態			支援
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
G	・自分で確認したり、繰り返し取り組んだりすることで指示をされたことを正確に取り組むことができる。	・指示されたことは自らおおむね取り組むことができ、周りの仲間と協力して作業することができる。	・基本的なことや定着したことはスムーズに行うことができるが、自ら主体的に行動することに課題がある。	・状況に合わせてポイントを絞って手本を示したり、言葉でアドバイスしたりする。 ・分からないことは、質問や相談するように確認をする。

7 本時の指導 (3/9 時間)

(1) 本時の目標

- 各工程のポイントを理解し、正しい手順で作業することができる。 (知識・技術)
- 能率的な撤去・復元、床の状況に応じて、指示を聞きながら作業に取り組むことができる。 (思考・判断・表現)
- 作業手順や完了時間を確認し、仲間で役割分担をしながら取り組むことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

(2) 各目標に対する個別の目標と手立て

生徒	実 態			手立て
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
G	・自分が担当する清掃方法を理解し、正確に作業することができる。	・自分の役割が分かり、清掃場所の環境に合わせて作業を考えたり、仲間や教師に相談や確認しながら正確に作業したりすることができる。	・教師や仲間の指示や助言を受け入れてすぐに取り組むことができる。	・口頭だけの説明ではなく、視覚的に手本を示し、理解を促すようにする。 ・実際の場面で生かせるように、撤去と復元のポイントを助言する。 ・周りの人の作業進度を確認するよう促し、次の作業を考えながら取り組むように言葉掛けをする。

(3) 評価の方法

(知識・技術)

- ・活動観察（正しく道具を使用できているか）

(思考・判断・表現)

- ・活動観察（作業進度を確認しながら取り組めたか、指示を出しながら取り組めたか）
- ・日誌の記述（授業の内容・ポイントの理解ができているか）

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・活動観察（仲間と協力して作業に取り組むことができたか）
- ・発問への回答（撤去や復元を正確にできたか、各工程のポイントを意識できたか）

(4) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導・支援上の留意点	評価
10:00	・朝礼、挨拶 ・本時の学習内容と目標の確認 ①教室（木床）の清掃ポイント ○水がしみこみやすいので素早い作業をする。特に汚水回収を早くする。 ○ポリッシャーの動きを見ながら洗剤まきをする。 など ②時間内に作業を終了 作業スケジュールの確認をする。	・挨拶の声が小さいときは修正するように促す。 ・木床で注意するポイントを確認する。 ・スムーズな撤去と復元の方法、正確な配置についてチームごと確認する。 ・作業完了時刻を示し、時間内に作業を終了するようにする。	【知・技】
10:10	・各グループで清掃用具を準備し清掃場所に移動（流通3年教室→流通実習室1） - 作業開始 ○撤去 ・椅子や机等の配置を黒板にメモする。 ・教室の椅子や机等を廊下へ移動する。 ○準備 ・ヒーターのほこりを扇風機で除去する。 ・ロッカーの物がはみ出していないか確認をする。 ・掲示物が剥がれていないか、画びょうでしっかりと止まっているか確認する。 など ○清掃 ①洗剤まき ・担当場所の中央から洗剤まきを行い、枠取りをはじめて素早く丁寧に洗剤をまく。 ②手パッド ・ミニパットでポリッシャーの届かない場所を丁寧に擦る。 ③ポリッシャー ・隙間が空かないように一定のスピードで満遍なく汚れを落とす。 ④汚水回収 ・しっかりと汚水を集め、汚水を残さないよう	・T1は清掃用具が準備できているか確認する。 ・T2、T3は清掃場所の確認・準備する。 ・リーダーを中心に各グループで物の撤去作業や作業分担を決める。 ・物の配置について、正確にポイントを書き写すように声を掛ける。 ・撤去物の置き場や清掃用具の置き場所など、生徒から質問があった場合は一度チーム内で考えるように促す。 ・清掃順路について、チーム内で考えるように促しながら、相談があった場合は助言をする。 ・各工程のポイントを適宜発問しながら気付きを促す。 ・ポリッシャーの操作をする際は、周り仲間や壁にぶつからないようにするように助言する。	【思判表】 【知・技】 【主体】 【思判表】 【主体】

* 流通・サービス科2年教室で実施

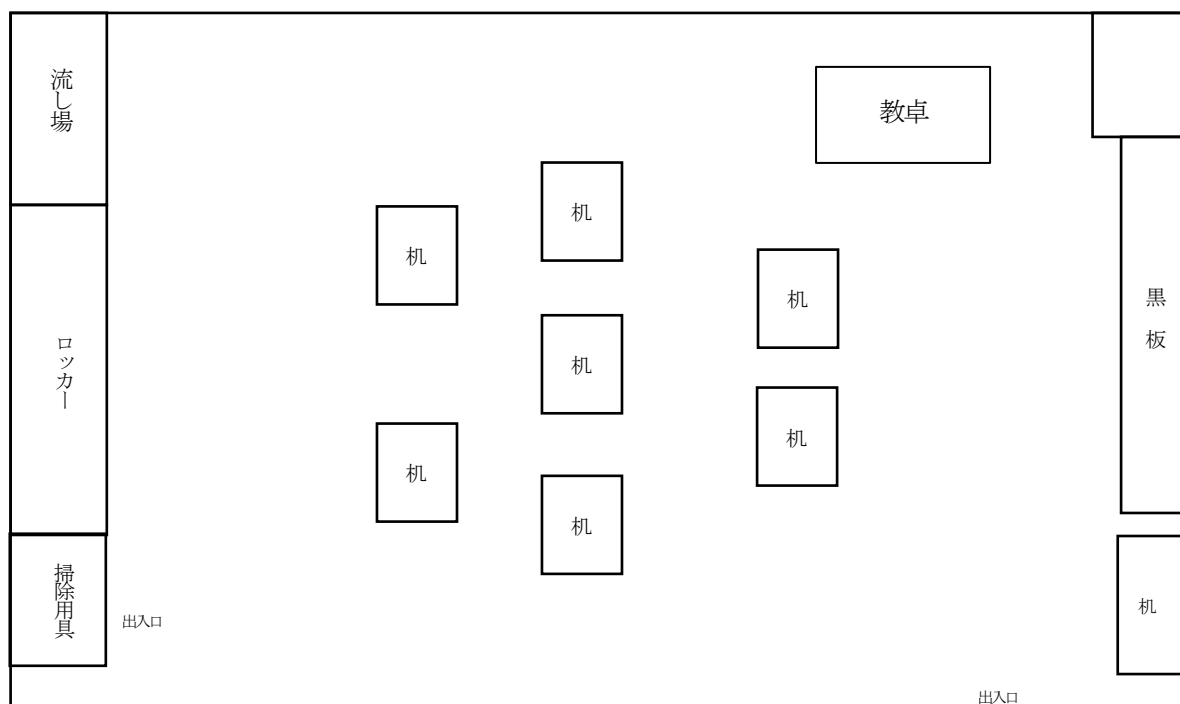
12 : 00	にする。 ⑤水拭き 1 回目 ・水拭き範囲を決めて水拭きを行い、2 回目の水拭きの生徒に範囲を伝える。 ⑥水拭き 2 回目 ・1 回目の水拭きの生徒に範囲を聞いて、水拭き 2 回目を行う。 ○片付け チーム内で相談して後片付けを行う。 ⑦水拭き乾燥（扇風機） ・乾燥中は、片付けの生徒と養生テープでごみを取る作業に分かれて行う。 ⑧ワックス塗布 ・ペアの生徒でワックスの手順に沿って塗る。 ⑨ワックス乾燥（扇風機） ・扇風機を出入口から送風し、乾燥する。 ○復元 ・元の場所に物品（机、椅子等）を配置する。	・ポリッシャー作業の進捗を見ながら素早く汚水を回収することや作業の動線上や背後に人や物品、壁がないか安全確認をするよう助言する。 ・拭き残しがある場所は白く残ることを助言し、チーム内で水拭き後に確認するように促す。 ・ワックス塗布の順路をチーム内で考えるように促し、分からないときには相談するように声掛けをする。 ・復元のポイントを再度確認するように声を掛ける。また、黒板（メモ）の配置図を確認しながら物品移動するように促す。	【知・技】 【思判表】 【思判表】 【主体】 【知・技】
12 : 10	○日誌記入 ・本時の活動を振り返り、成果と課題を記入する。 ○今日の活動の振り返りと今後の学習について ○挨拶	・本時の清掃のポイントについて、振り返りをしながら、日誌に記入するように声を掛ける。 ・振り返りに対して称賛や改善点について助言し、コメントも記入する。 ・チームでの作業について発問しながら振り返りを行い、本時に学んだことを次時に生かせるように意欲を高める。	【思判表】

（５）評価

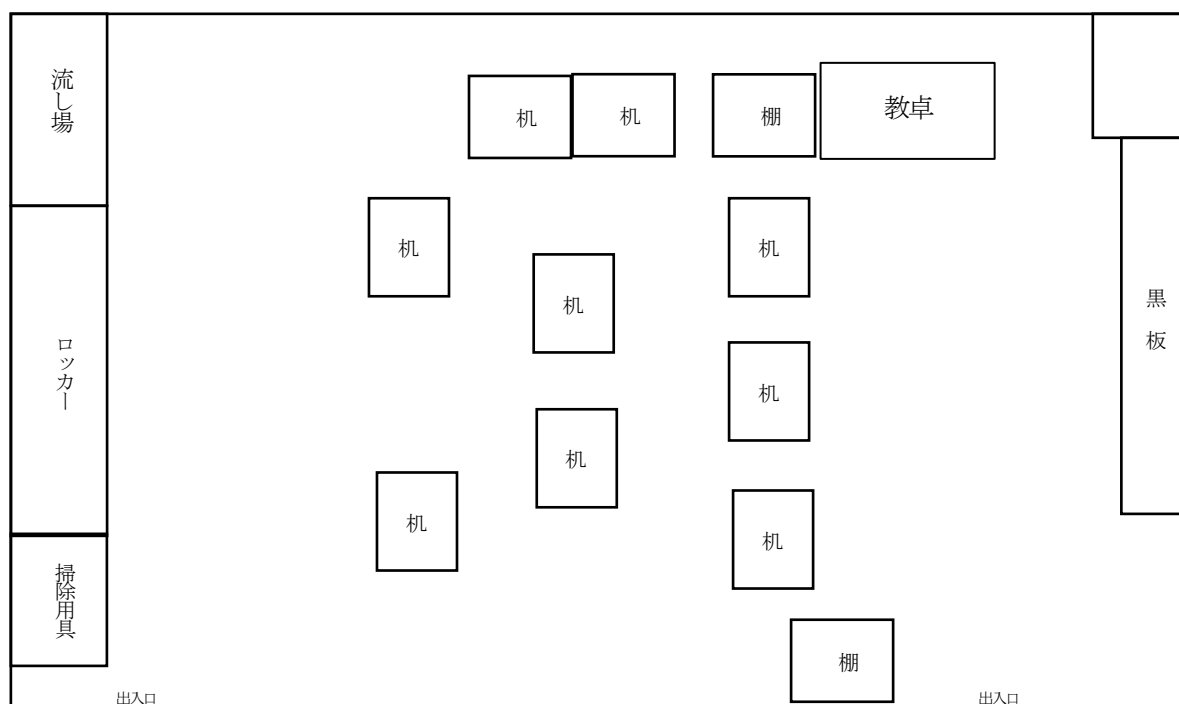
- 各工程のポイントや手順について理解し、正確に作業できていたか。（知識・技術）
- 作業の進捗を確認し、次の作業内容や指示内容について考えて行動することができたか。（思考・判断・表現）
- 時間を意識し、チームで役割分担をしながら取り組めていたか。（主体的に学習に取り組む態度）

【配置図】

流通・サービス科2年教室



加工生産科2年教室



実践集録取り扱いのお願い

- 研究の性質上「個人情報」に該当する内容が多く含まれています。本実践は、個人が特定されないように配慮して記述しております。
- 本実践の取り扱いにつきましては、「個人の詮索」「道聴塗説」等をなされないようにくれぐれもご配慮いただき、教育研究以外の利用は固くお断りします。

実践集録

「働く力」の育成を目指した実践

～専門教科や寄宿舎生活での取り組み～

発 行 令和7年3月31日
発 行 者 岩手県立盛岡峰南高等支援学校
校長 矢鳴 慶之
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11-152
TEL019-639-8515
製本・作成 岩手県立盛岡峰南高等支援学校 研究部